

現倫政1234（2013センター受験用）

県立広島高等学校3年生で、センター試験で現代社会、倫理、政治・経済を受験予定の人のために、最後の確認用として、センター試験の選択肢として出題された「正しい説明文」を中心に、センター試験リード文や一部創作も加えて、正誤判定の「正文」のみを集めた。1～620が現社と政経用、621～1234が倫理用である。現社で受験する人は少なくとも前半の620個、倫理・政経で受験する人は前後半あわせて1234個に目を通しておこう。

	小テーマ	説明
1	EU	EU加盟国のうち、イギリス、デンマーク、スウェーデンでは共通通貨ユーロは導入されていないが、スロベニアでは、旧社会主義国の中ではじめてユーロが導入された。
2	EU	EU加盟国は2007年、大統領や外務大臣の新設、民主的・効率的な組織運営、外交力の強化などを定めたリスボン条約に調印した。
3	EU	EU憲法条約が採択されたものの、いくつかの国の国民投票で批准が否決されたこともあり、まだ発効していない。
4	EU	EUには、加盟国国民による選挙で選出されるEU議会がすでに存在している。またEU大統領も選出された。
5	EU	EUの加盟国は当初の西ヨーロッパから東ヨーロッパや旧ソ連の共和国にも拡大している。なおイスラム教国のトルコは参加を希望しているがまだ実現していない。
6	EU	EUの共通通貨ユーロに参加するには、財政赤字や債務残高、物価上昇率などに関して厳しい条件がある。
7	EU	永世中立国スイスは、国連には加盟したがEUには加盟していない。
8	GDP	国内総生産(GDP)や国民総所得(GNI)は、ある期間における経済量を表したものであるから、フローの概念である。
9	GDP	国内総生産(GDP)や国民総所得(GNI)は、原則として市場で取り引きされた財やサービスを計上するため、家族による家事労働は計上されない。
10	GDP	国内総生産とは、一定期間に国内で生産された財・サービスの合計額から中間生産物を差し引いたものである。
11	GDP	国富とは、ある時点でその国が保有している住宅・工場・道路・港湾などの実物資産と、対外純資産との合計である。
12	GDP	国民純福祉(NNW)とは、国民総所得(GNI)から公害や自然の悪化などの分をマイナスし、家事労働やレジャーなどの余暇時間の分をプラスしたものである。
13	GDP	国民所得(NI)は、生産・分配・支出のそれぞれの側面から見て理論的には同額になる。これを「国民所得の三面等価の原則」という。
14	GDP	国民総所得(GNI)から中間生産物の価額と間接税を控除して補助金を加えると、国民所得(NI)を求めることができる。
15	GDP	国民総所得(GNI)は、国内総生産(GDP)に「海外からの純所得」を加えたものに等しい。
16	NGO	「アムネスティ・インターナショナル」は、「良心の囚人」の釈放や公正な裁判の実施、死刑制度や拷問などの人権侵害をなくすために活動しているNGOであり、1977年にノーベル平和賞を受賞した。
17	NGO	「国境なき医師団」は、戦争や自然災害による被災者と難民の救援活動を行っているNGOであり、1999年にノーベル平和賞を受賞した。
18	NGO	「バグウォッシュ会議」は、ラッセル＝アインシュタイン宣言を受けた科学者たちが核軍縮や平和問題について議論し、原子力時代の危険性を訴えたもので、1995年にノーベル平和賞を受賞した。
19	NGO	NGOの中には、国連の経済社会理事会や専門機関との協議資格をもつものがあり、さまざまな分野で国際機構との連携や協力を行っている。
20	NPO	ボランティア活動を担うNPO団体であっても、有給の専従スタッフを置くことは法律上差し支えない。NPOは非営利組織のことだが、スタッフに給与を支給することは、営利活動をするとは異なる。
21	ODA	ODAの援助先は、日本からはアジアが中心で、アメリカからはイラクなど中東が中心、フランスからはアフリカが中心など、旧植民地などの深い関係を持つ地域が多くなっている。
22	ODA	ODAは、二国間援助と国際機関などへの出資・拠出に大別され、二国間援助には、無償資金協力や技術協力からなる贈与、政府貸付等がある。
23	ODA	日本のODAは、自助努力支援を基本とし、健全な経済発展の実現に努めることなどを基本理念としている。
24	ODA	日本のODAは20世紀末には世界第1位であったが、財政改革の中でODA予算が削減されて現在は世界第5位である。対GNI比は0.17%で、その順位は総額よりもさらに下がる。なお国際的な目標は対GNI比0.7%である。
25	ODA	日本がODAを開始した背景には、他のアジア諸国に対する戦後の賠償問題がある。
26	ODA	ODAには、技術協力と無償資金援助のほか、返済の必要な借款(しゃっかん)も含まれる。
27	アメリカ	アメリカ合衆国大統領は、国家元首・行政の長・軍の最高司令官であるが、法案提出権や議院解散権を持たない。
28	アメリカ	アメリカ合衆国の連邦最高裁判所は、法律などが憲法に違反しているか否かを判断する違憲立法審査権を有しており、これは合衆国憲法に明文では記されていないが、判例として確立している。
29	アメリカ	アメリカ大統領選挙では、各政党の正副大統領候補者は州の予備選挙や党大会、さらに全国大会を経て選出され、州ごとに有権者により選出された大統領選挙人が大統領を選挙する。形式的には間接選挙であるが、実質的には国民による直接選挙である。
30	アメリカ	アメリカでは、大統領は連邦議会の解散権を持っておらず、連邦議会も大統領の不信任決議権を持たない。
31	アメリカ	アメリカでは、マイノリティに対して、社会的差別を是正するための積極的優遇措置がとられた。
32	アメリカ	アメリカの議会制度は、州ごとに選出される任期6年の上院と、小選挙区から選出される任期2年の下院からなる二院制である。
33	イギリス	イギリスでは、野党が影の内閣(シャドウキャビネット)を組織して、次の内閣にそなえる。
34	イギリス	イギリスでは、上院(貴族院)の司法機能が停止され最高法院に代わって新たに最高裁判所が設けられたが、かつての最高法院と同様に違憲審査権は持っていない。
35	外国為替	1970年代前半には、国際通貨制度の動揺に伴って、1960年代に比べて円高ドル安水準へと為替相場が変更された。(スミソニアン合意)
36	外国為替	1980年代に開催された先進5カ国蔵相・中央銀行総裁会議において、ドル売りの協調介入が合意され(プラザ合意)、急激な円高・ドル安が引き起こされた。
37	外国為替	1990年代中頃には、外国人投資家が日本への株式投資を拡大したことが原因で、円高ドル安が進行した。
38	外国為替	C国から他の国へ行われた株式投資によって得られた配当金がC国へ送金された場合、これはC国の所得収支に黒字として計上される。
39	外国為替	D国から他の国へと輸出が行われ、その代金がD国へと支払われた場合、これはD国の経常収支に黒字として計上される。
40	外国為替	円高になると日本では輸入デフレが発生し、海外有名ブランド品が値下がりがし、内外価格差が縮小する。
41	外国為替	円高になると日本の輸入量が増加し、日本からの輸出量が減少するので、貿易摩擦の解消につながる。
42	外国為替	円高により、日本から円借款を受けている発展途上国は、対外借入れの価値が下落し、債務負担が重くなる。
43	外国為替	円安は、輸入原料などの円建て価格を高くし、それを使う日本国内の生産者にとっては、コスト高の要因となる。
44	外国為替	通貨当局がドルを買って円を売ることは、円相場下落(円安)の要因となり、これは円高是正のためにとられる為替政策である。
45	外国為替	日本が高金利であると、資金は日本に円で預金されるので、ドル売り・円買いが行われ、円高・ドル安となる傾向がある。

	小テーマ	説明
46	外国為替	日本のエネルギーは原材料を輸入に依存しているので、円高に伴い電気料金・ガス料金が値下げされることがある。
47	外国為替	日本の物価上昇は円の価値を下げ、逆にドルの価値が上がるので、円売り・ドル買いが行われ、円安・ドル高になる傾向がある。
48	外国為替	日本の貿易収支の黒字幅が拡大すると(つまり輸出が増えたと)、円相場の上昇(円高)の要因となる。
49	外国為替	変動相場制において、A国の輸入が増加することは、A国通貨の為替相場を下落させる要因となる。
50	外国為替	変動相場制において、B国の為替相場が下落することは、B国からの輸出を増加させる要因となる。
51	科学技術	遺伝子組み換え食品の輸入は、日本では認められている。ただし、消費者の間には遺伝子組み換え食品に対する抵抗が強くある。
52	科学技術	遺伝子診断は禁止されてはいないが、予防医療や遺伝子治療を可能にする反面、難病や治療法のない病名の告知問題、就職や生命保険加入などの社会的差別の問題が発生することが懸念されている。
53	科学技術	日本では、加工食品に一定割合以上の遺伝子組み換え農産物を使用した場合には、それを表示する義務がある。
54	科学技術	日本では、ヒトES細胞を用いて再生医学の基礎研究を行うことが認められている。
55	科学技術	人の遺伝子情報(ヒトゲノム)を解読する国際プロジェクトが進められ、解読はすでに完了した。
56	環境	1992年に開催された国連環境開発会議(地球サミット)では、環境を重視する先進国と開発を重視する発展途上国との対立が表面化した。
57	環境	一部の地方自治体では、ゴミの排出量削減を目的として、ゴミの収集が有料化されている。
58	環境	一部の地方自治体ではレジ袋が有料化されているが、全国的な税としては導入されていない。
59	環境	一般家庭から排出される廃棄物よりも、生産活動の過程で発生する産業廃棄物のほうがはるかに多い。
60	環境	オゾン層の破壊は、植物の生育のみならず人間にも直接的な影響が懸念されているため、モントリオール議定書に基づいて、先進国では原因物質である特定フロンの使用が禁止された。
61	環境	温室効果ガスの削減目標を定めた京都議定書から、最大の二酸化炭素排出国であるアメリカは離脱したが、ロシアの批准により2005年に発効した。
62	環境	開発途上国での温室効果ガス排出削減を先進国が支援した場合、その分を自国の削減分に加えることができる「クリーン開発メカニズム」が採用されている。
63	環境	企業の中には、環境に配慮した経営を行っていることを認証する国際規格であるISO14000シリーズの認証を受けているものもある。
64	環境	京都議定書が発効まで時間を要したのは、二酸化炭素(Co2)排出量の多い国の一部が批准せず、発効のための要件が満たされなかったためである。
65	環境	グリーン購入法には、国や地方公共団体の機関が、再生原料を使用した製品などを優先的に購入すべきことが定められている。
66	環境	蛍光灯をLED(発光ダイオード照明)に替えることによって、消費電力量を少なくし、二酸化炭素の排出量を減少させることができる。
67	環境	国連環境開発会議が「持続可能な開発」をスローガンとして1992年に開催され、リオデジャネイロ宣言が採択され、行動計画であるアジェンダ21が策定された。
68	環境	国連人間環境会議が「かけがえのない地球」をスローガンとして1972年にストックホルムで開催され、人間環境宣言が出された。
69	環境	古紙を利用して教科書を作ることは、リサイクル活動である。
70	環境	2002年に持続可能な開発に関する世界サミットが開催され、ヨハネスブルク宣言が採択され、アジェンダ21の検証が行われた。
71	環境	四大公害裁判では、いずれも原告側が勝訴し、原因企業に対する損害賠償請求が認められた。
72	環境	自動車リサイクル法では、自動車を廃車する際にかかるリサイクル費用を自動車の所有者が負担することになっている。
73	環境	循環型社会形成推進基本法は、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り低減する社会の実現を目指している。
74	環境	食品リサイクル法が改正され、小売業や外食産業など業種ごとの再生利用数値目標が定められた。
75	環境	石油や石炭などの化石燃料に対して課税し二酸化炭素の排出量を抑制しようとする炭素税(環境税)は、日本でも2012年から導入された。
76	環境	地球温暖化防止や生物資源の保全など環境保護に関する行動計画をまとめるために、1992年にリオデジャネイロで地球サミットが開催された。
77	環境	ボールディングは、「宇宙船地球号」という言葉によって、地球資源の有限性を指摘し、生態系との調和を主張した。
78	環境	ワシントン条約は、絶滅のおそれのある野生動植物種の国際的な取引を規制するもので、日本もすでにこれを批准している。
79	企業	2000年代に制定された会社法により、株式会社の最低資本金制度は撤廃された。
80	企業	IT革命などによって、中小企業の中にも新製品を開発したり、新産業を切りひらいたりする企業が出ており、これらはベンチャー・ビジネスと呼ばれている。
81	企業	アウトソーシングとは、社内で行っていた業務を外部に委託して社員を減らし経費を節減することをいう。
82	企業	ある企業が配当を増額したり、画期的新製品を発売すると、その企業の株式を購入しようとする動きが活発化して、株価は上昇する。
83	企業	同じ産業に属する企業が合併することによって成立する「トラスト」は、市場に対する支配力が過大となる場合は制限される。
84	企業	会社法により新たに認められた「合同会社」は、有限責任の出資者によって構成される点は株式会社と同様だが、会社の運営方法を比較的自由に定めることができる点に特徴があり、大学の研究室を母体としたベンチャー企業などに適している。
85	企業	株式会社は、株式の発行によって資本を調達することができ、原則として、株主に対しては会社の利益から配当が支払われることになっている。
86	企業	株主総会の形骸化や総会屋との癒着などの不祥事が問題化し、コーポレート・ガバナンスのあり方が問われている。
87	企業	株主は、自己が株主である企業の負債について、自らの出資額の範囲を超えて責任を負う必要はない。これを「有限責任」という。企業の側から見ると、株主からの出資は返済の必要がない「自己資本」である。
88	企業	企業の中には、文化・芸術支援活動である「メセナ」や、社会貢献や慈善的寄付活動である「フィランソピー」に力を注ぐものもある。
89	企業	近年のわが国では、金融持株会社が銀行や証券会社など複数の金融機関を傘下に持ち経営統合をする動きが活発化している。
90	企業	現代の株式会社、特に大企業においては、株主が自ら会社の経営を担当せず専門の経営者の手にゆだねるという、所有と経営の分離(資本と経営の分離)がみられる。

	小テーマ	説明
91	企業	事業会社が他の企業の株式を保有することは従来からも認められていたが、1990年代の法改正によって、純粋持株会社の設立が可能となった。
92	企業	市場における自社の占有率を高める方法として、同業他社に対するM&A(合併・買収)がある。
93	企業	小規模な小売店の保護を目的として店舗面積で出店を規制する大規模小売店舗法は2000年に廃止され、代わって周辺の生活環境の保持についての配慮を求める大規模小売店舗立地法ができた。
94	企業	政策的な観点から、特定の株式会社については、外国人や外国法人の株式保有が制限されている。
95	企業	不況期に各企業が、コストの削減のために賃金を切り下げたり従業員を削減したりすることは、家計の所得を減少させて消費需要を抑制し、不況を長引かせる効果を持つ。
96	企業	不況期には個人消費や設備投資が鈍化するだけでなく、企業業績の悪化によって倒産も増加する。
97	企業	フランスの自動車メーカーが、日本での事業を効率よく展開するために、経営不振に陥っていた日本の自動車メーカーに出資し、経営陣の首脳を送り込んだ。これはM&A(合併・買収)の一例である。
98	企業	寡占化が進んだ産業で、不況期に価格の低下を防ぐために強制的に生産量を調整することは、その製品を購入する産業や消費者の負担を増して、不況を深刻化させる効果を持つ。
99	北朝鮮	韓国と北朝鮮は2000年に南北首脳会談を実現したが、その後は北朝鮮の核開発などにより関係改善は進んでいない。
100	北朝鮮	北朝鮮の核問題をめぐる6カ国協議は、北朝鮮が核施設を停止・封印する見返りに、エネルギー支援を行う共同文書を2007年に採択した。
101	キャリア	キャリアには、職業生活だけでなく余暇や趣味、家庭生活、学校生活も含まれる。また、経験と学習によって興味・適性・能力は広げたり高めたり伸ばしたりできるものであるから、キャリアは大きく変わる可能性がある。
102	キャリア	職業を選ぶ際には、学校で行われる適性検査の結果が一つの情報にはなるが、それが絶対的なものではない。
103	行政	「天下り」とは、高級官僚が職を辞して民間企業や特殊法人等のトップや幹部となることである。(地方自治体の首長になるのではない)。公務員の再就職には人事院の許可が必要だが、天下り自体がすべて禁止されてはいない。
104	行政	委任立法に関して、行政府が、事業免許や製造許可を行う際に、法律の枠内で、具体的な基準を作る余地を与えられる場合がある。委任立法が多いということは、国会よりも、内閣の関与ができる部分が大いということである。
105	行政	国土利用計画など国民生活に大きな影響を及ぼす計画でも、国会の議決なしに、内閣で決定することができる。
106	行政	内閣は、法律による委任がなければ、政令によって罰則を設けることはできない。
107	行政	わが国の官僚体制の欠点の一つに、各省庁が自分の領域に固執するセクショナリズム(縦割り行政)がある。
108	漁業	日本の漁業は、石油価格の上昇により、漁獲量が大きく減少する影響を受けた。現在の漁獲量世界一は中国である。
109	金融	1980年代末には、証券市場の発達に伴って直接金融が拡大し、企業は低コストで資金を調達することができるようになった。しかし現在でも、日本の金融は銀行を経由する間接金融のほうが中心である。
110	金融	金融市場において資金需要が増大すれば、金利は上昇し、貸借される資金量は増大する。
111	金融	市中銀行は、コール市場で相互に短期資金を融通し合うことができる。
112	金融	融資を行うが預金の受け入れはしない消費者金融やクレジットカード会社などの金融機関をノンバンクといい、資金の調達は銀行からの借入れや社債の発行などによって行っている。
113	金融	従来、日本では、企業が銀行からの融資で資金を調達する間接金融が中心であったが、近年、株式や社債の発行によって資金を調達する企業が増えてきている。
114	金融	1990年代の後半には、日本版ビッグバンと呼ばれる金融制度の改革が行われた。
115	軍縮	21世紀初頭の通常兵器取引において輸出額の上位5カ国には、国連安全保障理事会の常任理事国のいずれかが常に入っている。
116	軍縮	CTBTの採択時にNPTに加入していなかったインドとパキスタンは、CTBTにも反対し、同条約の採択後に核実験を実施した。
117	軍縮	NPTに加盟する非核保有国は、核兵器の保有を禁じられ、国際原子力機関(IAEA)の査察を受ける義務を負っている。NPTは、核保有国の核廃棄を求めているわけではない。
118	軍縮	世界中から核兵器の廃絶や核戦争の防止を目指す科学者がバグウォッシュ会議に集まり、核軍縮の方策を討議している。
119	軍縮	日本は化学兵器禁止条約を批准したので、第二次世界大戦で日本軍が中国に残した化学兵器の廃棄処理事業に取り組んでいる。
120	軍縮	日本は対人地雷全面禁止条約を批准し、自衛隊の保有する地雷も廃棄を完了したが、現在でも対人地雷を生産するアメリカ・ロシア・中国は、この条約に参加していない。
121	軍縮	初めての核兵器削減条約である1987年のINF全廃条約に続いて、核弾頭の廃棄を定めた第一次戦略兵器削減条約(START I)がアメリカとロシアなどの批准により1991年に発効した。
122	軍縮	湾岸戦争で使用された劣化ウラン弾による放射能被害が問題となったが、劣化ウラン弾を含む核兵器の使用を禁止する条約は締結されてはいない。
123	景気	景気停滞と物価上昇が同時に進行することをスタグフレーションといい、第一次石油危機後の1970年代半ば以降に深刻だった。
124	景気	不況期の金融政策として、中央銀行は市中銀行から有価証券を買い上げる買いオペレーションを行い、通貨量を増加させる。
125	景気	不況期の財政政策として、政府は減税を行い、家計や企業の持つ資金を増加させ、需要の減少を防ぐ。
126	景気	不況期の財政政策として、政府は公共事業の前倒しや追加発注を行い、財政支出を増加させて有効需要を創出する。
127	景気	不況期の財政政策として、政府は国債発行を増加させることにより、歳入の増加をはかる。
128	景気	物価の下落によって企業収益が悪化し、さらに不況が深刻になる連鎖を、デフレ・スパイラルという。
129	景気	好況期には消費や投資が増え、企業は生産拡大のために雇用を増やし、設備を拡張するが、物価は上昇する可能性がある。
130	経済史	1980年代中頃以降、民間主導の経済発展を加速させるため、日本国有鉄道、日本電信電話公社、日本専売公社の三公社が株式会社化され、株式が民間へ売却された。
131	経済史	1980年代においては、企業や金融機関などが東京圏に一層集中し、また三大都市圏の中で東京圏のみに大きな流入超過人口があるなど、「東京一極集中」の現象が見られた。
132	経済史	1980年代においては、民営の事業所や国内の金融機能などが東京圏に一層集中し、また三大都市圏の中で東京圏のみに大きな流入超過人口があったが、これらの現象は「東京一極集中」を表すものとされている。
133	経済史	アメリカの大恐慌の象徴的な現象の一つに、それまで投機ブームに乗って上昇を続けていたウォール街における株価の暴落がある。
134	経済史	高度経済成長期には、家庭用電気製品が普及し、消費生活は向上したが、他方で四大公害など大規模公害も発生した。
135	経済史	高度経済成長期には、規模の利益などが追求され、いわゆる重厚長大型の素材産業や装置産業が発達した。
136	経済史	高度経済成長期には、第一次産業の比重が低下し第二次産業の比重が高まり、第二次産業の中心も軽工業から重化学工業へ変化した。これらの現象は産業構造の高度化の一例である。(見出した学者2人の名からベティ・クラークの法則ともいう)

	小テーマ	説明
137	経済史	高度経済成長の要因としては、活発な民間設備投資、豊富で良質な労働力、技術革新による重化学工業の発達、豊富で安価な石油、固定為替相場などがあった。
138	経済史	老舗百貨店どうしの合併が行われるなど、小売業者の多くが業界再編の圧力を免れていない。
139	経済史	石油危機後に、第三次産業の比重が一層高まってきたが、この現象は経済のサービス化の一例とされている。
140	経済史	バブル崩壊後、景気回復のために政府はたびたび補正予算を編成し、巨額の公共事業を行ったり、減税を行ったりしたが、景気は回復せず、国債残高が急増した。
141	経済史	バブル崩壊後の1990年代後半に、企業のリストラクチャリングによる解雇が多く行われ、完全失業率が5%以上にまで上昇した。
142	経済史	バブル崩壊後の1990年代後半に、巨額の不良債権によって、自己資本比率が低下した銀行は、自己資本比率規制(BIS規制)をクリアするために貸し渋りを行った。
143	経済成長	名目経済成長率が正の値であっても、物価の上昇率がそれを上回っている場合には、経済活動の規模は実質的に前年よりも縮小していることになる。
144	経済理論	イギリスのリカードは、全体の生産量を増やすためには、各国が他国に比べて比較優位にある生産物の生産に特化(集中)すべきであると主張した。
145	経済理論	ケインズは、経済を拡大させるためには、実際に貨幣の支出を伴う需要(有効需要)を国全体で増やすことが重要だと考えた。
146	経済理論	シュンペーターは、非効率的な古いものが新しいものにとって代わられる「創造的破壊」の必要性を唱え、イノベーション(技術革新)こそが経済を成長させる最大の要因であると考えた。
147	経済理論	ドイツのリストは、発展が遅れている国内産業を保護・育成していくためには保護貿易政策が必要であると唱えた。
148	研究方法	KJ法とは、多くの意見やアイデアを集めて整理するものであり、1枚のカードに一つの内容を書き、それらをいくつかのグループに分けていく作業の中から、テーマの解決に役立つヒントを発見するものである。
149	研究方法	NDC(日本十進分類法)は、図書館での資料検索を容易に行うために利用できる。
150	研究方法	学生がレポート作成の際、インターネット上に掲載された論文を盗用する例があり、教育上の悪影響が指摘されている。
151	研究方法	ブレインストーミングとは、あるテーマについて、複数の人々が自由に意見やアイデアを話し合うもので、出された意見を批判・否定することはしないのがルールである。
152	研究方法	レファレンスサービスとは、資料や情報を図書・雑誌・新聞・電子情報などから探すための手伝いをする図書館のサービスをいう。
153	憲法改正	憲法改正における国民投票の手続きは、国民投票法で定められている。
154	憲法改正	国民投票法上、憲法改正の国民投票の資格は、国政選挙の選挙権年齢が満18歳以上に改正されるまで、満20歳以上の国民に認められる。
155	憲法改正	日本国憲法第96条は、日本国憲法改正の公布は、天皇が国民の名で行うと定めている。
156	憲法改正	日本国憲法第96条は、日本国憲法改正の発議には各議院の総議員の3分の2以上の賛成が必要であると定めている。
157	公害	1960年代には、公害問題が注目され、水俣病などの四大公害訴訟が相次いで起こされるとともに、公害対策基本法が制定された。
158	公害	工場の一定地域への集中に伴って大気汚染や水質汚濁などの被害が拡大したことから、従来の「濃度規制」に加えて「総量規制」があらたに導入された。
159	公害	高度経済成長期から、都市部で大気汚染や騒音などの都市・生活型公害が社会問題化し、その対策を求める住民運動が盛んに行われた。
160	公害	多数の公害対策立法において、公害を防除するために必要な費用は公害の発生原因者が負担すべきであるとする「汚染者負担の原則(PPP)」や、公害被害が発生すれば原因企業が損害賠償責任を負うという「無過失責任の原則」が採用されている。
161	国際化	円高の進行や経済の国際化に伴って、海外に工場を移転したり、海外にいくつもの現地企業をつくらせたりすることで、国境を越えて活動を行う多国籍企業が増えた。
162	国際化	近年の急速なグローバル化の進展に対しては、開発途上国のみならず、先進国の人々の中にも、反グローバリズム運動に参加する動きが見られる。
163	国際化	グローバリゼーションとは、多国籍企業や金融の動き、地球環境問題への取り組みなどにみられるように、地球規模で政治や経済、文化などの一体化が強まることをいう。
164	国際化	国際化の進展によって、グローバル・スタンダードといわれる国際社会の中で通用する共通のルール作りが進められている。具体的にはISOの定めた環境マネジメントシステムであるISO14000シリーズなどがある。
165	国際化	日本人の海外旅行者は、1980年代後半の円高によって急増し、2005年には1年間に1700万人を超える人々が海外へ出かけた。なお日本を訪れる外国人の数はその3分の1程度である。
166	国際経済	中国やベトナムはWTOに加盟しているが、ロシアの加盟は遅れていた。しかし2012年にロシアも加盟した。
167	国際経済	1960年代半ばの経済協力開発機構(OECD)加盟に伴う義務の履行として、段階的に資本の自由化を進めたため、外国から日本への投資が急増した。
168	国際経済	1971年、ニクソン米大統領は金とドルとの交換停止を発表し、これに伴って主要国は自国通貨の平価の変更に合意し、円はドルに対して切り上げられた。(1ドル=360円から1ドル=308円に切り上げられた。スミソニアン合意)
169	国際経済	1980年代後半から90年代にかけて、日本の市場開放を協議する日米構造協議や日米包括経済協議が開かれた。
170	国際経済	1980年代前半の「双子の赤字」問題とは、アメリカで輸出産業の国際競争力が弱くなった結果、経常収支が赤字になり、さらに、大幅な減税や軍拡の結果、財政赤字も巨額になったことをいう。
171	国際経済	1980年代に、アメリカの貿易赤字と財政赤字が共に巨額となり、この「双子の赤字」問題への対応の一環として、G5はドル高定止に合意した。
172	国際経済	1980年代に累積債務問題に苦しんだ中南米の国のうち、BRICsの一つであるブラジルは現在は高い経済成長率を実現している。
173	国際経済	1997年のアジア通貨危機の支援において、国際通貨基金(IMF)は中心的役割を果たし、緊急融資を行った。
174	国際経済	IMFは、第二次世界大戦後の国際経済体制の柱の一つだが、第二次世界大戦が終結する以前にアメリカが主導したブレトンウッズ会議でその設立が合意された。
175	国際経済	WTO協定では、同種の輸入品と国内産品は区別せず、国内産品に関する税金や法令の待遇を輸入品にも与えなければならないという「内国民待遇」の原則がある。
176	国際経済	アメリカで金融危機が発生した時、ローンの審査が厳しくなって自動車を購入できない人が増え、日本からの自動車輸出減少につながった。
177	国際経済	科学者も参加した民間団体ローマクラブは、その報告書『成長の限界』で、経済成長に伴う人口問題や資源問題を指摘した。
178	国際経済	為替管理が自由化されると、国際的な短期資金の流れが活発化し、為替相場が乱高下する可能性が大きくなっている。
179	国際経済	経済協力開発機構(OECD)は、加盟国の経済の安定成長と貿易拡大を図ると同時に、開発途上国に対する援助と、援助の調整を目的とする政府間機関で、二国間援助機関の実態調査を行っている。
180	国際経済	経済特区とは、外国資本の導入拡大を目指したもので、投資企業に税制面での優遇措置が設けられてきた。
181	国際経済	国際通貨基金(IMF)は、為替相場の安定のために加盟国に短期資金を融資することを主目的として設立された。
182	国際経済	国債復興開発銀行(IBRD、国際銀行)が準商業ベースで貸付を行っているのに対し、国際開発協会(IDA)は貧困途上国に対してより緩和された条件で融資を行っており、第二世界銀行という別名を持つ。

	小テーマ	説明
183	国際経済	最恵国待遇を加盟国に無差別に与えることは、自由貿易や多角主義と並んで、GATT・WTOの基本原則の一つである。
184	国際経済	食料品や医薬品などの海外経済援助は経常移転収支に計上され、日本は赤字が続いている。
185	国際経済	通貨価値の下落をいち早く察知した投資家が、一斉に投資先の国から資金を引き揚げ、その結果外貨の流動性不足に陥った国々で通貨危機が発生した。
186	国際経済	通貨危機の原因として、短期的な資金運用を行う金融機関や投資家の行動が指摘されている。
187	国際経済	デリバティブ(金融派生商品)取引などにより為替相場の変動を巧みに利用し投機的利益をあげる投資家(ヘッジファンド)も現れている。
188	国際経済	東南アジア諸国連合(ASEAN)では、域内の一層の経済協力や貿易促進を目指すアセアン自由貿易地域(AFTA)の取決めもなされている。
189	国際経済	日本は、多国間の多角的貿易自由化交渉を進めるかわら、初めて二国間のFTA(自由貿易協定)をシンガポールとの間で締結し、その後も各国とFTAやEPAを結んでいる。
190	国際経済	日本は、東海道新幹線の建設資金などを国際復興開発銀行(IBRD)から借り入れていた。
191	国際経済	労働コストが高いなど国際競争力の低下などによって、国内産業の生産拠点が海外に移転した結果、国内産業が弱体化することを、「産業の空洞化」という。
192	国際社会	条約が発効するためには、一般的に、各国の代表による署名と国内手続による批准が必要とされる。国連の場合条約が調印されてからといって、国連加盟国が自動的に拘束されるわけではない。
193	国際社会	国際社会で戦争を未然に防ぐくみとして、勢力均衡政策と集団安全保障政策の二つの方式があり、国際連盟や国際連合は後者の方式を採用している。
194	国際社会	国際連盟規約(1920年)や不戦条約(1928年)で戦争の違法化が規定され、国際連合憲章(1945年)では紛争解決の手段としての武力不行使が規定された。
195	国際社会	三十年戦争後の講和条約であるウエストファリア条約(1648年)により、国際社会が主権国家から成り立っていることが初めて明確にされた。
196	国際社会	ジェノサイド(大量虐殺)や非人道的な戦争犯罪の実行者個人を裁く常設裁判所として、国際刑事裁判所が2003年にオランダのハーグに設置された。
197	国際社会	1956年の日ソ共同宣言において、ソ連は、平和条約締結後に歯舞および色丹島を日本に引き渡すことに同意した。
198	国際社会	武力紛争中であっても、紛争当事国は、子どもたちの生活や教育に支障が生じないように努力することが国際法で義務づけられている。
199	国際社会	領海の基線から200海里以内の水域では、沿岸国に天然資源を管轄・開発する権利が認められている。
200	国際社会	1979年のイラン革命でイランでは反米政権が成立した。イランとイラクの間では長期間にわたって戦争が続き(イラン・イラク戦争)、イラクはアメリカなどによる支援を受けた。
201	国際社会	アメリカの経済援助は、ソ連や他の共産圏諸国に対する「封じ込め政策」の一環として行われた。
202	国際社会	アメリカはマーシャル・プランを発表し、西ヨーロッパ諸国の経済復興を援助した。
203	国際社会	イスラエルとパレスチナの対立は21世紀に入っても解消せず、ガザ地区などで武力紛争が起きた。
204	国際社会	国際刑事裁判所(ICC)は、国際法上の重大な犯罪にかかわった個人を裁く裁判所で、戦争犯罪のみならず、人道に対する罪、ジェノサイド(集団殺害)罪もその対象となる。
205	国際社会	国際司法裁判所は、国家間の争いを裁く。ただし、双方の当事国の同意なしには裁判は始まらない。
206	国際社会	第二次世界大戦後のアメリカによる西側への経済援助に対抗して、ソ連は経済相互援助会議(コメコン)を設立した。
207	国際社会	ベトナムはかつて南北に分断された国家であったが、ベトナム戦争の中で南ベトナム政府は崩壊し、戦争終結後に南北は統一された。
208	国際収支	ある国の経常収支が黒字になると、どこかの国の経常収支が赤字になるので、世界中の経常収支の合計はゼロになる。
209	国際収支	国際機関への拠出金や無償援助などは、経常移転収支に計上される。
210	国際収支	自国の居住者が保有する外国国債の利子や株式の配当は、経常収支のうちの所得収支に計上される。
211	国際収支	資本収支のうちの投資収支は、海外での企業設立である直接投資と、外国企業の株式・社債の購入である証券投資(間接投資)、その他投資などからなる。
212	国際収支	投資収益や雇用人報酬などは、経常収支のうちの所得収支に計上される。
213	国際収支	日本企業が海外工場建設のための土地の購入費を外国に対して支払った場合、その支払額は資本収支のうちの投資収支に計上される。
214	国際収支	日本の資本収支が赤字であるということは、日本が資本を海外に供給する債権国であることを示す。
215	国際収支	輸送費や旅行費用などは、経常収支のうちのサービス収支に計上される。
216	国連	ILO(国際労働機関)は、1919年に国際連盟とともに設立され、後に国際連合の専門機関となった。結社の自由や男女同一賃金、児童の強制労働の禁止などを主要な活動目的として掲げている。
217	国連	UNDP(国連開発計画)は、開発援助の新たな指標として、出生時平均寿命や識字率などを加味して算出されたHDI(人間開発指数)を導入した。
218	国連	安全保障理事会が、常任理事国の拒否権の行使によって機能麻痺に陥った場合に、緊急特別総会を招集することができる。これは1950年の朝鮮戦争の際の「平和のための結集」決議に基づく慣例である。
219	国連	安全保障理事会が、手続事項以外の事項について決定を下すためには、常任理事国の同意投票を求め9理事国の賛成投票が必要である。
220	国連	安全保障理事会の表決は、手続事項は9理事国以上、実質事項は常任理事国を含む9理事国以上の賛成が必要である。常任理事国が1国でも反対すれば表決はできないが、棄権の場合には表決が可能である。
221	国連	国連憲章は、加盟国が特別協定を結んで国連軍を置くことを規定しているが、この特別協定は今まで一度も結ばれたことがなく、したがって本来の国連軍は組織されたことはない。
222	国連	国連事務局の長である事務総長は、国際紛争の解決や国際平和の維持に積極的に関与するようになり、調停者・仲介者としての役割を果たしている。
223	国連	国連総会で採択された条約であっても、国連加盟国がそれに自動的に拘束されるわけではなく、批准しなければ拘束されない。
224	国連	国連総会での議決権は、人口や加盟分担金にかかわらず一国一票である。
225	国連	国連総会の表決は、一般事項は出席投票国の過半数の賛成、重要事項は3分の2以上の賛成を必要とする多数決制をとっている。
226	国連	国連総会は、国連人権委員会を改変した人権理事会を創設し、人権問題への取組みの強化を目指している。
227	国連	国連において国際の平和と安全の維持に関する主要な責任を負うのは、安全保障理事会であり、総会よりも上位にある。
228	国連	国連の安全保障理事会は、5カ国の常任理事国と、2年任期で総会において選出される10カ国の非常任理事国から構成される。
229	国連	国連の加盟分担金は、各国の経済力などに応じて決められており、国によって異なる。日本の分担金額は、アメリカに次いで加盟国中第2位である。

	小テーマ	説明
230	国連	国連の経済社会理事会は、ILOやWHOなどの専門機関と連携して活動にあたり、非政府組織(NGO)とも協議を行う。
231	国連	国連の財政は、加盟国が支払う分担金などによって賄われているが、日本の分担率は増加してきた。
232	国連	国連の信託統治理事会は、信託統治地域の施政を監督していたが、これらの地域がすべて独立したことから、その活動を停止している。
233	国連	国連は、国家ではなく個々の人間に着目する「人間の安全保障」に基づく活動を展開している。
234	国連	国連平和維持活動(PKO)は、国連憲章に規定はないが、国連憲章第6章(非軍事的措置)と第7章(軍事的措置)の中間的性格であるので、「6章半活動」といわれる。
235	国連	日本・ドイツ・インド・ブラジルは、共同して安全保障理事会の常任理事国入りを目指していたが、実現しなかった。日本やドイツを対象とした「敵国条項」の削除も実現していない。
236	国連	東ティモールでは国連主導でインドネシアからの独立の是非を問う住民投票が実施され、賛成多数で独立が決定した。
237	国会	いわゆる強行採決を繰り返すことは、法的に問題が生じないとしても、討論による意思形成を基本とする議院制民主主義の精神に全致しない。
238	国会	官僚が政府委員として国会で答弁する政府委員制度は廃止された。これは官僚主導から議員主導の国会運営を目指す改革のひとつである。
239	国会	国会が国権の最高機関であると規定されている理由は、国会が内閣や裁判所に優越しているのではなく、国民に選挙された代表者で構成される国会が、国民の意思と直接結びついた国家機関だからである。
240	国会	国会議員は現行犯の場合を除いては会期中逮捕されず、会期前に逮捕された場合、その議院の要求があれば、会期中これを釈放しなければならない。
241	国会	国会の活性化や政治家主導の政治を実現するために、従来あった「政府委員制度」や「政務次官制度」は廃止され、かわって、「副大臣・大臣政務官制度」や「党首討論」が導入された。
242	国会	国会の種類のうちには、毎年1回召集される通常国会、衆議院の解散による総選挙の後に開かれる特別国会などがある。
243	国会	衆議院が解散されたときは、開会中の参議院は閉会となる。その際に開かれる可能性があるのが「参議院の緊急集会」である。
244	国会	衆議院は、予算は先に衆議院に提出しなければならないという「予算先議権」を有している。
245	国会	衆議院は内閣不信任決議権を有しているが、参議院は法的拘束力のない問責決議を行うことしかできない。
246	国会	衆議院本会議における法律案・予算案の可決には、特別の定めのある場合を除き、衆議院の出席議員の過半数の賛成を必要とする。
247	国会	衆参両院は、常設の委員会である常任委員会のほかに、必要に応じて特定の案件を扱うための特別委員会を設置することがある。
248	国会	法律案について、衆議院が可決し参議院が否決した場合に、衆議院が出席議員の3分の2以上の賛成によって再可決した場合には、法律は成立する。
249	国会	予算や条約について、参議院で衆議院と異なった議決をした場合には、法律の定めるところにより、両院協議会を開いても意見が一致しないときは、衆議院の議決が国会の議決となる。
250	財政	「第二の予算」と呼ばれてきた財政投融资は、制度改革により、財務省資金運用部が廃止されるとともに、投融资額の規模も近年大きく減少している。
251	財政	一般会計歳出において、社会保障関係費と国債費がそれぞれ25～30%程度、公共事業費は10%以下である。
252	財政	現在のわが国では、直接税6割に対し間接税が4割で、直接税収入のほうが多い。
253	財政	公共投資は不況期に積極的に行い、景気過熱期には抑制する。
254	財政	公債金収入を除いた歳入と、国債費を除いた歳出とのバランスのことを、基礎的財政収支(プライマリーバランス)といい、これが黒字なら、将来的に財政収支は改善していく。
255	財政	国債発行による歳入額(公債金収入)が、私利私費を含む償還費用(国債費)を上回る状態が続いているため、国債発行残高は年々増加している。
256	財政	国債発行を増加させた場合、供給量の増大で国債価格は低下し国債利回りが上昇するので、民間銀行の国債引き受けが増加して民間銀行の資金が政府に集まり、企業への貸出金利の上昇と企業の銀行借入れの減少が起こる。(クラウディングアウト)
257	財政	国債発行を増加させると、一般会計の国債費が上昇し、他の財政支出が自由に組めなくなるという「財政の硬直化」を招く。
258	財政	財政赤字が拡大して国債費が肥大すると、予算のうち機動的な政策経費として使える金額が減少し、財政の柔軟性が損なわれる。
259	財政	財政の健全度を示す基礎的財政収支(プライマリー・バランス)の赤字が続いており、その改善のために、税収の増加や歳出の削減が求められている。
260	財政	財政法で「国の歳出は、公債又は借入金以外の歳入を以て、その財源としなければならない」と規定されており、赤字国債の発行は原則は禁止されている。実際には年ごとに特例法を制定して発行されており、この公債は一般に特例国債とよばれる。
261	財政	自治体主導でのリゾート開発を実施したものの、経営不振のため財政が破綻(はたん)し、財政再建団体に転落した自治体もある。
262	財政	消費税は、商品やサービスの購入に対してすべての購入者に同率で課税されるために、逆進的な性質を持つ。
263	財政	特例国債の発行は石油ショックによる税収減対策として始まり、バブル後の一時期を除いて毎年、財政特例法を制定して発行されている。
264	財政	日本の所得税においては累進課税制度を採用し、所得の多いものに高率の税を課して、所得の再分配をはかっている。
265	資源	高速増殖炉は、核燃料をリサイクルできる原子炉として期待されてきたが、「もんじゅ」の事故で中断し、実用化は遠のいた。
266	資源	風力発電は、風のエネルギーで発電機を回して電力を得るものであり、ドイツやデンマークでは積極的に進められてきたが、日本でも実用化が始まっている。
267	資源	家電リサイクル法は、指定された家電製品のリサイクルを製造業者に義務づけており、費用は消費者が負担する。
268	資源	資源有効利用促進法は、自動車やパソコンなどについて、設計段階から産業廃棄物の発生抑制や使用済み部品の分別回収・再利用などの工夫をメーカーに義務づけている。
269	資源	石油や石炭などの化石燃料の埋蔵量は有限であり、現在、その枯渇が懸念されているが、今後、技術革新や価格変動によって、探掘の採算が取れるようになると、確認埋蔵量は増加する。
270	資源	ローマクラブは1972年のレポート「成長の限界」において、人口の増加と経済発展が今後も続いた場合、資源の枯渇や環境の悪化などから、地球の将来に重大な影響があると警告した。
271	市場	外部不経済の例として、駐車場を造る費用を節約して商品を安く売っている店の周辺に客の車が列をつくり公共の交通が妨げられている場合があげられる。
272	市場	寡占市場では、企業は一般に、広告・宣伝費を増やし、製品の差別化を図るなどの非価格競争を展開する。
273	市場	寡占市場では、広告・宣伝や製品差別化などの非価格競争が活発に行われる一方で、価格競争は行われにくくなり、各企業は容易に自社製品のマーケットシェアと利潤率を維持することができる。
274	市場	寡占市場では、有力企業がプライスリーダーとなって製品の価格を決定すると、他の企業がそれに追従して暗黙のうちに価格が形成されることがある。
275	市場	少数の大企業によって市場が支配されている場合、供給が過剰になったり、生産費が安くなったりすると、直ちに価格に反映されやすい。宣伝や広告が過熱するなど、消費者への情報がゆがめられやすい。

	小テーマ	説明
276	市場	少数の大企業によって市場が支配されている場合、製品差別化などの非価格競争が生じやすい。
277	市場	少数の大企業によって市場が支配されている場合、プライスリーダーによる価格設定に他の企業が追随する管理価格が形成されやすい。
278	市場	電力会社などの巨大設備を必要とする産業分野では、企業の規模が大きくなるほど生産コストが低下するので、自然に市場の独占が成立する。
279	市場	道路や公園、自然環境などの公共財は市場を通じて供給することが難しく、公共財の過小供給は、「市場の失敗」の一つの例である。
280	市場	独占禁止法を運用する機関として設置された公正取引委員会が、不当な価格維持行為などの取締りを行っている。
281	思想	カントによれば、人間の尊厳は、自らの理性が打ち立てた無条件の道徳法則に自律的に従うところにある。
282	思想	カントは、イギリス経験論と大陸合理論を総合し、人間理性の能力を検討して、認識能力の限界を明らかにしようとした。
283	思想	古代中国の孔子は、仁や礼といった「人間関係の規範」を探求した。
284	思想	サルトルによれば、人間は自由であることを運命付けられており、その自由は自己のあり方のみならず、全人類のあり方をも拘束するとして、社会参加(アンガジュマン)を説いた。
285	思想	自分の行いを正当化する価値を自明のものとして見いだすことのできない状況について、サルトルは「人間は自由の刑に処せられている」と述べている。
286	思想	シュヴァイツァーは、倫理の範囲を人間だけに限定することが多かったヨーロッパの思想史の中で、それを生命一般へと押しひろげ、「生命への畏敬」が倫理の根本であると主張した。
287	思想	自由には人間を従来の様々な束縛から解放する肯定的な側面だけでなく、人々に孤独感を与える否定的な側面があり、自由が心理的な重荷になる場合には、人々はファシズムのような全体主義に積極的に自らを委ねてしまうことが起こりうるとフロムは指摘し
288	思想	すべての犬は死ぬということから、私が飼い始めたばかりの子犬もいつかは死ぬと考えるのは、演繹法の考え方である。
289	思想	責任という言葉は、英語(レスポンス→responsibility)やフランス語などでは、私に呼びかけた他人に応えることを含意し、他人への配慮ということを示唆している。
290	思想	ソクラテスは、問答を通して人間がいかに生きるべきかを説き、人間にとって大切なことは「ただ生きるのではなく、よく生きることである」と述べた。(無知の知)
291	思想	ソクラテスは、よく生きることは正しく生きることであるという前提に立って、国法に従うことを正しいと自ら同意したのであるから、その同意を破るべきではないと述べ、不当な判決には服すべきではないと説く友人の言葉を退けた。
292	思想	デカルトによれば、あらゆることがらを疑ってみても、決して疑うことのできない絶対確実な真理は、考えている自分が存在することである。(われ思う、ゆえにわれあり)(演繹法)(大陸合理論)
293	思想	西田幾多郎は、主観と客観が対立する以前の状態に純粹経験を見いだし、それこそが真の実在であるとした。
294	思想	人間が自らの意思で規範を定め、それに従う状態を、カントは自律と呼び、そこに人間の尊厳の根拠を求めている。
295	思想	パスカルによれば、人間は自然の中で最も弱い悲惨な存在であるが、同時に、考えることができる点において、偉大な存在である。(人間は考える葦である)
296	思想	プラトンは、完全に理想的なものこそが真の存在(イデア)であるとし、イデアを恋慕する心で真・善・美などの価値のあるものに恋焦がれる愛をエロースと呼んだ。
297	思想	ベーコンによれば、人間は自然法則を変えるのではなく従う(利用する)ことによって、自然を人間の役に立つものにする事ができる。自然についての知は人類の福祉を向上させる力となりうる。(知は力なり)
298	思想	ベーコンは「知は力なり」と述べ、観察や実験によって得られた事実と共通する一般的法則を見出す帰納法を説いた。(イギリス経験論)
299	思想	ベンサムによれば、人間は快楽を求め苦痛を避ける存在であるから、なるべく多くの人ができるだけ多くの快楽を得られるようにするべきである。
300	思想	ホルクハイマーなどのフランクフルト学派は、近代的な理性は人間を抑圧し文化の野蛮化を促進している技術的・道具的理性に過ぎないとして批判した。
301	思想	科学的なものの考え方は、確かな知識の蓄積や発展を重んじ、哲学的なものの考え方は、当然視されている価値を相対化する問いを重んじる。
302	司法	愛媛玉ぐし訴訟において最高裁は、政教分離の原則に反するとして違憲の判断をした。
303	司法	下級裁判所には、高等裁判所、地方裁判所、簡易裁判所があり、下級裁判所の裁判官は最高裁判所の指名に基づいて内閣が任命する。
304	司法	刑事裁判において、自己に不利益な唯一の証拠が本人の自白のみの場合には、有罪とされることはない。
305	司法	国民審査によって罷免された裁判官は今まで1人もいないが、弾劾裁判によって罷免された裁判官は複数存在した。
306	司法	国民審査は、最高裁判所の裁判官に対して、任命後最初の衆議院選挙の際に行われる。
307	司法	最高裁判所が「財産権の侵害」であるとして違憲判決を下した例として、森林法の共有林分割制限規定がある。
308	司法	最高裁判所が「法の下での平等」に反するとして違憲判決を下した例として、尊属殺重罰規定や衆議院の議員定数配分がある。
309	司法	最高裁判所裁判官の国民審査によって実際に罷免された最高裁判所裁判官は現在まで1人もいない。
310	司法	最高裁判所には、裁判所の内部規律や司法事務処理などについて規則を制定する権限が与えられている。
311	司法	裁判員制度では、重大な刑事事件の第一審について、一般市民からくじで選ばれた裁判員が職業裁判官と共に事実認定や量刑の決定を行う。控訴審では裁判員裁判は行われない。
312	司法	裁判員制度の対象となる事件は、公判の審理を継続的、計画的、迅速に行うために、公判前整理手続に付される。
313	司法	裁判官の身分は手厚く保障されており、裁判官を弾劾裁判所に訴追できるのは、衆参両院議員からなる裁判官訴追委員会である。
314	司法	裁判は、裁判官が全員一致で公序良俗に反すると判断した場合には、対審は非公開にできる。ただし判決は非公開にはできない。また、政治犯罪、出版犯罪、国民の権利が問題となっている裁判は、対審も非公開にはできない。
315	司法	大日本帝国憲法では司法権は裁判所に与えられていたが、天皇の名において行使されており、特別裁判所の設置も認められていた。日本国憲法では特別裁判所は禁止されている(家庭裁判所や知的財産高等裁判所は、特別裁判所とはされていない)。
316	司法	ドイツの違憲立法審査は、法律制定後ただちに憲法裁判所でおこなわれ、違憲と判断された部分はただちに無効となる。
317	社会主義	ソ連では、1980年代に、ゴルバチョフ書記長によって、ペレストロイカとグラスノスチが推進された。
318	社会主義	中央政府が計画的に物資を生産・配分する社会主義経済は、非効率な経済運営や労働意欲の低下など、さまざまな問題が現れて停滞した。それが市場経済に移行した要因の一つであった。
319	社会主義	東ヨーロッパの旧社会主義国が加盟していた経済相互援助会議(COMECON)は、冷戦終結に伴い解体された。
320	社会保障	少子化・高齢化に伴う労働力人口の減少を補うためには、女性や高齢者の雇用促進や外国人労働者の受入れなどが有効な手段である。
321	社会保障	1930年代の不況の中で、アメリカではニューディール政策の一環として、社会保障法が制定された。

小テーマ	説明
322	社会保障 国際労働機関（ILO）は、1944年にフィラデルフィア宣言を採択するなど、各国の社会保障政策の拡充に努めている。
323	社会保障 社会保険のうち、労働者災害補償保険の保険料は被用者は負担しない。これは、労働災害は本来あってはならないものであり、その保険料を労働者にも負担させるのは適切でないためである。
324	社会保障 社会保険給付の財源を安定的に確保し、財政の健全化をはかるため、生活必需品にも幅広く課税する消費税が初めて導入されたのは1989年のことであった。当初の税率は3%だった。
325	社会保障 セーフティネットとは、経済社会の進展とともに希薄化した相互扶助を補つための仕組みのことで、生活者の不安を和らげ安心や安全を確保する。
326	社会保障 わが国では近年、在宅サービスを拡充する介護施策が重視されており、デイサービスやショートステイの充実がはかられている。
327	社会保障 わが国の公的扶助制度の中心である生活保護は、保険料でなく公費（租税）を財源として運営されている。
328	社会保障 日本政府が少子化対策として行っている施策として、妊娠・出産を機に離職した女性が、子育て後に再就職できる機会を増やすという施策がある。
329	社会保障 日本では、少子高齢化が進み生産年齢人口の割合が減少傾向にあるために、社会保障を経費面で支える勤労世代の負担が重くなってきている。
330	社会保障 老年人口比率は年々上昇する傾向にあり、公共的性格のある建築物や公共交通機関に対して、高齢者などへの配慮を求める法律が制定された。
331	宗教 イスラム教では、神の言葉である『クルアーン（コーラン）』に記された生き方を実践することが求められる。
332	宗教 キリスト教では、人間は神の愛（アガペー）にならない、敵を含むあらゆる人々を愛すべきことが説かれる。
333	宗教 仏教では、永遠なるものに固執する心をめぐい去り、苦を克服した境地に至ることが目指される。
334	少子高齢 保育園の整備や乳幼児の医療費支援など出生率の低下に歯止めを掛ける対策を進めることは、少子化対策のみならず、人口構成の高齢化の進行を抑制することにも効果がある。
335	消費者 消費者契約法により、消費者は事業者の不当な勧誘行為によって締結した契約を取り消すことができる。
336	消費者 消費者保護基本法の制定を受けて、地方自治体は、消費者相談や消費生活の情報提供などを行う消費生活センター（消費者センター）を設置した。
337	消費者 消費者問題の窓口一本化のために、消費者庁が設置された。苦情処理や消費者への情報提供などを行う消費者保護機関として、国に国民生活センターが、地方に消費生活センターが設置されている。
338	消費者 消費者を会場に集め粗品配布などで興奮状態にして購買意欲をおおいたてて商品を売りつける「SF商法（催眠商法）」がある。
339	消費者 製造物責任法（PL法）によれば、製造物の欠陥によって損害が発生した場合には、消費者は製造者の故意または過失を立証しなくても欠陥を立証することにより損害賠償を請求できる。
340	情報化 インターネットで情報を集める手段の一つに検索エンジンがあり、これにより膨大な情報の中から必要な情報を瞬時にさがすことができる。ただし、その情報の信頼性が担保されているわけではない。
341	情報化 インターネットによって双方向の通信が可能となったため、個人が情報を発信することが容易となったが、情報の発信者の特定が容易でないため、無責任な情報や有害な情報が広がる危険性もある。
342	情報化 インターネットはもともとはアメリカの軍事用ネットワークとして作られ、のちに大学や商用プロバイダーにも接続されるようになったものである。
343	情報化 インターネットをめぐり、違法薬物の取り引きなどをインターネットを利用して行う例があり、その規制のあり方について議論されている。
344	情報化 コンピュータソフトやコンパクトディスクなどが不正に複製されることによって、著作権などの知的財産権が侵害されている。
345	情報化 情報化社会に生きる私たちは、大量の情報の中から有用な情報を選択し情報の真実を見極める力である「メディア・リテラシー」を養う必要がある。
346	情報化 情報化社会の進展に伴って、情報通信技術を使いこなせるものと使いこなせないものとの間に労働条件や収入の格差が広がる「デジタル・デバイド」が懸念されている。
347	情報化 情報化は、通信や情報のコストを引き下げ、経済効率を高めるが、他方で、情報にアクセスできない人々は不利になる。
348	情報化 他人のIDやパスワードを使用した不正アクセスによる詐欺や、コンピュータウイルス攻撃などの犯罪が発生している。
349	情報化 テクノストレスとは、情報機器を扱うことにより緊張を強いられる状態のことをいう。また、メールを送ってすぐに返信がこないというイライラするという若者もいる。
350	情報化 匿名掲示板などで、個人の実名を挙げて誹謗中傷がなされる例があり、人権侵害だとして問題になっている。
351	情報化 バーチャル・リアリティーとは、コンピュータによってつくり出されるさまざまな感覚の疑似体験を伴う仮想現実や空間のことをいう。
352	食料 化石燃料に代わるバイオ燃料（サトウキビなど）の利用も始まっているが、食料生産の減少につながるという問題もある。
353	食料 世界食糧計画（WFP）によれば、「世界にはすべての人が食べるだけの食料がある」とされており、食料の絶対量の不足ではなく、先進国の飽食や、発展途上国の商品作物中心の農業などが、途上国の栄養不足や飢餓の原因と考えられる。
354	食料 トウモロコシなどがバイオエタノールの原料として利用されるようになって、食料用の穀物の価格が上昇している。
355	人権 「人間の安全保障」は、1994年に国連開発計画（UNDP）が提起したもので、人口爆発、民族紛争、環境悪化などに対しては、国家の枠をこえ、連携して問題に取り組む必要がある。
356	人権 UNDP（国連開発計画）の提唱した「人間の安全保障」とは、人間の生にとってかけがえのない中枢部分を守り、すべての人の自由と可能性を実現することである。
357	人権 UNDP（国連開発計画）の提唱した「人間の安全保障」のためには、文化の多様性を尊重することや慣用の精神を育む教育が大切である。
358	人権 外国人に対しても請願権は保証されており、国会などに請願を行うことができる。
359	人権 学問の中心は大学であるから、学問の自由の保障の中には、大学の自治の保障も含まれる。
360	人権 環境権は、憲法第13条の生命・自由・幸福追求権と、第25条の生存権を根拠に主張されている。大阪空港騒音訴訟において、大阪高裁は「人格権」を幅広く解釈して原告の訴えを認めたが、最高裁は環境権という概念そのものを認めなかった。
361	人権 教育を受ける権利は、国民がひとしく教育を受けられる権利である「教育の機会均等」を保障している。また保護者が子女に教育を受けさせる義務を負わせている。
362	人権 行政処分を行う場合に行政機関の自由な判断を広く認めれば、法の支配の原理に反する恐れがある。
363	人権 刑事被告人には弁護人依頼権があるが、弁護人を選任できない場合は、国選弁護人がつけられる。
364	人権 公務員は、国家公務員法や地方公務員法によって労働三権が制限されており、ストライキやサボタージュなどの争議行為は一律に禁止されている。（憲法ではなく国家公務員法等による禁止である）
365	人権 公立学校が特定宗教のための宗教教育を行うことは、政教分離の原則から禁じられる。（政教分離の教は、教育ではなくて宗教の意味である。）
366	人権 国際人権規約は、世界人権宣言とは異なって法的拘束力を持ち、社会権（A規約）と自由権（B規約）をともに規定している。

	小テーマ	説明
367	人権	国民に国民主権の原理を実現する意思が欠けているならば、民主主義的議会制度も、ファシズムのような独裁体制を成立させる道具となりうる。
368	人権	財産権は公共の福祉により制約されることがあるが、私有財産を公共のために用いる場合、正当な補償の下に行われる。
369	人権	死刑廃止条約は国連総会で採択されたが、わが国は批准していない。最高裁判所は、死刑自体を違憲とは判断していない。
370	人権	失業対策など、雇用環境の改善を目指して重視させる勤労権は、社会権である。(新しい人権ではない)
371	人権	資本主義経済が発展するにつれて、それまでは体系的、本格的に取組まれなかった社会的・経済的弱者の生活環境整備、教育、雇用、医療などが、公的な政策課題として浮かび上がってきた。
372	人権	社会権の保障を世界で初めて掲げたのは、1919年にドイツで制定されたワイマール憲法である。
373	人権	社会権を保障するために、職業選択の自由や財産権などの経済的自由は広く制限される場合もある。
374	人権	住民基本台帳ネットワーク(住基ネット)が稼働したが、プライバシーの侵害を懸念する声があり、参加を見送る自治体も出た。
375	人権	情報公開法によって情報公開の対象となる公開文書には、紙に印刷された情報だけでなく、電子的な媒体に記録された情報も含まれる。
376	人権	情報公開法は、外国人や法人にも行政文書の開示を請求する権利を認めている。
377	人権	情報公開法は、正式には「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」といい、内閣や地方公共団体の保有する情報は対象になるが、国会や裁判所の保有する情報は対象にはなっていない。
378	人権	知る権利は、国民や住民が国や地方公共団体の保有する情報の公開を請求できる権利であるが、情報公開法には、知る権利の明記は見送られた。
379	人権	知る権利は、表現の自由を情報の受け手である国民の側からとらえ直したものであり、憲法21条に基づいて主張される。
380	人権	人権に関する条約で日本が批准していないものとして、ジェノサイド条約、死刑廃止条約、国際人権規約の選択議定書がある。
381	人権	人権保障の内容は、時代の変化に伴って拡充・発展しており、20世紀になってから登場した人権(社会権など)が日本国憲法にも規定されている。
382	人権	生活保護に関する訴訟(朝日訴訟)や、障害福祉年金と児童扶養手当の併給禁止に関する訴訟(堀木訴訟)において、最高裁はプログラム規定説を採用し、原告の訴えを退けた。
383	人権	積極的改善措置(ホフアイ・アウフゾフ)とは、女性や障害者など差別されてきた人々を雇用や教育の場で優遇し、地位の向上を図るものである。
384	人権	尊属殺人に関する法定刑は、普通殺人に比べて厳しすぎるため、法の下での平等に反するとの判決が確定した(最高裁1973年)が、当該規定は直ちに削除されたわけではない。
385	人権	大日本帝国憲法にも臣民の権利として信教の自由の規定はあったが、宗教弾圧事件は多く起こった。
386	人権	男女共同参画社会基本法は、国や地方自治体における政策・方針の立案や決定過程に、男女が共同で参画する機会を確保するよう求めている。
387	人権	何が犯罪となるかはあらかじめ法律で定められている必要があり、これを罪刑法定主義という。
388	人権	日本国憲法では、現行犯逮捕の場合を除いて、逮捕・捜索・押収等には司法官憲である裁判官の発する令状が必要である。
389	人権	日本国憲法では、自白を得るための拷問や残虐な刑罰を禁止しているが、死刑制度は存在しており、裁判所は死刑がすべて残虐な刑罰とはいえないと判断している。
390	人権	日本国憲法は、国の治安を脅かす危険性があると政府が認定した思想を支持する者に対し、その思想を放棄するように、刑罰を用いて強制することを例外無しに禁止している。
391	人権	日本人の父と外国人の母から生まれた子どもが、父母が婚姻をしていないことなどを理由に、日本国籍を取得できないとされた事例について、国籍法の規定が違憲であるという判決を最高裁判所が下した。
392	人権	日本は、国際テロを未然に防止するため、指紋採取と写真撮影を来日外国人に義務づけ得るよう国内法を改正した。
393	人権	日本は、人種差別撤廃条約を1995年に批准し、1997年にはアイヌ文化振興法を制定した。
394	人権	犯罪被害者の権利・利益を保護するため、刑事事件において被害者が直接被告人に質問することを認める制度が導入されている。
395	人権	表現の自由には、民主政治を発展させる機能があるとされる。
396	人権	プライバシーの権利意識の高まりを受け、民間企業に対して個人情報の適切な取り扱いを求める個人情報保護法が制定された。
397	人権	プライバシーの権利は、当初は私生活をみだりに公開されない権利として主張され、最近では、自己に関する情報をコントロールする権利や肖像権としても主張されるようになった。(根拠は憲法第13条)
398	人権	フランス人権宣言第16条「権利の保障が確保されず、権力の分立が規定されないすべての社会は、憲法を持つものでない。」
399	人権	フランス人権宣言は、「あらゆる主権の原理は、本質的に国民に存する。いずれの団体、いずれの個人も、国民から明示的に発するものでない権威を行えない。」としている。
400	人権	名誉を毀損する行為の禁止が、表現の自由に対する制約として認められるように、人権であっても、他者を害する場合等には制約されることがある。
401	人権	文部科学省(当時の文部省)の教科書検定が憲法に違反するかどうか争われた訴訟において、最高裁は教科書検定を合憲と判断した。つまり、教科書検定は検閲ではないと判断している。
402	人権	ヨーロッパ人権条約のように、地域的な国際人権条約も存在する。
403	人権	良好な環境を保つため、大規模開発に際して環境アセスメントの実施を義務づけた環境影響評価法が制定された。
404	人権	ロックは、政府が国民の自然権を侵害するようなことがあれば、国民はこれに抵抗し政府を変更できるという抵抗権・革命権を認めた。
405	人権	ロックは『市民政府二論(統治論)』を著して、立法権を担当する議会が、執行権と同盟権を担当する国王に優位する形の権力分立を説いた。
406	人権	わいせつな文書や写真の流布を予防するために、発表前に公権力がその内容を強制的に審査することは、憲法上許されない。
407	人権	ワイマール憲法「所有権は義務を伴う。その行使は、同時に公共の福祉に役立つべきである。」
408	政治機構	三権が互いに抑制と均衡を図る仕組みとしては、内閣不信任決議、最高裁判所長官の指名などがある。
409	政治機構	政権交代に備えるとともに、より充実した国会審議を行うために、イギリスの影の内閣を範とした仕組みを導入した政党が現れた。
410	政治機構	各議院は、国政調査権をもつが、個別の裁判の判決内容を批判することはできない。(注:浦和事件)
411	政治機構	衆議院は、国務大臣に対する単独の不信任決議や問責決議を可決することがあるが、法的拘束力はない。

	小テーマ	説明
412	政治機構	内閣総理大臣が国務大臣を任命・罷免する際には、国会の承認などは必要ない。国会議員でない人を国務大臣とする場合も同様である。
413	政治機構	日本国憲法では、衆議院が内閣不信任を決議したならば、内閣は総辞職するか、衆議院を解散するか、しなければならない。
414	政治機構	非行を働いた裁判官に対して、法務大臣など行政機関が懲戒を加えることはできない。これは裁判官の独立を保障するためである。
415	政治原理	「国王といえども神と法の下にある」というプラクトンの言葉は、後の時代のエドワード＝コークが引用し、王に対して法の支配を主張した。
416	政治原理	「法の支配」は慣習法を重視する英米の伝統であり、この場合の法とは、民主的な手続きで制定され、権力者の恣意を許さず人権を保障するためのものである。
417	政治原理	1215年に成立したイギリスのマグナ＝カルタは、封建貴族の国王に対する特権を規定した文書である。(一般国民の自然権としての人権を保障したわけではない)
418	政治原理	イギリス憲法「国王は、王権により、国会の承認なしに法律(の効力)を停止し、または法律の執行を停止し得る権限があると称しているが、そのようなことは違法である。」
419	政治原理	ヴァージニア権利章典「すべて人は生来ひとしく自由かつ独立しており、一定の生来の権利を有するものである。」
420	政治原理	オンブズマン(行政監察官)制度は、スウェーデンで最初に導入されたものだが、日本では一部の地方自治体で導入されているものの、国レベルでは導入されていない。
421	政治原理	議会における二院制や地方自治制度は、権力の濫用を防止するという権力分立のしくみを取り入れたものである。
422	政治原理	憲法の最高法規性や裁判所の違憲立法審査権は、「権力者といえども法の下にある」という、法の支配の原理を具体化したものである。
423	政治原理	法治主義の原理は、ドイツやフランスで発展した原理であり、法の内容よりも、国家が制定した法律という形式を重視している。
424	政治原理	モンテスキューが主張した立法権・行政権・司法権の厳格な三権分立のしくみは、アメリカの政治制度に取り入れられている。
425	政治倫理	政治資金規正法では、団体から政治家個人への献金は禁止しているが、団体から政党への献金や、個人から政治家個人の資金管理団体への献金は認められている。
426	政治倫理	選挙の際の買収や供応などを防止するため、選挙違反の連座制の強化が行われた。連座制とは、選挙責任者や秘書などが選挙違反で有罪となった場合に、候補者本人の当選が無効となる制度である。
427	青年期	「男らしさ」「女らしさ」は個人の行動様式だけでなく、物事の感じ方や考え方にも影響を与える。
428	青年期	「近づきたい」という欲求と「離れたい」という欲求の葛藤状態を「やまあらしのジレンマ」という。
429	青年期	アメリカの心理学者マズローは、欲求を5段階に分け、もっとも基層が「生理的欲求」で最上層が「自己実現欲求」であるとする欲求階層説を唱えた。
430	青年期	エリクソンは、青年期の最大の課題はアイデンティティの確立にあるとしたが、青年期以外の時期においてもアイデンティティの危機が生じる可能性を否定はしていない。
431	青年期	現在の日本では、学校卒業後も親と同居することで、自立に伴う苦勞を回避し、自らの趣味と自由な独身生活を楽しむバラサイト＝シングルと呼ばれる若者が見られる。
432	青年期	高校時代の発達段階の特徴として、知的にも情緒的にもかなり複雑な働きが身につく。抽象的なことや複合的なことを考えたり、表現したりすることができるようになることがあげられる。
433	青年期	自我同一性の危機は、今までどおりの自分では対処できない課題に直面することによって生じることが多く、新しい自分へと成長する機会になることが多い。
434	青年期	青年期の始まりを告げる身体的変化は、心理的な成熟に先立って現れる。
435	青年期	青年期は、高等教育の普及などによって延長する傾向にあることが指摘されており、30歳程度までを青年期とみなす場合もある。
436	青年期	青年期は、成人としての社会的な責任や義務を猶予された(モラトリアム)期間であり、その間のさまざまな経験を通じて、青年は一貫した自己像(アイデンティティ)を形成する。(エリクソンによる)
437	青年期	青年期は、他の人生の時期に比べて感情の振幅が非常に大きい疾風怒濤の時期であり、そこからさまざまな不安も生じやすい。(G.S.ホールによる)
438	青年期	青年期はあらゆる時代や社会に普遍的に存在するものではなく、マーガレット＝ミードは「南太平洋のサモア島では青年期が見られない」と報告した。
439	青年期	青年は、完全に大人集団の一員だとみなされることがないばかりか、子ども集団の一員だともみなされることがない周縁的存在者(マージナル＝マン)である。(レヴィンによる)
440	青年期	パーソナリティとは、知識や技能の側面の能力、感情的側面の気質、意志的側面の性格で構成される「その人らしさ」を示すもので、それらは遺伝や環境の働きによって形成される。
441	青年期	ハヴィガーストは、「青年期の発達課題の一つは職業に就く準備をすることである」と指摘した。
442	青年期	ハヴィガーストは、親や他の大人からの情緒的自立など、大人になる過程で青年が取り組むべき発達課題を提唱した。
443	青年期	人の発達の基盤は遺伝によって作られるが、能力や行動、性格などが実際にどう発達するかは、教育や訓練、人生経験などに左右される。
444	青年期	ホリングワースは、子どもが親の管理からの解放を望み自立を試みるという意味で、青年期を「心理的離乳期」と呼んだ。
445	青年期	ルソーは、青年期を「第二の誕生」の時期ととらえた。
446	生命倫理	インフォームド・コンセントとは、医師が患者に病状や治療方法などについて十分に説明をした上で、患者の同意・決定に基づいて医療を進めていくことをいう。
447	生命倫理	延命技術が高度化したり臓器移植が可能となったりしたことで、医学以外の領域でも、「死」の定義をめぐる活発に議論されるようになった。
448	生命倫理	回復が困難で末期状態にある患者に対して、医師が本人の同意の下で延命治療を停止する安楽死を法律によって認めている国もある。(オランダなど)
449	生命倫理	生命維持装置の発達に伴って、延命措置のもつ人道的な意味が疑問視されるようになり、尊厳死や安楽死を認めるべきか否かについて、大きな論争が起こっている。
450	生命倫理	臓器移植に関して、臓器提供意思表示カードには、臓器提供を希望する意思と、提供を希望しない意思のいずれの意思表示もできる。
451	生命倫理	臓器移植法は、臓器を提供することで対価を受け取ったり、臓器の提供を受けることで対価を支払ったりすることを禁じている。
452	生命倫理	ヒトゲノムの塩基配列をすべて読みとることを目標にした「ヒトゲノム計画」が、国際的な共同プロジェクトとして行われた。
453	生命倫理	ホスピスとは、死期せまっている患者に対し、残された時間を充実させることを目的に、身体的苦痛の緩和・軽減と精神的なサポートを実施する施設のことである。
454	生命倫理	ユネスコで「ヒトゲノムと人権に関する世界宣言」が採択され、クローン人間の作成が禁止された。
455	生命倫理	リビング・ウィルとは、延命治療を拒否するといった意思を事前に書面にしたものである。
456	石油危機	第一次オイル・ショックは、アラブ諸国の原油供給削減と石油輸出国機構の原油価格引上げにより引き起こされた。
457	石油危機	第一次石油危機(1973年)の原因は、第四次中東戦争と、それに伴うOPECの原油価格大幅引き上げである。

	小テーマ	説明
458	石油危機	第二次石油危機(1979年)の原因は、イラン革命である。
459	選挙	外国に滞在する有権者に対して、衆議院と参議院の比例代表選挙に加えて、衆議院の小選挙区と参議院の選挙区選挙についても投票権が認められた。
460	選挙	衆議院の比例代表は全国を11ブロックに分けた拘束名簿式で小選挙区との重複立候補が可能である。参議院の比例代表は全国を単位とする非拘束名簿式比例代表制で、投票用紙には政党名か個人名かのいずれかを記す。衆議院の定数は、小選挙区300、比例代表180である。比例代表の定数はかつては200だったが、削減された。
461	選挙	選挙に関する新聞社の世論調査が、実際の投票行動に影響を与えてしまう「アナウンス効果」が指摘されている。マスコミによる「出口調査」等も行われているが、投票終了までは、その結果を報道することはできない。
462	大衆社会	ウェーバーは、合理的・能率的な事務処理を遂行するためのシステムとして官僚制(ビューロクラシー)をとらえた。
463	大衆社会	学歴や資格を得ることによって社会の指導的地位への道が開かれる一方で、人々が情緒的な同調行動に誘導されやすいのは、大衆社会の特徴である。
464	大衆社会	政治的知識や情報がある程度はもつものの、高度に専門化した政治に対する無力感などから、現代型の政治的無関心が生まれている。
465	大衆社会	対抗文化(カウンターカルチャー)は、既存の秩序・体制を批判し、社会変革の原動力になり得るものである。
466	大衆社会	大衆社会では、マスコミュニケーションの発達に伴って、個人の思考やライフスタイルなどの画一化・平均化・受動化が進んだ。
467	大衆社会	大衆社会には、マスメディアによる世論操作が行われたり、大衆が自由と孤独の中で権威を無批判に受け入れることで政治腐敗が起こりやすくなるというマイナス面がある。
468	大衆社会	フロムは、ナチス支配下の人間心理を分析し、自由の重荷に耐え切れずに判断と責任を権威ある人物や組織にゆだねてしまう現代人の特質を批判した。(『自由からの逃走』)
469	大衆社会	リースマンは、現代の消費社会では、マスコミなどによってつくられた流行や同世代の人々の期待・好みに合わせる傾向が見られると分析し、このような人々の社会的性格を他人指向(志向)型と呼んだ。
470	大衆社会	リースマンは、他人の意見に従い行動する現代人のあり方を、他人志向(指向)型と呼んで批判した。(『孤独な群衆』)
471	地方自治	小泉内閣の「三位一体の改革」では、所得税の一部を個人住民税に移譲するというかたちで、国から地方へ税源移譲がなされた。
472	地方自治	機関委任事務に対しては地方議会による調査権はなかったが、法定受託事務には地方議会による調査権が及ぶようになった。
473	地方自治	首長解職(リコール)や議会解散には有権者の3分の1以上の署名が必要だが、人口が多い大都市の場合には、必要な要件が緩和される規程がある。
474	地方自治	条例の制定や改廃請求には、その地域の有権者の50分の1以上の署名が必要で、地方公共団体の首長が受理して議会にはかり、結果を公表する。
475	地方自治	地方議会で可決された条例に対して、首長は拒否権を持っているが、議会が出席議員の3分の2以上の多数で再可決した場合は、この条例は成立する。
476	地方自治	地方財政改革として、国から地方への税源委譲、地方交付税制度の見直し、国庫支出金(=補助金)の削減という3つのことを一体的に進める「三位一体改革」が進められている。
477	地方自治	地方自治体の中には、条例によって法律よりも厳しい公害規制を定めたところもある。
478	地方自治	地方自治特別法の制定には、国会の議決だけでなく、その地方公共団体の住民投票において過半数の賛成を必要とする。これは、間接民主制を基本としている中で直接民主制の要素を取り入れた例である。
479	地方自治	米軍基地や原発など、特定の政策の是非を問う住民投票制度を活用する自治体があるが、その投票結果には法的拘束力はない。ただし、住民投票条例の内容によっては、未成年者や外国人の投票も可能である。
480	地方自治	法定受託事務に対する国の関与に不服がある自治体は、国地方係争処理委員会に審査を申し出ることができるようになった。
481	中国	中国の実質経済成長率は、低い年で8%以上、高い年で13%程度もある。
482	中国	中国の政治制度では、全国人民代表大会に権力が集中され、その下に国務院や最高人民法院がある。
483	中国	中国は、貿易黒字の額が急激に拡大したことで、外貨準備高は日本を抜いて世界第1位となった。
484	中小企業	会社法の制定により、「合同会社」の設立が可能になった。いっぽうで、「有限会社」を新たに設立することはできなくなった。
485	中小企業	製造業では、資本金3億円以下または従業員300人以下の企業が、中小企業法という中小企業に該当する。
486	中小企業	先端産業分野では、大企業以外にも、独自の知識や技術を用いて新商品を開発する中小企業が現れ、これはベンチャービジネスと呼ばれている。
487	中小企業	中小企業は、社債の発行などの直接金融による資金調達が困難であり、金融機関からの間接金融が中心である。
488	中小企業	資金や生産性などの面で大きな格差のある大企業と中小企業が並存しているという二重構造を解消するため、1963年に中小企業基本法が制定された。
489	中小企業	日本の全事業所数の99%が中小企業であり、従業者数の7割、製造業出荷額の約5割が中小企業によるものである。
490	ドイツ	ドイツの大統領は、連邦会議で選出され、国家国民を統合する存在であるが、行政権を持つのは内閣である。
491	統治機構	一般の行政機構からある程度独立して権限を行使する行政機関の例として、国には公正取引委員会、都道府県には公安委員会や教育委員会がある。ただしその独立性や権限が十分かどうかは議論がある。
492	統治機構	行政機関は終審として裁判を行うことができないが、公正取引委員会のように前審として認められているものもあり、行政機関による審判がすべて禁止されているわけではない。
493	都市問題	港湾や道路などの産業関連社会資本に比べて上下水道や公園などの生活関連社会資本の整備が遅れたため、人口の急激な流入に伴い都市の生活環境は悪化した。
494	南北問題	多くの発展途上国の輸出品目である農産物の取引において、発展途上国の労働者に適正な対価が支払われる「フェアトレード」の動きにも注目すべきである。
495	南北問題	開発途上国の経済成長促進に関連して、輸入代替工業化とは、それまで輸入していた製品を国産化することで工業化をはかることである。
496	南北問題	近年は、発展途上国に対して、経済開発だけでなく人間開発の取り組みを支援する動きが進んでいる。
497	南北問題	サハラ以南のアフリカには、債務返済が極めて困難な最貧国である重債務貧困国(HIPC)が多数あり、その債務の免除が国際的に議論されている。
498	南北問題	産油国や工業化に成功した国と、後発発展途上国(LDCまたはLLDC)との間に、南南問題と呼ばれる新たな経済格差が生まれている。
499	南北問題	新国際経済秩序樹立に関する宣言では、自国の天然資源に対する恒久主権、発展途上国に不利な交易条件の改善、多国籍企業の規制と監視などが主な内容となっていた。
500	南北問題	第三世界の中には、経済開発を最優先するために、議会制民主主義を制約したり否定する政治体制(開発独裁体制)をとってきた国もある。1970年代の韓国やインドネシアなどがその例だが、その中から民主政治が発達する国も出ている。
501	南北問題	南北問題を話し合う場として国連貿易開発会議(UNCTAD)が設立され、発展途上国は特惠関税の実施や対GDP1%の経済援助などを要求した。
502	南北問題	発展途上国が貧困から抜け出しにくい要因の一つとして、国民の所得水準や貯蓄率が低いこと、国内において、資本の蓄積が進まないという状況があげられる。

	小テーマ	説明
503	南北問題	発展途上国が貧困から抜け出しにくい要因の一つとして、道路や空港、通信設備などの社会資本整備が遅れており、援助国から供給された資本や技術が十分に生かされていないことがあげられる。
504	南北問題	発展途上国の多くは、農産物や鉱産物など特定の一次産品に偏ったモノカルチャー経済構造にあり、経済的な自立が困難だった。これは植民地支配に由来することが多い。
505	難民	自国の著しい貧困のために就業の場が無く、人間らしい生活ができないため、豊かな他国へ逃れようとする人々を経済難民といい、これらの人々は難民条約上の難民には含まれないが、近年増加している。
506	難民	難民に関しては、迫害の待ち受けている国へ送還しないことが難民条約によって義務づけられている。これを「ノン・ルフールマン原則」という。
507	日本思想	家に立派な仏壇と神棚があるのは、複数の異なる宗教の儀礼や慣習を受け入れる日本人の一例である。
508	日本思想	大晦日に家族と近所のお寺に除夜の鐘をつきに行き、次の日に近くの神社に初詣に行くのは、複数の異なる宗教の儀礼や慣習を受け入れる日本人の一例である。
509	日本思想	キリスト教は、戦国時代にイエズス会宣教師によって伝えられて、その後西日本を中心に広まり、庶民だけでなく大名にも信仰する者が現れた。
510	日本思想	古代日本では、祖先崇拜と自然崇拜に基づく民俗信仰が広がっており、人々は自然界の事物や諸現象に神が宿っていると考えた。
511	日本思想	今度結婚する姉が、チャペルで挙げる結婚式も神前での式もどちらもしてみたいと言っているのは、複数の異なる宗教の儀礼や慣習を受け入れる日本人の一例である。
512	日本思想	通過儀礼とは、お宮参り、七五三、成人式、結婚式など、人生の節目や区切りに行われる儀式をいう。
513	日本思想	日本社会の特徴として、「タテマエとホンネの使い分け」、世間からどう見られているかを気にする「恥の文化」、「集団内での地位や上下関係を重視する「タテ社会」などがあげられる。
514	日本思想	日本では、死後の世界を不浄な世界だとする観念があり、『古事記』などにもそうした記述が見られる。
515	日本思想	日本では、人生や四季折々の節目に様々な祭りや行事などが行われる。その中には若者が成長や発達を意識する通過儀礼として機能するものもある。
516	日本思想	日本では、西洋の一神教のような唯一絶対の神は存在せず、外国から伝わった宗教も受容し、日本古来の信仰と共存させてきた。
517	日本思想	年中行事とは、正月、節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、盂蘭盆などの伝統的行事のことをいう。
518	日本思想	年中行事には、ハレの日として、仕事を休み、晴れ着を着たり、ごちそうを食べたりする習わしがある。
519	年金	あらたに導入された確定拠出型年金(日本版401k)では、保険料は確定しているが、給付額については約束しておらず、選んだ資産運用方法によって給付額が変動する。
520	年金	国民皆年金・国民皆保険が実現したのは、1960年前後のことである。
521	年金	年金財政の負担軽減のために、厚生年金や共済年金の支給開始年齢が、かつての60歳から65歳へと、段階的に引き上げられている。
522	年金	年金制度には、今なお職域・職種によって保険料や給付に大きな格差が存在しており、この格差を解消し、年金のあり方について合意を作り出す必要がある。
523	年金	年金には、民間企業の被用者を対象とする厚生年金、公務員を対象とする共済年金、自営業者や第一次産業従事者を対象とした国民年金がある。
524	年金	年金のうち、基礎年金部分の費用は保険料と公費(税金)によってまかなわれている。
525	年金	年金の財源は、現役世代の支払った保険料がその年の高齢者への給付に充てられる賦課方式が中心となっている。
526	年金	基礎年金の給付の種類には、老齢年金、障害年金、遺族年金の3種類がある。
527	農業	1999年に「食料・農業・農村基本法(新農業基本法)」が制定された。食料の安定供給確保、農業の持続的発展、農村の振興がその内容である。
528	農業	米作中心の農業からの転換をはかり、経営規模の拡大によって農業の構造改革を進めるため、1961年に農業基本法が制定された。
529	バブル	1980年代末のバブル期には、不動産や株式などの資産の価格が急激に上昇し、ブランド品などの高額商品に対する消費が拡大した。しかし消費者物価全般は落ち着いていた。
530	バブル	1986年には、貿易摩擦の解決を目指した「前川レポート」が公表され、公共投資の増大による内需の拡大が唱えられた。
531	バブル	1990年前後のバブル経済期には、高騰した地価を抑制するために地価税が導入された。
532	バブル	バブル期には、景気が過熱したにもかかわらず、円高が進んだことが一因となって、消費者物価はそれほど上昇しなかった。
533	バブル	バブル崩壊後、55～64歳の高齢層の有効求人倍率は、他の年齢層に比べて、低水準で推移している。
534	福祉	人口増加を抑制する行動計画として、カイロの国際人口開発会議で「性と生殖における健康／権利」を含む女性の地位の向上などが打ち出された。
535	福祉	介護される側の家族が急激に高齢化しているだけでなく、介護する側の家族も急激に高齢化して「老老介護」といわれる状態が生じている。
536	福祉	グループホームとは、認知症となった人たちが、適切な支援・介護のもと、数人の集団で共同生活を行う施設である。
537	福祉	ケアマネージャー(介護支援専門員)とは、要介護認定を受けた人に、ふさわしい介護サービス計画を立てる専門職である。
538	福祉	公的扶助は、生活困窮者に最低限の生活を保障するための制度であり、費用はすべて租税によって賄われている。
539	福祉	高齢化に対応するため、ゴールドプラン21に基づいて、訪問介護などの介護サービスの拡充がはかられてきた。
540	福祉	高齢者や障害者も含め、すべての人が共に暮らせる社会を作るという考えをノーマイゼーションという。
541	福祉	障害者雇用促進法では、企業が身体障害者や知的障害者などを定められた割合以上で雇うことが義務づけられている。
542	福祉	障害者自立支援法により、受けた福祉サービスに応じて費用を負担することになっている。
543	福祉	女性の心身の健康の保障と出産を自己決定することのできる権利を、リプロダクティブ・ヘルス/ライツという。
544	福祉	成年後見人とは、適切な判断ができなくなった高齢者に代わって、財産管理や契約などを行うことを指定された人である。
545	福祉	デイサービスとは、自宅から施設に日帰りして通所し、入浴やリハビリテーション訓練などを受けられる介護サービスのことである。
546	福祉	モラルハザードの例として、医療保険の充実が、かえって人々の医療機関への過度な依存を招くことになり、自助に基づく疾病予防や健康管理がおろそかになってしまうことがあげられる。
547	物価	インフレーションの場合、貨幣価値が下落するので預貯金の実質的な価値は減少することになる。
548	物価	デフレーションの場合、物価が持続的に下落するので輸出品の国際的な価格競争力は高まることになる。

	小テーマ	説明
549	文化	エスノセントリズムとは、自民族の文化が最もすぐれたものであると考え外国人や異文化に対する差別や偏見を有することをいう。
550	文化	オリエンタリズムとは、西洋から東洋を低位に見た自己中心的な見方や文化的な支配のあり方のことをいう。(パレスチナ出身の思想家サイードによる)
551	文化	タイやビルマなどでは、自己の修業を重視する上座部仏教が分布し、中央アジアなどでは広く衆生(しゅじょう)の救済を求める大乘仏教が分布している。
552	文化	多文化主義は多様な文化の尊重を原則とするものであり、同一国家の内部でも、複数の教育言語がしばしば採用される。
553	文化	マルチカルチュラルイズムとは、各民族・社会の多様性を許容し、それぞれの文化の存続を援助しようとする思想・運動のことをいう。
554	平和主義	日本は、PKO協力法により、カンボジア復興や、モザンビークにおける選挙監視委員などに自衛隊を派遣してきた。
555	平和主義	「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」という非核三原則は、政府によって表明され、国会でも決議されている。
556	平和主義	アメリカ同時多発テロの後のインド洋への自衛隊の派遣の根拠はテロ対策特別措置法、イラクへの派遣の根拠はイラク復興支援特別措置法であり、いずれもPKO協力法に基づくものではない。
557	平和主義	アメリカによるアフガニスタン攻撃に際して、アメリカ軍の後方支援のために自衛隊がインド洋に派遣された。
558	平和主義	安保条約に従って日本政府はアメリカ軍へ基地を提供しているが、その米軍基地のうち、面積にして約4分の3が沖縄県に集中している。
559	平和主義	現行の日米安全保障条約は、日本の領土と極東の安全を確保する目的でアメリカ軍が日本に駐留することを認めている。
560	平和主義	現在の日米安全保障条約では、日米の防衛協力は定められているが、アメリカ本土が攻撃を受けた場合に日本がアメリカと共同して防衛行動をとることは定められてはいない。
561	平和主義	国連平和維持活動(PKO)への自衛隊参加は、紛争当事者間の停戦とPKO受入れ合意、活動の中立性などを条件としている。
562	平和主義	集団的自衛権とは、同盟関係にある国家に対する武力攻撃に対して、自国が直接攻撃されていなくても、自衛のために武力をもってこれを阻止しようとするものである。
563	平和主義	国連憲章は主権国家に集団的自衛権を認めているが、日本が集団的自衛権を行使することは憲法上認められていないというのが、日本政府の公式の立場である。
564	平和主義	戦力の保持は憲法9条により禁止されているが、自衛隊は自衛のための必要最小限の実力にすぎず、憲法9条にいう戦力には該当しないというのが日本政府の公式の立場である。
565	平和主義	日本が他国から武力攻撃を受けるおそれがある場合の対処などを定めた法律(有事法制)の例が武力攻撃事態対処法であり、これを受けて国民保護法などが制定された。
566	平和主義	有事の際に自衛隊やアメリカ軍が空港・港湾・道路・電波を優先的に利用できることは有事関連の法律で規定されている。
567	ベトナム	ベトナムは、ドイモイと呼ばれる経済改革を進めて市場経済の導入をはかり、2007年には世界貿易機関(WTO)に加盟した。
568	防衛機制	嫌いな人に異常に優しくしたり、好きな人にわざと冷たくするなど、抑圧されたものの正反対の内容が意識に生じることで抑圧を補強する自我の無意識的な働きを「反動形成」という。
569	防衛機制	子どものいない人が犬を飼うなど、代わりのもので欲求を満たすことを「代償」という。
570	防衛機制	失恋によって生じた欲求不満を野球に振り向けて全国大会に出場するまでになるなど、性的欲求などの充足が阻止されたとき、そのエネルギーが社会的・文化的に認められる方向に内容を変容して発散させることを「昇華」という。
571	防衛機制	就職活動が困難をきわめていたので、就職活動を投げ出して1人であてのない旅行へ出かけるのは「逃避」である。
572	防衛機制	すっぱいブドウの論理のように、自己のとった不本意な行動や態度などについて自分なりに説明をつけ、自分を納得させて不安や緊張を避ける無意識的な試みを「合理化」という。
573	貿易	1980年代末には、日米間で牛肉とオレンジの自由化が合意され(1988年)、1991年には牛肉・オレンジについてそれまでの輸入数量制限は撤廃され、関税化に移行した。コメも関税化されているが、その税率は700%以上という高率なものである。
574	貿易	GATTの最後の多角的貿易交渉であるウルグアイラウンドにおいて、サービス貿易のルール作りが議論された。
575	貿易	GATTやWTOの原則の例外として認められているものに、発展途上国の輸出促進のための「一般特恵関税」や、自国産業保護のための緊急輸入制限である「セーフガード」がある。
576	貿易	WTOは、「無差別」をその理念の一つとしているが、開発途上国に対する特恵関税の供与は、南北問題への取り組みという観点から認められている。
577	貿易	WTOは、それまでのGATT(関税と貿易に関する一般協定)を発展的に解消して国際機関とする形で発足した。
578	貿易	ウルグアイラウンドの合意を受けて、農産物の輸入制限が数量制限から関税に移行したため、世界の農産物貿易は拡大している。
579	貿易	企業の多国籍化に伴って、日本でも企業内貿易が増加しており、それが貿易拡大の一因となっている。
580	貿易	近年、BSEの発生を理由に、アメリカ産牛肉の輸入が一時禁止されたが、その後は条件付きで輸入が認められている。
581	貿易	日米貿易摩擦の歴史は古く、1960年代には繊維、70年代にはカラーテレビや鉄鋼、80年前後には自動車、1980年代半ばには半導体の輸出について貿易摩擦が発生した。
582	貿易	日本の貿易における最大の輸入相手国は、戦後長い間アメリカであったが、現在では中国となっている。
583	貿易	フェアトレードは、途上国の生産品を適正な価格で購入することで、貿易を通じて経済的な自立を支援する活動である。
584	貿易	貿易不均衡是正のために実効的な措置を採るべきだというアメリカの要求が強まり、日本の自動車メーカーは対米輸出自主規制を行った。
585	貿易	輸入の手続きを厳格化・複雑化することによって、輸入許可の審査期間を長期化することは非関税障壁であり、貿易相手国からの輸入を減らすことにつながる。
586	民族問題	インドとパキスタンは、カンミール地域の帰属問題などで対立してきており、これまで数度にわたって戦争状態に陥った。両国は1998年に相次いで核実験を行った。
587	民族問題	カナダでは、1960年代のケベック・ナショナリズムの高揚をきっかけに英語とフランス語の二言語が公用語となった。
588	民族問題	北アイルランドでは、イギリスへの帰属を主張する多数派のプロテスタント系住民と、アイルランドとの併合を主張するカトリック系住民とが対立してテロが激化していたが、1998年に和平が合意された。
589	民族問題	国際的に先住民の権利保護が進むなかで、日本ではアイヌ民族に対して差別的だと批判されてきた北海道旧土人保護法に代わり、「アイヌ文化振興法」が制定された。
590	民族問題	スーダンのダルフール地方では、2000年代に入ってから民族対立が深刻化しており、大量虐殺の事例が報告されるとともに、多数の避難民が発生した。
591	民族問題	独立を目指すチェチンのイスラム武装勢力と、それを阻止しようとするロシアとの間で長期化していったチェチン紛争は、冷戦終結を契機として勃発したものである。
592	民族問題	長く迫害され続けてきたユダヤ人がパレスチナにイスラエルを建国したが、それによりそこに居住していたアラブ人が難民となり、両者の間で戦争が勃発した。
593	民族問題	バルカン半島は、過去にイスラム教の国(オスマン・トルコ)に支配されたことがあるため、現在でも、イスラム教徒が広く分布する国がある。
594	民族問題	パレスチナ問題に関して、1990年代にアメリカの仲介でパレスチナ暫定自治協定が結ばれたが、和平は進展しておらず、パレスチナ国家も樹立していない。
595	民族問題	ユーゴスラビアでは、連邦解体後に紛争が相次いだ。かつて連邦を構成していた6つの共和国はすべて独立した。
596	民族問題	冷戦終結の時期に民族独立の気運が高まり、ソ連の一部であったバルト三国がいち早く独立した。

	小テーマ	説明
597	メディア	記者クラブ制度によって、新聞社の情報源が似通ってしまい、記事の画一化が進む、という指摘がある。
598	メディア	マスメディアは、権力を批判する役割を有し、また、世論形成に与える影響力が大きいため、「第四の権力」と呼ばれている。
599	メディア	電波の割り当てを受けるテレビやラジオは放送法によって「政治的に公平であること」が求められているが、新聞は自社の政治的見解を表明することを禁じられてはいない。(社説や政党機関紙など)
600	領土	尖閣諸島問題は、天然資源の帰属問題と深くかかわる。
601	領土	サンフランシスコ平和条約で日本が放棄した千島列島の中に北方四島は含まれない、とするのが現在の日本政府の立場である。
602	冷戦	1940年代後半に、アメリカと西欧諸国は、軍事同盟として北大西洋条約機構(NATO)を発足させた。これに対して共産主義陣営はワルシャワ条約機構を発足させた。
603	冷戦	1980年代初頭には、ソ連のアフガニスタン侵攻に対抗してアメリカがSALT IIの批准を拒否し、レーガン大統領は対ソ強硬政策をとって、新冷戦とよばれた。
604	冷戦	朝鮮戦争をはじめとする東西の対立において、米ソ両国が直接戦火を交えたことはなかったが、キューバ危機(1962年)の際には核戦争の一步手前とも言える緊迫状態となり、その後、米ソ間にホットライン(直通電話)が設置された。
605	冷戦	冷戦終結後に起こった湾岸戦争を機に、国際貢献をめぐる議論が巻き起こり、その後、PKO協力が成立した。
606	冷戦	冷戦終結後の1996年に、包括的核実験禁止条約(CTBT)が採択されたが、アメリカなどが批准しておらず、発効には至っていない。
607	冷戦	冷戦中の1960年代に、地下以外での核実験を禁止する部分的核実験停止条約が採択された。
608	労働	1997年に、労働基準法が改正され、女性の休日労働や時間外労働などを原則として禁止していた規定が撤廃された。
609	労働	1世帯あたりの平均所得は、最近の10数年間で650万円から550万円に、約100万円も減少している。これは不景気の影響だけでなく、所得の少ない非正規雇用者が男女ともに増えていることが影響している。(現在では、被雇用者の3人に1人は非正規雇用である)
610	労働	外国人労働者の受け入れに関して、日本は、専門的な職種や日系人などの場合を除き、外国人労働者を受け入れてはいるが、研修生名目で来日して実質的には労働している例がある。
611	労働	子の養育や家族の介護を行う労働者に対して休業を認める育児・介護休業法は、男女の労働者を区別せずに適用される。
612	労働	大学を卒業した後、契約社員や派遣社員といった雇用形態で働く人たちが増えてきている。
613	労働	非正規雇用の拡大に伴って、現在の労働組合の組織率は20%を下回る水準にまで低下している。
614	労働	不況の影響で、残業手当を支払われないサービス残業が増え、過密・長時間労働による過労死が労働災害として認定されるという事態も生じている。
615	労働	労働時間などを労働者の裁量にゆだねる「裁量労働制」が、専門的な職種などでは認められている。
616	労働	労働者派遣事業法の改正により、それまで一部の専門的な労働に制限されていた労働者派遣事業の対象が原則自由化された。
617	労働	ワークシェアリングとは、労働者一人あたりの労働時間を短縮して失業者を出さずに多くの労働者が仕事に従事できるようにするやり方で、ヨーロッパの一部の国で行われている。
618	NGO	NGO・NPOの長所の一つは、市民が自分の関心と能力にもとづいて、募金や労働など様々な参加の仕方を選択できることにある。
619	NGO	NGO・NPOは、ODA(政府開発援助)に比べ、規模は小さくても、地元住民の要求に沿ったきめ細かい支援を行うことができる。
620	NGO	NGO・NPOは、市民レベルでの活動であり、政府に頼らず一般市民の間にも地域社会や国際社会への関心を引き起こすことができる。
621	イスラーム	『クルアーン』は、神の言葉そのものであるとされ、その教えを信じることは六信の一つに数えられている。
622	イスラーム	9世紀にはカリフの施策のもとで、ギリシア科学の文献が大々的にアラビア語に翻訳された結果、独自の思想や科学が発達したが、これら初期の文化活動の担い手のほとんどは、支配者であるアラブ人ではなく、ユダヤ教徒、キリスト教徒、ペルシア人イスラーム教徒、というように、異質な宗教や文化に属する人々であった。
623	イスラーム	アッラーの意志はムハンマドを通じて人間に伝えられたが、ムハンマドにそれを仲介したのは天使だとされる。
624	イスラーム	アッラーの意志を示すものであるクルアーン(コーラン)は、結婚や遺産相続などの生活上の規範も説いている。
625	イスラーム	イスラームでは、「神から見て、汝らのなかでいちばん貴いのはいちばん敬虔な人間」とるように、大切なのは信仰心であり、人間は平等だとされている。
626	イスラーム	イスラームでは、アッラーはユダヤ教・キリスト教の神と同一であり、モーセやイエスを預言者として遣わしたと考えられている。
627	イスラーム	イスラームでは、アッラーへの信仰に基づく共同体「ウマ」が重視され、その中に生きるイスラーム教徒たちは神の前に平等だと考えられている。
628	イスラーム	イスラームでは、アッラーへの信仰を異教徒から守るためにジハードを行うことが義務であり、十字軍への対応もその一例と考えられている。
629	イスラーム	イスラームでは、ムスリムは唯一の神に帰依を誓う人々であるが、ユダヤ教徒やキリスト教徒なども同じ神の啓示を受け入れた者として認めている。
630	イスラーム	イスラームでは、神はあらゆる事物を超越した唯一絶対の神であるから、いかなる偶像によってもそれを表現することはできないとされている。
631	イスラーム	イスラームで説かれる神は、一切を超越した神であり、いかなる偶像によっても表すことはできない。この神は、モーセやイエスの説いた神と同じであるとされる。
632	イスラーム	イスラームとユダヤ教に共通する考え方のひとつとして「戒律は、神と人との関係と人間同士の関係の両方を規定する」というものがある。
633	イスラーム	イスラームとユダヤ教に共通する考え方のひとつとして「神は、自らの意志を人間に伝えるために預言者を遣わした」というものがある。
634	イスラーム	イスラームとユダヤ教に共通する考え方のひとつとして「神を像に刻み、それに向かって礼拝することを否定する」というものがある。
635	イスラーム	イスラームの教えでは、アッラーとは全知全能で、子をもたない唯一絶対の存在である。
636	イスラーム	イスラームの教えでは、アブラハムと同じようにムハンマドもアッラーから遣わされた。
637	イスラーム	イスラームの教えでは、メッカへの巡礼は、ムスリムたちがあこがれる務めである。
638	イスラーム	イスラームの五行のうち、ザカート(喜捨)とは、富んでいる者が貧しい者に対して資産に応じた施しをするものであるが、これは神への感謝の心を養い、社会における富の公平な分配を目指すものである。
639	イスラーム	イスラームの五行のうち、メッカへの巡礼とは、すべてのムスリムが可能なかぎり生涯に一度は行うべきものであるが、これは社会的地位や民族の差異を超えたムスリムとしての連帯感を養うのに役立っている。
640	イスラーム	イスラームの五行のうち、ラマダーン月の断食とは、未明から日没までいっさいの飲食を絶つものであるが、これは欲望を抑える強い意志や貧乏への思いやりの心を養うのに役立っている。
641	イスラーム	イスラームの五行のうち、礼拝とは、一日に五回、定められた時刻に定められた手順で行うべきものであるが、これは神に対する絶対的帰依を体現し、人間が本来あるべき姿を確認するのに役立っている。
642	イスラーム	イスラームは、イエスが神の子であるとするキリスト教を批判して、三位一体説を否定し、唯一絶対神信仰を説く。
643	イスラーム	クルアーンは、唯一の神が預言者ムハンマドを通じて人間に与えた言葉であり、ムハンマドの役割は神の啓示をそのまま人々に伝えることであった。
644	イスラーム	ムスリムは、「アッラーの意志に従う者」を指し、民族の違いにかかわらず平等に信徒として認められている。
645	イスラーム	ムハンマドの思想が旧来の多神教と対立した要因の一つには、彼が説いた唯一神の教えが部族制に基づいた多神教を否定し、アッラーの前でのすべての人間の平等を主張することで、部族の枠を超えた共同体の形成を促したことがある。

	小テーマ	説明
646	イスラーム	ムハンマドは、自分はモーセやイエスを選んだのと同じ神によって選ばれた預言者であるが、自分の後に預言者は出現しないと説いた。
647	インド	『ウパニシャッド』の哲人たちは、内なる真実の自己に目覚め、これが宇宙の根本原理と同一であるという梵我一如の境地に達することを理想とした。
648	インド	ウパニシャッド哲学は、輪廻の苦しみに基づいているとして、梵我一如を体得することによる解脱を説いた。
649	インド	バラモン教は、ヴェーダにおける多神教的世界観を前提とし、神々への祭祀を通じて人々に利益をもたらそうとした。
650	インド	古代インドでは、思索における言葉の重要な役割を認めつつも、現象世界の根源にあるブラフマンが言葉では言い尽くせないといわれることもあったように、言葉と真の本質的世界との乖離が意識されていた。
651	インド	古代インドのウパニシャッドで追求された、輪廻を脱した境地とは、アートマンと宇宙の原理が同一であることを直観し、それによって永遠性を獲得した境地であった。
652	リエンタリズム	オリエンタリズムにおいては、東洋は学問、芸術、商業における進歩の本流からはずれており、保守的で奇妙な世界として扱われてきた。
653	リエンタリズム	オリエンタリズムは、東洋の特殊性や独自性を強調する見解であるとされるが、実際には西洋寄りの観点から構成された東洋観である。
654	リエンタリズム	オリエンタリズムは、東洋を特定の見方で研究し、真実の姿とはかけ離れた異国情緒豊かなものとして表現してきた思潮である。
655	リエンタリズム	パレスチナ生まれの思想家サイードは、近代において西洋の文化が自らを東洋と区別し、東洋を非合理的で後進的のみならずことで西洋自身のアイデンティティを形成した過程を指摘し、その思考様式をオリエンタリズムと呼んだ。
656	ギリシア	「各人は情念に動かされることなく、すなわち、自然に従って理性的に生きるべきである」というのが、ストア派の生活信条であった。
657	ギリシア	「感情を乱す原因を避けて隠れて生きることによってアタラクシアを求め、安らかに暮らす」というのが、エピクロスが提唱した生活信条である。
658	ギリシア	「恐れるべきものとそうでないものを正しく判断できるように知的訓練を積むことで、勇気のある人になる」というのは、アリストテレスが用いている中庸の例である。
659	ギリシア	『ニコマコス倫理学』において、人間固有の働きの中で最高の働きと評価される「テオリア」とは、原理を直観的に把握する理性の働きである。
660	ギリシア	アリストテレスによれば、習性的徳は、思慮が示す中庸を繰り返し選ぶことで形成される。
661	ギリシア	アリストテレスによれば、人間の幸福とは行為のうちに実現しうる最高の善であり、これを実現するためには、よき習慣づけによる倫理的徳の習得が不可欠である。
662	ギリシア	アリストテレスの「調整的正義(矯正的正義)」の例として、「加害者を裁いて罰を与え、被害者に補償を与えて公平にすることがあげられる。
663	ギリシア	アリストテレスは、取引や裁判などにおいて、各人の利害や得失の不均衡を公平になるように是正する調整的正義を説いている。
664	ギリシア	アリストテレスは「動植物に様々な種が存在しているのは、種類ごとに固有な形相が各個体に内在し、それが発現してくることによる」と考えている。
665	ギリシア	アリストテレスは自然のなかで働く生命の仕組みを畏敬し、人は自分の家族への愛情をもちたずには国家運営に参加する意欲を保ちえないと考えて、師であるプラトンの主張を批判した。
666	ギリシア	アリストテレスは正義を、各人の働きに応じて名誉や報酬をあてがうことで「等しさ」を実現する配分的正義と、商取引や裁判において当事者相互の利害と得失を勘案して「等しさ」を回復する調整的(矯正)正義に分けた。
667	ギリシア	ギリシアでは、万物の根本原理を数であるとしたピタゴラスが、輪廻する魂を肉体から解放するために禁欲的な出家教団を創設した。
668	ギリシア	ストア派のゼノン ¹ は、アパテイアと呼ばれる心の平静な状態を理想とし、欲望や快苦に惑わされない生き方とはどのようなものであるかを思索した。
669	ギリシア	ストア派の人々が説いた「自然に従って生きよ」とは、人間の理性を正しく働かせ、自然を貫く理法と一致することで、心を乱されることなく生きよ、という意味である。
670	ギリシア	ゼノンは、様々な情念から解放され、外部の何ものにも煩わされない魂の状態を善と捉え、理想とした。
671	ギリシア	ソクラテスは、「汝自身を知れ」というデルフォイ神殿の標語のもとに、問答法によって人々とともに知の探究に努めた。
672	ギリシア	ソクラテスは、対話的方法を通して自己の魂のあり方を吟味していくことが、「よく生きること」の根本であると主張した。
673	ギリシア	ソクラテスは、対話問答による吟味を通して人々を自分自身についての思い込みから解放し、無知の自覚に根ざした真実の自己と向き合わせることに尽力した。
674	ギリシア	ソクラテスは自分の問答を産婆術(助産術)と呼んだ。その理由は、「産婆は高齢のため出産はできないが、妊婦の状態を見極めて、その赤子を取り上げることができる。ソクラテスは無知であるが、問答によって真偽を吟味しながら、対話相手自らの考えを引き出すことができる」ということであった。
675	ギリシア	ソフィストの一人であるプロタゴラスは、あらゆる物事の判断基準は、判断する人間それぞれにあるとし、各人の判断以外に客観的真理が存在することを否定した。
676	ギリシア	ソフィストは、社会制度や法律の由来をノモスとピュシスの対比によって説明した。
677	ギリシア	ソフィストは、相手との論争に打ち勝つことを目的とし、論弁を用いるようになった。
678	ギリシア	ソフィストは、礼金をとる職業的教師として、青年たちに弁論術や一般教養を教えた。
679	ギリシア	タレスは、世界は根本的原理によって説明ができ、それは水であると考えた。
680	ギリシア	プラトン：理想的な国家を実現するためには、哲学者が統治者になるか、あるいは統治者が哲学者になる必要がある。
681	ギリシア	プラトンによれば、国家には統治者・防衛者・生産者という三つの階級があり、人間はそれぞれの資質にふさわしい階級に属するべきである。
682	ギリシア	プラトンによれば、国家の正義と個人の正義は、階級の違いを越えて相互に人間を結びつける契約によって、調和が保たれる。
683	ギリシア	プラトンによれば、哲人・軍人・庶民がそれぞれ知恵・勇気・節制いずれかの徳を発揮しつつ相互に調和し合うことによって、理想国家が実現される。
684	ギリシア	プラトンのいう「愛(エロース)」とは、個々の美しいものや善いものを超えて、善美そのものを追い求めようとする情熱のことである。
685	ギリシア	プラトンの記述によれば、「ソクラテスは、国法を破ることは不正であり、不正を犯すことは恥ずべきことと考えて毒杯を仰いだ」とされる。
686	ギリシア	プラトンの考えでは、イデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉えることができる。
687	ギリシア	プラトンの用いた洞窟の比喩は、「多くの人々は、感覚されたものを実在だと思い込んでいる。それはちょうど、洞窟の壁に向かって撃がれている囚人が、壁に映った背後の事物の影を 実物 だと思い込んでしまうのと似ている」というものであった。
688	ギリシア	プラトンは、「個々の事物は真の 実在 の影にすぎないが、人間の魂はかつて真の 実在 の世界に住んでいたため、それを想起することで真理を把握できる」と主張した。
689	ギリシア	プラトンは、人間の魂は「善そのもの」「美そのもの」といった超越的なイデアを観ることによって、自らを 真実 の存在へと形作ると主張した。
690	ギリシア	プラトンはソクラテスを処刑したアテネの政体に幻滅し、現実の社会制度を大胆に改革して理想国家を建設することを熱望し、「国を守る軍人は妻子をもたず に 婦人を共有し、生まれた子どもたちを共同で養育するべきだ」とまで主張した。
691	ギリシア	プラトンは国家について、「思想知恵を愛する者が王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が、勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき、正義が実現する」と考え
692	ギリシア	ヘレニズム時代になると、戦乱により崩壊したポリスに縛られることなく、個人の内面に目を向け、人間の幸福は魂の自由と平安にある、とする考え方が提唱されるようになった。
693	ギリシア	ヘレニズム時代のストア派は、美しい調和のとれたコスモスの原理である理性にあずかっている限り、万人は平等だと主張し、世界市民の思想を基礎づけた。
694	ギリシア	機械論的自然観の古代における先駆者の一人であるエピクロスによれば、私たちが人生の目的とすべき 快樂 は、放蕩者の快樂でも性的な 享樂 でもなく、身体に苦痛のないこと、魂に動揺のないことにほかならない。

	小テーマ	説明
695	ギリシア	古代ギリシアには、言葉とその意味との関係は人間の作り出した規約(ノモス)に基づくという考え方があった。また、このような考え方は別に、言葉は人間の思索活動によって明らかにされる事物のフュシス(ブシス)と結びついているとも考えられていた。
696	ギリシア	古代ギリシアのアリストテレスによると、メンテース(中庸)とは、様々な感情や行為において、然るべき程度に比して不足するか、あるいは超過するという両様の悪徳を避けてその中間を選び取ることであり、人間の徳はこの中庸によって成り立つという。
697	ギリシア	古代ギリシアの思想家アリストテレスは、「真の友愛は、自分にとっての快楽や有用性のみに基づくものではなく、善き人々の間で相手のために善を願うものである」と主張した。
698	ギリシア	古代ギリシア人たちが異民族を「バルパロイと呼んで蔑んだように、人は往々にして、自民族や自文化の価値観を絶対のもののみとした上で他の民族や文化について判断を下そうとする。エスノセントリズムに陥りがちである。
699	ギリシア	初期ギリシアの自然哲学者たちは、「事物は多様な仕方では生成するが、その根源には『空気』『水』といった構成元素が、本質において変わることのない原理として存在する」と考えた。
700	ギリシア	問答法におけるロゴスの働きを重視したソクラテスは、「私という人間は、自分で考慮してみても最善と思われるロゴス以外の他の何のものにも従わない。だから、今この場でもっとよいロゴスが提出されないかぎり決して譲歩しないだろう」と述べた。
701	キリスト教	「我々に親しい友人だけでなく、我々を嫌い敵対する者をも愛するようにしよう。自分を愛してくれる者を愛するのは当たり前であり、自分に敵対する者をさえ愛すべきなのである」とイエスは説いた。
702	キリスト教	「困っている人から哀願されたとき、我々はその人に同情し、その願いを聞き届けたいと思う。実現が難しくとも、我々はその憐れみの情を大切にすべきである」とイエスは説いた。
703	キリスト教	「人間は神による被造物であり、愛の神が遣わした救世主(メシア)を信じることによって救済される」というのが、キリスト教の考え方である。
704	キリスト教	「人間は律法の行いによつてではなく、イエス＝キリストによる贖罪を信じるによつて、罪から救済される」といつのか、パウロの思想であった。
705	キリスト教	「友人が暴漢などに襲われている場合、我々は速やかにその友人に手を差し伸べるべきである。たとえ命を落とすことになっても、友人を助けることは優れた愛である」とイエスは説いた。
706	キリスト教	13世紀に最盛期を迎えたスコラ哲学は、ギリシア以来の哲学を用いキリスト教神学の教義を理論的に体系づけるものであった。
707	キリスト教	アウグスティヌスは「我々は神の無償の愛によってのみ救済されるのであり、原罪のゆえに自ら善をなす自由を欠いている」とした。
708	キリスト教	イエスは、「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにしなさい」と命じ、相手の立場に身を置いて人に接するよう教えた。
709	キリスト教	イエスは、すべての人に平等にこそがれる、神の無条件の愛であるアガペーと、それに基づく積極的な隣人愛を説いた。
710	キリスト教	イエスは、神の公平と正義が実現される神の国の到来が近いことを、福音(喜ばしい知らせ)として人々に伝えた。
711	キリスト教	イエスは、神は律法を守った人だけを祝福するのではなく、おちぶれて帰還した息子を喜び迎える父のように、無償の愛を万人に及ぼしていると教えた。
712	キリスト教	イエスは、弟子たちとともに町や村を巡り歩き、当時の社会で罪人とされていた人々と交わり、病気の人々を癒した。
713	キリスト教	イエスは、当時の社会で嫌悪されていた徴税人や罪人と食事を共にするなど、当時のユダヤ教の社会規範に反してまでも、被差別者と共に生きようとした。
714	キリスト教	イエスは、律法を守ることでできない者であっても、罪を赦す神の愛を信じるによつて、互いに相手を大切に作る生き方を説いた。
715	キリスト教	キリスト教とイスラームとはともに、創造主である神への信仰を通して、すべての人間が血縁集団や民族を超えた新たな共同体を実現するという見方に立っている。
716	キリスト教	キリスト教における隣人愛の「隣人」とは、様々な状況において出会い、神の愛のもとで共に生きる人間のことをいう。
717	キリスト教	すべての人間は、原初の人間のふるまいに起因する不道徳な欲望、つまり原罪を負っている。それゆえ人間は、理性の指導に従い神の存在を論証していく過程を通して、この欲望から解放たれていき、やがて救済される。
718	キリスト教	トマス＝アクィナスは、イスラーム世界経由で流入した古代ギリシア哲学を用いて、キリスト教神学をいっそう精緻に体系化した。
719	キリスト教	トマス・アクィナスは、信仰と理性の区別を体系的に論じて、信仰の優位のもとで両者の統合を試み、倫理思想に関しても自然的徳は神の恩恵によって完成されるとした。
720	キリスト教	パウロは、初めは十戒に代表される従来の律法を厳格に守ることに固執していたが、イエスの教えと出会うことを通して自らの傲慢さに気づかれ、イエスの福音の中に新しい生を見出すこととなった。
721	キリスト教	パウロはイエスの直弟子ではないが、その教えを深く理解し、新約聖書に収められた重要な手紙を書いて、キリスト教が世界宗教になる基礎を据えた。
722	キリスト教	原罪に関するアウグスティヌスの考えとは、「この世は善と悪という対立し合う二つの原理から成り立っており、すべての人間は悪の原理、つまり原罪に支配されている。人間は、神に従順であったころの原初状態へと復帰し、そこに全面的に没入することで救済新約聖書に「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」とあるように、イエスは相互の愛を実践するよう説いた。
723	キリスト教	新約聖書を見ると、イエスは、ハリサイ派やサドカイ派が律法を遵守しているを驕りたがり、病者や貧者を罪人と見下していたことを戒めている。
724	キリスト教	台湾総督府の植民地官僚でもあった新渡戸稲造は、キリスト教に匹敵する精神文化として、日本に武士道の伝統を見だし、それを世界に紹介した。
725	キリスト教	スピノザは、「自然は無限で唯一の実態である神のあらわれであり、人間の最高の喜びは、神によって必然的に定められたものである事物を、永遠の相のもとに認識することにある」と考えた。
726	スピノザ	デカルトの『方法序説』では、世界は二元論的に理解される。自然の事物は「思惟」を本質とする精神から区別され、「延長」を本質とする物体として、機械論的に捉えられる。
727	デカルト	デカルトの考えでは、物事を正しく判断する良識はこの世で最も公平に分け与えられているものであり、我々人間は誰でも、この能力を正しく用いて真理に到達できる。
728	デカルト	デカルトは、真理発見のための方法的懐疑を主張し、スコラ哲学の抽象性を批判して明晰で判明な認識を重視した。
729	デカルト	デカルトは、精神と物体とを明確に区別しつつ、「我々を自然の所有者にして主人となしうるような実践哲学」があると言って、人間中心主義の考えから自然の支配を正当化した。
730	デカルト	デカルトは「精神は、思考を属性とする実体であり、延長を属性とする物体である身体から明確に区別されるものである」とした。
731	デカルト	デューイによるカントへの批判：知性を行動の道具と見なす立場からすると、道徳の場合も行動の結果を評価すべきなのに、カントは動機のみを重視している。
732	デューイ	デューイは、「人間は、知性を道具として活用することによって、よりよく環境に適応し、社会を改良する」と主張した。
733	デューイ	ニーチェは、意味もなく永遠に反復される人生を積極的に肯定することによって、現在を真に生きることができると考えた。
734	ニーチェ	ニーチェは、「神は死んだ」という宣言をもって、伝統的な宗教に集う人々の在り方を批判し、超人となって新たな価値を創造することを求めた。
735	ニーチェ	ニーチェは、意味や目的のない世界をあえて引き受け力強く生きる超人の立場を説いた。
736	ニーチェ	ニーチェは、強者を否定し弱者を讃えるキリスト教の道徳は強者に対する弱者のルサンチマン(怨み)から生まれたものであり、それに代わる新しい価値を創造しなければならないと説いた。
737	ニーチェ	ニーチェとは、今まで価値があると思われていたものの一切が実は虚偽であり、無価値であるという認識である。
738	ニーチェ	懐疑論に立つヒュームによれば、帰納法から導かれる因果関係は、観念の習慣的な連合によって生じたのだから、単なる信念にすぎないことを認識すべきである。
739	ヒューム	プラグマティズムとは、経験論の伝統を受け継ぎ、知識や観念をそれが引き起こす結果によってたえず検証しようとする思想である。
740	プラグマティズム	フロイト 良心は、両親、教育者、社会的な環境の影響によって形成されるものである。それは、自己を監視する法廷、自我の検閲者として機能し、欲望や衝動を禁止したり抑制したりする。
741	フロイト	フロイトによれば、自我は快感を求めるエス(イド)の要求を現実に対応させ、同時に良心としての超自我の命令にも応じようとする。
742	フロイト	フロイトは、従来自律的なものと見なされていた精神の中に、自己のコントロールの及ばない無意識の領域を発見した。
743	フロイト	

	小テーマ	説明
744	フロイト	フロイトは、欲求不満という心理的に不安定な状態を解消しようとする、無意識の防衛的作用に注目した。
745	ヘーゲル	ヘーゲル：家族と市民社会を総合し、欲望の体系である市民社会を克服するのが国家であり、そこにおいて共同体の普遍性と個人の個性が保持される。
746	ヘーゲル	ヘーゲル：画家がキャンパスに描きたいものを描き、そこに自らの才能や思想を見いだすように、人間は自分の考えを具体化することによって自己を実現する。
747	ヘーゲル	ヘーゲル：世界の歴史とは、精神が人間の活動を媒介として、自らの本質である自由を自覚し実現していく必然的な進歩の過程である。この過程で自由な人間が次第に増えてくる。
748	ヘーゲル	ヘーゲルによるカントへの批判：道徳は、法律や制度という形で社会の中に具体的な拠り所をもつべきだが、カントの道徳は個人の内面にのみ委ねられている。
749	ヘーゲル	ヘーゲルの考えでは、良心にかかわる内的で主観的な道徳と、所有や契約を扱う外的で客観的な法は、具体的な人倫において統合される。
750	ヘーゲル	ヘーゲルは、「国家は、市民社会的な個人の自立性と、家族がもつ共同性とがともに生かされた共同体である」と考えた。
751	ヘーゲル	ヘーゲルは、「市民社会は、独立した個々人が各自の利害を追求する欲望の体系をなしている」と考えた。
752	ヘーゲル	ヘーゲルは、「人間の求める自由は、個人の良心的行為のみで実現されるのではなく、法と道徳との統一において実現する」と考えた。
753	ヘーゲル	ヘーゲルは「責務を担う場面は、人間関係や社会制度と深く関わっているから、これらを通して道徳を具体化せねばならない」と考え、カントの思想を形式的であるとして批判した。
754	ヘーゲル	ヘーゲルは市民社会の現実について「人々が自分の欲望充足を目指して行為するため、人々の間で利害をめぐる対立状況が成立する」と考えた。
755	ベーコン	ベーコンは、「人間の精神は、生活に役立つ知識を獲得するために、先入見を排除して自然を観察する必要がある」と考えた。
756	ベーコン	ベーコンは、事実から法則を導き出す方法を提唱して、「自然は服従することによらずには征服されない」と言った。
757	ベーコン	ベーコンは、人間が芝居等を真実だと思込むように、伝統や権威を盲信して、誤った学説や主張を無批判的に受け入れてしまいがちだということを、4つのイドラのうちの「劇場のイドラ」として批判した。
758	ホプズ	ホプズの考えでは、自然状態では、欲求を満たすために自分の力をどう用いてもよいので、人生は、孤独で貧しく汚らしく残忍で短い。
759	ボランティア	ボランティア活動を促進するために、特定非営利活動促進法(NPO法)が施行されたが、コーディネーターの不足など多くの課題がある。
760	ボランティア	福祉活動や災害援助活動だけではなく、無償で地域の子どもたちにスポーツを教えることも、ボランティア活動と見なすことができる。
761	マキャヴェリ	マキャヴェリは『君主論』で、「権力の維持・強化のためにはいかなる手段も用いるべきである」と権力者に忠告している。
762	マルクス	マルクス：生産手段は少数者の私有ではなく、社会的な所有としなければならない。それによって、人々がその働きに応じて富の配分を受ける社会、さらには能力に応じて働き、必要に応じて富を受け取る社会を目指すべきである。
763	マルクス	マルクスによれば、労働は自己実現活動であるはずだが、現実の労働者はその労働力が商品化されて搾取され、労働が苦役となっている。
764	マルクス	マルクスは、「プロレタリアには、革命において鉄錐のほか失うものは何もない。彼らには獲得すべき全世界がある。全世界のプロレタリア、団結せよ！」と主張した。
765	マルクス	マルクスは、「資本主義的生産様式が支配している社会の富は、膨大な商品の集積としてあらわれ、個々の商品はその富の基本形態としてあらわれる」と考えた。
766	マルクス	マルクスは、「人間の意識が人間の存在を規定するのではなく、その反対に、人間の社会的存在が人間の意識を規定するのである」と唱えた。
767	マルクス	マルクスは、「労働者の生産物が資本家の支配下にあるという資本主義の問題を克服するために、革命による社会主義社会への移行が実現されなければならない」と考えた。
768	マルクス	マルクスは「本来、働くことは自己実現の営みであるが、労働力の商品化が進展することによって、賃金を手に入れるための強いいられた営みとなってしまい、働くことに意義が見いだせなくなる」と考えた。
769	モンテーニュ	モンテーニュ：葛藤を安易に合理化することは、自分の欲求に囚われていることを意味するものであって、避ける必要がある。
770	モンテーニュ	モンテーニュ：人間が精神的に成長するためには、自己中心性から抜け出して、自分とは違う他人の観点を理解する必要がある。
771	モンテーニュ	モンテーニュ：人生に何を期待できるかということを考えるのではなく、人生が何を我々に求めているかを考える必要がある。
772	モンテーニュ	モンテーニュは、ギリシアやローマの賢者たちに倣って、よりよく生きるための方策を求めた。
773	モンテーニュ	モンテーニュは、鋭い人間観察に基づいて、人間の生き方を独自の視点から探究した。
774	モンテーニュ	モンテーニュは、思想の体系化を図らず、日々の思索を随筆のかたちで丹念につづった。
775	ユダヤ教	ユダヤ教では、律法と預言者の言葉を通じ、超越的神が歴史において目氏族に関わり続けていることを確信し、メシアによる救済を待望する。
776	ユダヤ教	旧約聖書に登場する宗教的指導者モーセは、王の宮殿で育てられたが、荒野で啓示を受け、奴隷となっていた同胞を約束の地へと向かわせ、神から授けられた掟を人々に示した。
777	ユダヤ教	旧約聖書は、『創世記』や『出エジプト記』といった多くの歴史書、預言の書などから成り立っている。ヘブライ人のエジプト寄留と脱出、またモーセの十戒などの話は、この『創世記』や『出エジプト記』に記されている。
778	ユダヤ教	旧約聖書は、ユダヤ教およびキリスト教の聖典とみなされている。イスラエルの民だけが神ヤハウェから使命を帯びて選ばれたとする選民思想や、神の言葉としての律法を遵守しなければならないとする考え方がその特徴である。
779	ユダヤ教	旧約聖書は、主にヘブライ語で書かれており、旧約とは本来、「旧い契約」という意味である。ここで「契約」とは、神ヤハウェとイスラエルの民とのモーセを通じた契約を意味している。
780	ルソー	ルソー：人間の不平等は財産の私有によって生じたものである。したがって、人間同士の自由で平等な関係は、人々の私利私欲を排除した一般意志に各人が自発的に従うことによって、はじめて実現される。
781	ルソー	ルソーの考えでは、自然状態においては、人間は、自己愛と憐れみの感情とをもつだけで、虚栄心も敬意も軽蔑も知らなかったの、人間相互間にはいかなる社会的交渉もなく、所有権や正義といった観念もまだ存在しなかった。
782	ルソー	ルソーは、「ホプズが『万人の万人に対する闘争』として描いているような自然状態は、本当の自然状態ではなく、文明によって墮落し、富をめぐる争いを始めた人間の姿である」と考えた。
783	ルソー	ルソーは、「未開人の社会と違って、文明社会は富の不平等、支配と服従、悪徳などで満ちているが、その主な原因は財産の私有にある」と考えた。
784	ルソー	ルソーは、人間が欲望の奴隷になるのではなく、自分が自分の主人になるべきことを重視し、自ら立てた法に従うことが真の自由だと主張した。
785	ルネサンス	『百科全書』は、様々な知識の組織的な解明を目指し、学芸の成果を批判的に吟味した。
786	ルネサンス	ヴォルテールは、啓蒙思想の立場から、イギリスの文化を紹介してアンジャン＝レジームやカトリック教会を批判する文筆活動を行った。
787	ルネサンス	エラスムスは、カトリック教会の腐敗を批判し、ルターとの論争の中で人間の自由意志を唱えた。
788	ルネサンス	エラスムスは、思慮のない感情のゆえに混乱を引き起こす君主に比べれば、残酷さをもって統一と平和を確立する君主のほうがはるかに憐れみ深いと主張するなど、他国の侵略にさらされているイタリアの分裂状況の克服を訴えた。
789	ルネサンス	ルネサンスの思想家ピコ・デラ・ミランダは「人間は自分の価値を自ら選ぶことができる名誉ある存在であり、自由意志によって創造的に生きることができる」と主張した。
790	レヴィナス	レヴィナス：汝殺すなかれと呼びかける他者の苦痛に責任をもつとき、人間は倫理的主体となる。
791	ロック	ロック：本来、自由で平等な人間は、自分たちの所有権を守り、平和な生活を維持していくために、政治社会をつくることに互いが同意することによって政府を設立した。
792	ロック	ロックによれば、生命、自由、身体および労働は各人の所有物であり、このことにつき各人は他者に何も負っていないから、自らの労働の所産も本人の所有物になる。国家の最高権力といえども、本人の同意なしには誰からも所有物を奪えない。
793	ロック	ロックは、「国家は個人の信仰に干渉してはならず、教会が国家が行使する統治権に干渉してはならない」と主張した。
794	ロック	ロックは、「人間の心は白紙のようなもので何も書かれておらず、知識は経験によって得られるものである」と考えた。

	小テーマ	説明
795	安藤昌益	安藤昌益：消費を中心とする社会を批判し、農民の立場に立つて自然と協調しながら生きる世の中の確立を説いた。
796	安藤昌益	安藤昌益：人間に対する天地の平等なあり方をふまえ、すべての人が「直耕」する「自然世」の立場から、人為的な「法世」に内在する差別的人間観を批判した。
797	安藤昌益	安藤昌益は、万人が土を耕して生活する平等社会を理想とし、自然世への復帰を主張した。
798	井原西鶴	井原西鶴によれば、この世は「憂き世」ではなく、「浮き世」である。眼前の日常世界の中で、日々様々な快楽や富を追求するところにこそ、人間の生のありのままの姿がある。
799	家族	日本の急激な核家族化には、産業構造の変化により若年層が職を求め都市部へ集中したなどが背景にある。
800	科学技術	アリストテレスによる目的論的自然観が支配的であったが、近代になるとケプラーが惑星の運動法則を、ニュートンが万有引力の法則を発見し、ともに自然には数量的な法則性があると説いた。
801	科学技術	ガリレイは、望遠鏡による天体観測を行うとともに、振り子の実験などに基づいて物体運動の理論を展開し、近代科学の基礎を築いた。
802	科学技術	科学技術の健全な発展のためには、政府や企業が情報を国民に公開し、その判断を求める必要があるため、市民との間で開かれた意見交換ができる形に専門的機関のあり方を改善していく必要がある。
803	科学技術	技術には、国家や企業、科学者の集団などの複雑な利害が絡んでいる場合があるため、情報や知識が独占された場合、人々に情報が一方通行で流され、大衆操作に陥る危険性がある。
804	科学技術	現代人は多くの点で自然科学の恩恵に浴しているが、同時に、科学のもたらす負の遺産にも直面している。我々はこうした科学のあり方を意識しつつ、近代以降の科学の発展をもたらした思考法の可能性と限界を問い続けることが大切である。
805	科学技術	人間を工作人(ホモ・ファブール)と定義するベルクソンは、「哲学者は自然を仲間として扱い、……服従も征服もせず、共感しようとする」と述べて、科学的な知性による過度の自然支配を批判した。
806	科学技術	知識について実証主義的な主張をするスペンサーは、「科学によって知識の総合を目指すべきであり、生物学にみる進化の考え方を応用することで、人間社会についても科学的知識を得ることができると考えた。
807	官僚制	ウェーバー、合理性を徹底的に追求した近代官僚制の特徴とする社会を作り上げた現代人は、いわば鉄の檻と化したこの社会の中で逃れがたく管理され、豊かな精神と人間性を欠く存在に墮する危険がある。
808	官僚制	ウェーバーが挙げた官僚制の特徴のひとつとして組織の構成員は、個人的な感情や価値観をもちこまず、規則に従って効率的に仕事をこなすことを求められることがあげられる。
809	環境	「宇宙船地球号」という比喩は、その乗組員として人類が一体であり、閉じた環境としての地球の未来について責任を共有しているという意識の現れである。
810	環境	「持続可能な開発」：これまでは経済成長のために環境を犠牲にして開発が進められてきたが、さらなる環境破壊は開発の継続をも不可能にするので、今後の開発は環境を保全するという条件下で行わなければならない。
811	環境	「世代間倫理」：環境破壊や資源問題などは長期間にわたって影響を及ぼすので、子や孫ばかりでなく、決して出会うことのない、はるか後の世代の人間に対しても、私たちは責任を負っている。
812	環境	「地球規模で考え、地域から行動しよう」：環境問題に関しては、その関連や重要性を地球規模で考えるとともに、ゴミの排出やエネルギー消費の削減など、各人の身近な事柄から行動を始めるべきである。
813	環境	1990年代初頭にリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)では、「現在生きている人々は将来生まれてくる人々が生存する可能性を狭めてはならない」ということに配慮して、「持続可能な開発」が主要なキーワードとなった。
814	環境	これまで環境破壊を引き起こしてきた先進諸国が、開発途上国の開発のあり方に種々の要請を行っていることに対して、抵抗や反発が生じている。
815	環境	ストックホルムで開催された国連人間環境会議が、我々は「歴史の転換点」を迎えたと宣言したことは、我々が環境のことを慎重に考えて行動しなければ、回復不可能なほどの重大な害を地球環境に対して与えることになるという認識の現れであり、これは、環境破壊の問題がすでに70年代の段階でいかに深刻になってきたかを物語っている。
816	環境	すべての生物の生活圏の一部は、他の生物の生活圏と重なっている。地球は全体として一つの生態系をなしており、人間もこのような生態系の中に位置づけられるという点で、他の生物との違いはない。
817	環境	リオ宣言を採択した地球サミットでは、地球環境保護と長期的な経済的発展は両立しないものではなく、むしろ相互に補完的な関係にあることが確認された。
818	環境	レイチェル＝カーソンは、殺虫剤や化学薬品の乱用の危険性を指摘し、「自然は人間の生活に役立つために存在すると考えるのは思い上がりである」と論じた。
819	環境	環境倫理には、自然との調和を図りつつ、自然の賢明な利用や開発を志向する「人間を中心に考える立場」と、原野などをそのままの状態に残すべきであるとする「生態系を中心に考える立場」の二つが考えられる。
820	環境	国連人間環境会議の人間環境宣言は、「かけがえのない地球」をスローガンに掲げ、人類の福祉、生存権のためには人間の環境が重要だとし、環境の保護と改善を各国政府の義務とする認識を打ち出した。
821	環境	自然観察グループを中心とした人々が、アマミノクロウサギなどの野生生物を原告として自然環境保全のための訴訟を起こしたことは、自然にも存続する権利を認める考え方のあらわれである。
822	環境	石牟礼道子：工場廃液による汚染のために公害病に冒された人々を取材し、被害者に強い共感を示して公害問題の実態に迫った。
823	環境	絶滅の危険があるオオタカがダム建設予定地に生息していたため、建設計画が行政によって大きく変更されたことは、自然にも存続する権利を認める考え方のあらわれである。
824	環境	戦争は単に国家や国民に対してだけでなく、枯葉剤の散布や油田の破壊などに見られるように、自然環境に対しても甚大なダメージを及ぼす。
825	環境	地球温暖化問題においては、現在の討議や民主的決定手続に参加できない未来世代が、現在の世代から深刻な環境危機を押しつけられる恐れがある。
826	環境	動物愛護運動をしている人々が、動物の生命を尊重する立場から毛皮製品の販売や使用に反対することは、自然にも存続する権利を認める考え方のあらわれである。
827	環境	道徳的責任を考える際、理性に従う自律的個人という観点は重要である。国や世代にとらわれずに思考することができれば、現代社会の様々な問題について、道徳的責任の主体であることはできないからである。
828	管理社会	管理社会においては、マスメディアを介した情報の管理によって、人々の意識や理解が画一的になるように操作され、人々の心の在り方にまで意図的な介入が行われる危険性がある。
829	管理社会	管理社会においては、各種情報システムの発達によって、個人データの徹底した管理が可能になったが、その利用の仕方次第では、プライバシーの権利が侵害される危険性がある。
830	管理社会	管理社会においては、政・官・財の統一的管理機構が成立し、その機構に属する人々にとってのみ有利な支配が、その大きな権力や経済力をもって、組織的に行われる危険性がある。
831	狂気	フランスの思想家フーコーによれば、近代合理性は、非理性に対立するものとして現れて、狂気・不道徳・病氣などをすべて、自らの他者あるいは異質なものとして社会から排除し監禁した。そして、狂気を差別化する過程で、理性は自らを絶対的基準として確現代の思想家フーコーは、理性と狂気とが区別されるようになってきた西洋の歴史を分析し、確固とした理性という考えが歴史の過程の産物であることを明らかにした。
832	狂気	フランスの思想家フーコーは、理性と狂気とが区別されるようになってきた西洋の歴史を分析し、確固とした理性という考えが歴史の過程の産物であることを明らかにした。
833	経験論	フランス啓蒙思想家であるヴォルテールは、ロックの経験論に学び宗教的な迷信や偏見を批判した。
834	経済成長	ローマ・クラブは、産業化の傾向がそのまま加速し続ければ、資源の枯渇などによって、世界は100年以内に成長の限界に達すると予測した。
835	経済成長	経済発展に伴う都市化の進展により、地域社会のきずなが損なわれ、道徳心の低下や福祉コストの増大といった問題が指摘されている。
836	経済成長	現代の経済は消費者の欲望を駆り立てることにより発展してきたが、環境破壊や資源の枯渇は、経済成長には限界があることを示している。
837	経済成長	限りない開発や発展を主要な目的とする社会のあり方から、個々人の精神的な豊かさを重視する社会のあり方への改革が求められている。
838	古学派	伊藤仁齋が「論語」を「最上至極宇宙第一の書」と呼んで尊び、荻生徂徠が「学問は歴史に究極する」と述べて「六経」を重んじたように、古学派の儒者たちは人の在り方の根拠を、特定の経書や歴史の中に求めることで、「相親しみ、相愛する」人の在り方や、人
839	古学派	伊藤仁齋が説いた「他者に対する言行や心意に嘘や偽りが無いこと」を意味する「誠」は、「誠は天の道なり」という経書の言葉をもとに、天地万物の根源的あり方と関連づけられていた。
840	古学派	伊藤仁齋によれば、日常卑近な人間関係における愛はかすかで小さいが、その愛こそ拡充すべき美の心である。人々が孔子の道に立ち戻り、他者に対して忠信や忠恕に陥るならば、互いに愛し親しむ和合が実現する。
841	古学派	伊藤仁齋は、「真実を求めて自暴自棄に陥ってしまった者は、性の善を説く孟子の教えから、自分のなかにも善の可能性があると学び、善の可能性を拡充していかなければならない」という思想にいたった。

小テーマ	説明
842	古学派 伊藤仁齋は、「人と人との理想的な和合である仁を実現するためには、他者に対する忠信が必要である」と説いた。
843	古学派 荻生徂徠：聖人は、言葉だけでは人を教えるのに不十分であることを知っており、礼楽を制作して、それによって教え導き、人を感化しようとしたのである。
844	古学派 荻生徂徠は、人間の性質が多様で、分裂や対立を避けることができないゆえに、天下を安んずるために立てられた先王の道に従って、お互いに助け合いながら生活しなければならないと説いた。
845	古学派 荻生徂徠は、聖人の言葉に直接触れるために古代中国の言語を研究する必要を訴え、後の国学の方法論にも影響を与えた。
846	古学派 荻生徂徠は「儒学の經典を正しく読解するためには、それが書かれた古代の言葉の理解が欠かせないのに、朱子学が後代の言葉によって聖人の道を把握したとするのは、勝手な思い込みである」として朱子学を批判した。
847	古学派 荻生徂徠は「人間は能力の差はあってもそれぞれに有用な個性のある存在なのに、朱子学がすべての人に同じように完全な人格者となれと説くのは、無理な要求であるばかりか、有害無益である」として朱子学を批判した。
848	古学派 荻生徂徠は「道とは、社会の秩序を維持するために過去に存在した、理想的な礼楽刑政の総称だから、朱子学が説くように自己の内心を道徳的に反省したとしても、理解できるものではない」として朱子学を批判した。
849	古学派 古学派の儒者たちは、万物は理と気とから構成されるとし、時間・空間を貫く一なる理を明らかにすることが重要だと説いた。
850	古学派 江戸時代の日本では、例えば、中国古代の聖人が制作した「安天下の道」に価値を見いだした荻生徂徠が中国の古典を絶対的なものと見なしていたように、一般に儒学に基づいて中国を中心とした世界の捉え方をしていた。
851	古代 『古事記』によれば、伊邪那岐命・伊邪那美命という男女二神が、その結びつきにより、国土と諸神を生み出したとされる。
852	古代 古代日本において、祭祀に奉仕する者は、身心に付着した穢れを除くため禊を行った。
853	古代 古代日本において、祭祀の場では、神に対して欺き偽らない心のありようが重んじられた。
854	古代 古代日本において、祭祀を妨げる行為は罪とされ、これを犯した者には祓えが課せられた。
855	古代 災害や病気を外からふりかかると考え、「それを除去したり代償を捧げたりすることによって正常な状態に戻れる」として行われるのが、祓(祓え)の儀式である。
856	功利主義 「自分の行動が正しいかどうか不安を覚えるとき、私は、その行動をとることによって人々の快樂の量が増えるかどうかを考える」というのは、功利主義者ベンサムの方針に基づいたものである。
857	功利主義 J. S. ミル：「満足した豚であるより、不満足な人間であるほうがよい」とは、精神的快樂のような高次の快樂の追求が人間の幸福に不可欠な要素だからである。
858	功利主義 J. S. ミル：各人の多様な個性の発展は、社会が不断に進歩していくためにも重要であるから、個人の自由に対する社会的制約は、他者に危害が及ぶ場合に限られるべきである。
859	功利主義 J. S. ミルによれば、人間は誰でも、何らかの形で「尊厳の感覚」をもっている。したがって、「満足した豚であるより、不満足な人間であるほうがよく、満足した馬鹿であるより不満足なソクラテスであるほうがよい」。
860	功利主義 J. S. ミルは、快樂に質的な差異を認め、人間の良心や利他的心情を重視するとともに、行為の正・不正の基準を、その行為が自分を含めた関係者の最大の幸福をもたらすかどうかという点に求めた。
861	功利主義 J. S. ミルは、「個々人の多様な個性の自由な発展こそが社会の進歩をもたらすのであるから、他者に危害を加えない限り、自由の規制はするべきではない」と考えた。
862	功利主義 J. S. ミルは「女性が従属的な地位におかれている状況は、現代社会において見過ごすことのできない現象であり、しかも民主社会の根本原理に反した現象である」と指摘した。
863	功利主義 ベンサムは、各人が己の快樂を求め苦痛を避けるという人間本性の事実から、功利性に基づく道徳原理を考えた。
864	功利主義 快樂と苦痛こそ人間を支配するものだと考えたベンサムは、個々人の感じる快樂の量を合算して社会全体の幸福の総量を求める場合に、各人は誰もが等しく一人として数えられなくてはならないと主張した。
865	功利主義 功利主義に立つベンサムの思想によれば、公益をそごう行為をした者に対しては、その行為によって得た利益を上回る不利益を与えるような制裁を加えねばならない。
866	江戸時代 松尾芭蕉は、新たな俳諧の道を切り開こうとして、旅に生きた。その結果、内面的な閑寂さとしての「さび」の境地が獲得された。
867	江戸時代 一宮尊徳は、「人間は自然の法則に従うだけでは、抗するような活動も行うのが農業であり、天道と人道を調和させる必要がある」と説いた。
868	江戸時代 二宮尊徳は、人間の存在が天地や君・親の広大な徳に支えられていると考え、「農は万業の大本」であると説いた。また尊徳は、荒廃した農村の復興にも尽力し、そのためには分度が必要であることを強調した。
869	国学 「生きとし生けるものすべてが歌を歌うように古の人々も心のありのままに歌を歌っていたのだから、古の歌を通じて当時の人々の心と同化し、心のありのままに生きる」というのは、賀茂真淵の考える「天地の心」にのっとった生き方といえる。
870	国学 賀茂真淵が万葉集に見いだした「理想的な精神」とは、素朴で力強く、おほかたさを重んじる精神であった。
871	国学 近世の国学者賀茂真淵は、人間を「万物の霊」と位置づける儒学の教えに対し、むしろ人間は「万物の悪しきもの」なのではないかという疑問を抱き、『国意考』を著した。
872	国学 国学者の本居宣長は生涯をかけて『古事記伝』を著し、「惟神の道」が日本古代に実在したと主張して、日本に固有な人の在り方を説いた。
873	国学 儒教的な古典解釈を批判した国学者である契沖は、日本人の心を伝える文献である『万葉集』の研究に取り組み、『万葉代匠記』を著して、古代日本人の精神を学ぶべきだと主張した。
874	国学 本居宣長によれば、日常生活において、物事に触れたときに生じる、楽しい、悲しい、恋しい、憎いなどの感嘆こそ本来的な心の働きである。人間は感嘆によって物事の本質を知る。
875	国学 本居宣長は、「現世での行いによって死後の世界が決定されるということはない。そのことをしっかり受けとめ、仏教や儒教のようないつわりの救済の道に走ってはならない」と主張した。
876	国学 本居宣長は、「日本人は、仏教や儒学が入って来る以前の教えなき時代のあるがままの世界を知らなければならない」と考えた。
877	国学 本居宣長は、『源氏物語』の光源氏はただの好色者ではなく、「もののおはれ」を知り、人間に深く通じた者であるとした。
878	国学 本居宣長は、『古事記』のイザナギ(イザナギ)・イザナミ神話に示されているように、人間は死ぬれば必ず汚い黄泉の国に行くとした。
879	国学 本居宣長は、よい歌を詠むためには、『源氏物語』を読んで、人間の心の微妙な動きを深く知ることが必要であるとした。
880	国学 本居宣長は『源氏物語玉の小櫛』において、恋に揺れ動く人の姿のうちに、「もののおはれを知る」という人の真実のありようを認めた。
881	国際化 金融のグローバル化を中心とした経済の国際化は、各国経済に急激な再編成を促し、多くの国で経済不安や社会の流動化を生み出している。その反動として、「国民的な誇り」を強調する歴史観が現れたり、国民的なシンボルに対する忠誠心が称揚されたりする。
882	国際化 経済のグローバル化に伴い、投機的取引が拡大するなど、金融市場の不安定要素が増加し、その管理はますます困難になっている。
883	国際化 国際化が進展する今日、ボーダレス化が様々な領域で起こっている一方で、民族的アイデンティティを主張する動きも世界各地に見られる。
884	国際化 国際化時代に生きる私たちは日本の伝統思想をふまえ、世界の人々との相互理解を促進する努力をしなければならない。伝統を現代に活用するとは、こうした営みを積極的に行うことにほかならない。
885	国際化 植民地支配や十五年戦争のために日本で暮らすようになっていく日韓・朝鮮人は、いままち民族差別に日々直面している。こうした身近にある問題が見落とされる場合には、「国際化時代」という言葉も空虚なキャッチフレーズに終わってしまう。
886	思考 パースによれば、思考を明晰にするためには、信念の表現の違いではなく、信念が生み出す行動の仕方の違いに注目すべきである。
887	思想 アニミズムとは、「この世のものは、動物植物のみならず無生物を含めて靈魂を宿しており、それが神秘的に働いている」とする考え方のことである。
888	自由 アダム・スミスによれば、人々が社会の利益を増大させようとする場合よりも、自己利益を追求する方が、より効果的に社会の利益を増大させることがしばしばある。それが実現するためには、完全な自由競争が行われなければならない。
889	自由 アダム・スミス：個人が自己の利益を自由に追求することで社会全体が豊かになるのだから、国家の重要な役割は個人が自由に獲得した財産を保護することにある。
890	自由 アダム・スミスは「共感という道徳的な感情が、利己心にもとづく各人の行動を内面から規制して、私益と公益との調和が図られる」と説いた。

	小テーマ	説明
891	自由	スピノザ:「自由な人間は何よりも死について考えることが少ない。自由な人間の知恵とは、死についての省察ではなく、生についての省察である」
892	自由	ハイデッカーによれば、人間は、自己の極限の可能性である死へと先駆することで、自らのかわかる身の周りの世界に没入した状態から、自らに最も固有な自己に覚醒する。
893	自由	ハイデッカーによれば、人間は技術によって、自然を利用する仕組みに取り込まれてしまっているが、根源としての存在の呼びかけに従わねばならない。
894	実存主義	「なぜ自分が今、この場所にいる。他にもないこの『私』であらねばならないのかという疑問を抱くときに生じる気分」というのは、実存主義における不安の例である。
895	実存主義	「自己の存在の内に根ざす死、苦、争い、罪といった否定的なものに対する無力さを見いだすときに生じる気分」というのは、実存主義における不安の例である。
896	実存主義	「人間は自由の刑に処せられている」というサルトルの有名な言葉は「客観的な道徳的基準が存在しないとされる世界に投げ出されている人間の不条理を描きつつ、しかし人間だけが自由であり、それに伴う責任を負う」という肯定的な言葉として理解でき
897	実存主義	「特に理由もなく、自らが世界に投げ出されてたつひり頼るものもなく存在するのを見いだすときに生じる気分」というのは、実存主義における不安の例である。
898	実存主義	「良心とは、日常生活に埋没した画一的な自己を本来的な自己へと呼びさます、現存在の呼び声である」というのが、ハイデッカーの見解である。
899	実存主義	20世紀フランスの実存主義の哲学者であるシモーヌ・ド・ボヴォワールは、「人間の集団にあっては、何ものも自然のままではない。とりわけ女は、文明がつくりあげたものである。最初から女の運命には他人が介在している。この介在が他の方向でなされていれば、まったく別の結果になっていることだろう」と述べた。
900	実存主義	キルケゴールは、誰にとっても成り立つような普遍的で客観的な真理ではなく、自分にとっての真理、すなわち自らがそのために生き、また死にたいと願うような主観的な真理を追求した。
901	実存主義	キルケゴールは、当時のデンマークでも影響力のあったヘーゲル哲学を批判しつつ、本来的な自己とは神の前に立つ単独者としてのみ可能になると主張した。
902	実存主義	キルケゴールは、当時の世俗的な風潮、世俗化した宗教と戦いながら、神の前に単独者として立つことを求めた。
903	実存主義	キルケゴールは、倫理的であろうとすると絶望せざるを得ない人間の現実を直視し、理性を通じた自由の実現という構想は、人間の現実を無視した空論にすぎないと考えた。
904	実存主義	キルケゴールは「本来の自己を見失って絶望する人間は、理性によっては根拠づけられることのない信仰への決断によって、本来の自己を回復できる」と考えた。
905	実存主義	キルケゴールやニーチェから大きな影響を受け、人間存在を実存において捉えたハイデッカーは、その人間存在が日常性の中で誰でもあって誰でもないような「世人(ひと)」という在り方に類落(たいらく)する状況を見極め、自己の本来的な在り方へと立ち返る
906	実存主義	サルトル:「人間はどこまでも自由な存在である」と考え、どんな行動についても、自分の選び取ったこととして、人類全体に対して、その責任を負わなければならないと主張した。
907	実存主義	サルトルは、「日常的な道具は使用目的があらかじめ定められており、本質が現実の存在に先立っているが、現実の存在が本質に先立つ人間は、自らつくること以外の何ものでもない」と考えた。
908	実存主義	ジェームスによれば、真理というものは、自分にとって役立つものであり、個別的で相対的であるとともに条件的なものである。
909	実存主義	ナチスによる迫害を受けたオーストリアの精神医学者フランクは、あらゆる自由が奪われる状況においても、人間らしい尊厳に満ちた生き方が求められていると考えた。そして、人生に期待できるものは何もないという絶望と戦うためには、人生の意味についての見方を変える必要があるとした。
910	実存主義	ハイデッカー:「良心の呼び声は本来的な自己の声である。死への不安から逃れ、日常の世界に埋没し、平均的で画一的な存在になった人間に対して、良心は本来的な自己というものに気づかせる。」
911	実存主義	ヤスパーズ:「人間は、死や苦しみなど、自分の方ではどうすることもできない状況に直面したときに、その不安と絶望を越えて、超越者に出会い、しかも他の実存との『愛しながらの戦い』によって連帯することで、真の実存に目覚める。」
912	実存主義	ヤスパーズ:「良心は、人間が死、苦、争い、罪といった状況から逃避し、自己を喪失するのを妨げる。人間は良心を介して超越者を感じるが、良心は超越者の声ではなく、自己自身の声である。」
913	社会学	アドルノは、「権威に弱く硬直した性格の人は、偏見をもちやすく、人間を上下関係のなかに序列づけて考える傾向がある」として、このような権威主義的性格の特性を、社会学的な研究によって明らかにした。
914	社会学	ある集団についてのステレオタイプは、いったん作り出されると、メディアなどを通じてひとり歩きすることが多い。
915	社会学	ある集団に対して投影されたステレオタイプは、投影する側が心理的に自らのうちにもつ否定的なイメージであることが少なくない。
916	社会学	ある集団の「われわれ」意識が形成される過程で、ステレオタイプが他者との差異を強調するために使われることもある。
917	社会主義	オーウェンは、利害対立を生む社会のあり方から労働者の悲惨な状態が生じたことを憂え、利害対立のない共同社会という理想を主張し実践した。
918	朱子学	「忠臣蔵」の討ち入りは、「喧嘩両成敗」という当時行われていた原則を公平に適用せず、当事者の片方しか処罰しなかったことに端を発する。彼らの行動は失われた「等しさ」を回復する企てと解することができる。
919	朱子学	近代社会においては、人間と自然とを分離し、各々が別の原理で動いているとする見方が支配的となっていく。儒学の徳目理解も次第に変更を余儀なくされていく中で、儒学の世界観を自らの知的基盤の一部にしてきた日本の知識人は、儒学を批判したり、それに近代西洋思想を接合しようとしたりすることによって、新たな思想を形成していった。
920	朱子学	江戸時代の朱子学者による天人合一思想とは、「自己をつつむ敬を重視し、本来の自己へと立ち返れば、自己と天とが通い合い、両者の合一が可能なものとなる」というものであった。
921	朱子学	山鹿素行は、「武士は、主君への『忠』、朋輩への『信』、独りを懐む『義』を大切にすべきだが、さらにそれらを通して、農・工・商の三民を教導する道徳上の模範であるべきだ」と説いた。
922	朱子学	山鹿素行は戦国武士のあり方を批判して、儒教倫理に基づく士道を主張した。
923	朱子学	「孔子思想は、西洋的近代化を目指した日本において、世界認識の枠組みとしての力を失い、日本と東アジア諸地域との関係は大きく転換した。」
924	朱子学	藤原惺窩は、道徳や礼儀による社会秩序を説く儒学の教えに強く引かれ、儒学を五山僧の教養から独立させて、近世日本に定着させる端緒をなした。
925	朱子学	日本の朱子学者たちが仏教を批判した理由の一つとして、「仏教は加持祈禱で災いを除くといつて人々を惑わしているから」というものがあった。
926	朱子学	日本の朱子学者たちが仏教を批判した理由の一つとして、「仏教は最終的な人間の救済を来世に求めているから」というものがあった。
927	朱子学	日本の朱子学者たちが仏教を批判した理由の一つとして、「仏教は出家と称して現実の人間関係を否定しているから」というものがあった。
928	宗教改革	カルヴァンによれば、神は救済される人間とそうでない人間とをあらかじめ決定しているが、人間はその決定を知ることはいかならない。
929	宗教改革	カルヴァンは、個々人の救済は神によって予定されており、人が自分の救済を確信するためには神から与えられた自分の職業に禁欲的に励むほかはないと主張して、厳格な規律のもとにキリスト教都市を実現しようとした。
930	宗教改革	ルターによれば、キリスト者はみな等しく神の前に立つものであり、その観点からは、世俗の者も司祭である。
931	宗教改革	ルターによれば、救済のために必要なのは、教会が勧める善行や功徳を積むことではなく、ただ神の恵みを感じることである。
932	宗教改革	ルターは、教皇を頂点とするカトリック教会が信仰のみならず政治や学問の世界にも権力を発揮していることを批判した。
933	宗教改革	宗教改革以後、各地で宗教戦争が起きた結果、そうした惨禍をもたらす宗教のあり方に対して冷静な批判が必要になった。
934	消費者	テレビ番組やCMなどを通して消費者は欲求を絶えず刺激されており、それを一因とするいわゆるカード破産が社会問題となった。
935	消費者	大量に消費し、大量に捨てるという無駄の多いライフスタイルから、不要物を再利用して廃棄物を減量するライフスタイルへの転換が求められている。
936	消費者	文明化した都市社会の中で、次々と与えられるものを消費するライフスタイルから、自然と共生して簡素に生活するライフスタイルへの転換が求められている。
937	情報化	インターネットでは、他者との関係持続の必要がなく、自分たちの主張と異なる立場のサイトを攻撃したり、共感する者同士だけで集まることができる。
938	情報化	インターネットでは、誰でも情報発信を許され、とんぱに誤った認識でも無責任に公開でき、検索でそつしたサイトへ簡単にたどり着くこともできる。

	小テーマ	説明
939	情報化	インターネットでは、匿名性を利用して、公然と口にするのが不適切だと思われるような攻撃的・差別的な思想や偏見・悪意をまきちらすことができる。
940	情報化	インターネットは、ボーダレスな情報伝達を可能にするが、同時に特定の趣味や関心を共有する人々を結びつける媒体にもなる。
941	情報化	情報は物と異なって、コピーを作ることが容易なため、知的所有権の保護が重要な課題になっている。
942	情報化	様々な情報が提供されたとしても、その技術的、社会的な意味を読みこなすことは難しいため、批判的な視点から見るための力量をどのようにしたら高めていけるかが問われている。
943	心理	「もう一度行きたいと思っている場所に、忘れ物をしてしまう」というのは、フロイトが考えた無意識が現れる例である。
944	心理	「気掛かりなことがあると、何かに追いかけられる夢を見てしまう」というのは、フロイトが考えた無意識が現れる例である。
945	心理	「子どもも大学に入り、家を出ていきました。心の中にぽっかりと穴が空いた感じが続いています。自分の人生っていったい何だったのだろうか、自分の存在意義って何なのだろうか、いろいろと思い悩んでいます」というのは自我同一性を失っている心理状態
946	心理	「複雑な感情を抱いている相手の名前を、言い間違えてしまう」というのは、フロイトが考えた無意識が現れる例である。
947	心理	エリクソンの言う「アイデンティティ」とは、「人間は、日常生活での様々な局面の変化を通じて、変わらぬ連続性と一貫性を保つ「私」の中核部分をもち、同時にそれが共同体の他者に共有、承認されることを求める」というものである。
948	心理	エリクソンは、青年期の課題として自我同一性の確立を提唱し、「幼児期と社会」では、その基礎となる乳幼児期の親子関係の重要性を指摘した。
949	心理	マズロー：自己実現の欲求という最高次の欲求は、階層構造をなす生理的欲求、安全欲求、所属と愛の欲求、承認欲求が順次すべて満たされたとき達成される。
950	心理	マズロー：人間形成が十全になされるには、欲求の健全な充足を目指すなければならないが、欲求には、睡眠や飲食などの単に生理的なものだけではなく、その上位に位置づけられる、愛情や集団への帰属意識などの精神的欲求もある。
951	心理	やまあらしのジレンマとは、他者と距離が遠すぎると孤独になり、近すぎても摩擦や衝突を起こすなど、他者との適度な距離を保とうとすることによって起こる人間関係の葛藤のことである。
952	心理	ユング：人間の心には無意識の領域があり、個人的なもの集合的のものがある。集合的無意識は個人的無意識よりも深い層にあり、そこには、元型という神話的な性格を帯びた普遍的イメージが生まれながらに備わっている。
953	心理	ユングは、個人的無意識と集合的(普遍的)無意識とを区別し、宗教的象徴は集合的(普遍的)無意識の中に存在する元型が意識によってイメージとして把握されたものであるとした。
954	心理	臆病な人が強気な態度をとったりむやみに威張ったりするのは、葛藤に対して自我を守るための心理学的な防衛機制(防衛反応)の一つである「反動形成」の例である。
955	心理	仮面をかぶった人間関係とは、自分が傷つくことをおそれるあまり、本音を隠して偽りの仮面をかぶり、他者に過度に同調することで表面的になってしまう人間関係のことである。
956	心理	劇団の入団選考に落ちたTの「どうせ、もともとあそこのお芝居にはあまり興味なかったの」という言葉は、自分がオーディションに落ちたという辛い現実を直視する苦痛を避けるため合理化である。
957	心理	失恋した高校生のFさんが、広く社会に関心を向けて、ボランティア活動に打ち込んだのは、昇華の例である。
958	心理	多くの親は、息子には生活力のある行動的な人、娘には情緒豊かで温かい家庭人になることを期待する。親は、このような性差にとらわれた期待が子どもの才能や個性の発揮を阻害しかねないことを自覚する必要がある。
959	心理	抑圧とは、自身で認め難い自らの観念や欲求が、自分には無いかのように思い込んでいることをいう。
960	心理	留学することをあきらめたAさんが、「グローバル化が進んでいるので、留学なんてどんどん意味がなくなってくるよ」と言っているのは、合理化の例である。
961	神道	山崎闇斎は、居敬窮理の厳格な実践を説き、後に儒教の理と日本の神とを結合させた独自の神道説を唱えた。
962	神道	平田篤胤は、古来の神道の姿を求めて、復古神道を提唱し、現実の生の背後にある死後の靈魂の行方を論じて、その教義は民間にも広まった。
963	神仏習合	神仏習合とは、神道と仏教が重なり合うことを意味し、それぞれの要素は変質しつつも消滅はしない。神社に神宮寺がおかれるなどは、その例である。
964	神仏習合	神仏習合とは、神道と仏教が重なり合うことを意味し、神と仏が同体であるとみなされることもある。権現信仰などは、その例である。
965	神仏習合	神仏習合とは、神道と仏教が重なり合うことを意味し、神道または仏教いずれかが支配的に理解されることもある。本地垂迹説などは、その例である。
966	神仏習合	神仏習合思想は、平安時代には本地垂迹思想として展開されたが、日本の神々は、衆生の教化のために諸仏が権(かり)に神と成り現れた化身、すなわち権現とみなされた。
967	神仏習合	平安時代の頃に盛んとなり、当時の人々の信仰に影響を与え、本地垂迹説とは、仏が仮に神と成り日本の国に現れるとする考えである。
968	神仏習合	本地垂迹説とは、「真理の根源である仏が衆生を救済するために神と成り現れる」とする説である。
969	進化論	ダーウィンの進化論によれば、人間を含めた生物は、突然変異と自然選択に基づいて、環境に適應することにより、系統的に分化して、多様なものとなっていく。
970	人権	「キング牧師の演説」：わたしには夢がある。それは、いつの日か、わたしの四人の小さな子どもたちが、肌の色によってではなく、人格そのものによって評価される国に生きられるようになることだ。わたしには夢がある！
971	人権	「ユネスコ憲章」：戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活を知らぬことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。
972	人権	「知る権利」は国民が民主的な決定に参加するために必要な権利だが、情報は国民の要望どおりに開示されるわけではない。
973	人権	「知的財産権(知的所有権)」は知的な創造活動を保護するためにあるが、人々にとって有益な情報の利用が制限されることになる場合もある。
974	人権	「報道の自由」はメディアを通じて国民に様々な情報を伝える権利であるが、少年犯罪に関する報道には制限が設けられている。
975	人権	ヴァイツゼッカー：過去に目を閉ざす者は、けっきょく現在にも目を開かなくなる。
976	人権	ヴァイツゼッカー：老若を問わず、全員が過去の出来事の結果にかかわり、その責任を負っていることを、自国の人々に向かって指摘し、過去に目を閉ざす者は、現在にも目を閉ざす者であると説いた。
977	人権	ナチスの「ホロコースト」は、科学の装いのもとに、人間を「人種」という観念で選別し、「優越人種」が他の「人種」を支配したり根絶したりできるという思想から生まれた。
978	人権	ハンセン病は感染力も弱く、第二次世界大戦後は治療可能になっていたにもかかわらず、日本では近年に至るまで長い間、患者を強制的に療養所に収容し、終生隔離し続けるという過酷な政策がとられてきた。
979	人権	ユネスコ憲章：戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。
980	人権	遺伝情報の解読により、将来かかりうる病気が予測できると期待されているが、就職や保険加入の際の新たな差別的恐れや、プライバシーの権利の保護をめぐる問題も生じている。
981	人権	育児・介護休業法は、家庭責任を担う役割を男女両方に認め、男性にも女性にも休暇取得の権利を認めている。
982	人権	国際化時代には、たとえ政府による国内措置であっても、そこに明らかな非人道的権利侵害が含まれる場合には、国際的な批判を免れられない。まして内政不干渉の原則だけを楯として国際世論を拒絶することはできないと考えられるようになってきている。
983	人権	差別が続く一因は、差別を生み出した要因や背景が十分に理解されていないことにある。そこで、差別的社会的要因や歴史的背景について学ぶようにする。
984	人権	差別が続く一因は、他者の痛みや苦しみにまで思いが及ばないことにある。そこで、想像力を働かせて、差別すること・されることについて考えるようにする。
985	人権	差別が続く一因は、日常生活の中に存在する差別に気づいていないことにある。そこで、差別とは何かを考え、身近にある差別から目をそらさないようにする。
986	人権	児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)は、子どもたちの完全で調和のとれた発達を促すために特別な保護を与える必要性を認識し、子どもへの差別を禁じ、その自由と権利を実現することを宣言している。
987	人権	児童の売買や児童労働は当事国では問題化しにくいから、国際的な調査とそれに基づく支援が不可欠である。
988	人権	世界人権宣言は、第二次世界大戦後に諸国民の友好関係の発展を奨励し、世界のすべての人が、人種、皮膚の色、性、宗教などによって差別を受けることなく、生まれながらに平等であることを主張している。

	小テーマ	説明
989	人種	ハンナ＝アレント： 孤立して無力感に囚われた大衆が、帰属感を求めて人種主義に吸収され、全体主義が発生する。
990	正義	アクション映画では、敵役やその仲間たちが、正当防衛とは言えないような理由で、主人公に殺されてしまうことがある。こうした問答無用のやり方は相手に弁明の機会が与えられていない点で、正義に反している。
991	正義	ロールズ： 全員に等しい機会が与えられた公正な競争であっても、社会的格差が生じることはある。もしそうした競争が社会の中で最も恵まれない人々の暮らし向きを改善しないならば、社会的格差は是正されなければならない。
992	正義	ロールズは、自由や富など、各人がそれぞれに望む生を実現するために必要な基本財を分配する正義の原理を、社会契約説の理論に基づき探究した。
993	正義	勸善懲惡をテーマとする時代劇は、今も根強い人気がある。これは、「悪はそれに見合った罰を受けるべきだ」とする正義の感覚が我々にあり、それが満たされるように感じられるからでもある。
994	正義	政治哲学者ロールズは、「自分がおかれた具体的状況を知らない」と仮定して、どんな社会のルールが適切か考えるべきだ」と説いた。
995	生きがい	神谷美恵子は、『生きがいについて』で、自分の存在が誰かのため、何かのために必要だと目見することで張り合いをもつて生活できると述べた。
996	生きがい	神谷美恵子は、ハンセン病患者との出会いの中で、生きがいを喪失した絶望感と生きがいを見いだした至福感とに接した体験に基づいて、物質的な充足とは次元を異にする精神的世界の価値の大切さを説いた。
997	生命	シュヴァイツァー： 人間も生物であり、生きるために他の生き物を傷つけざるをえない。しかし、倫理的な存在として、人間はすべての生命ある存在を愛さなければならない。この葛藤の中で各人の責任において行動を決定するのである。
998	生命	シュヴァイツァーは「生命への畏敬」を道徳の根本原理とし、人間の生命ばかりかあらゆる生物の生命を守れと説いた。
999	生命	緩和ケアが改善しようとしているクオリティー・オブ・ライフには、患者本人だけでなく、患者をとりまく家族の生活の質も含まれる。
1000	生命	緩和ケアという考え方は、治療の間に変化する患者のニーズにこたえるために医療従事者と患者のコミュニケーションを重視している。
1001	生命	緩和ケアは、末期治療に限定されるものではなく、治療の過程に生じる様々な苦痛を和らげようとするアプローチである。
1002	生命	抗生物質の発達により感染症は減少したが、院内感染の問題をきっかけに厳密な管理体制の必要性が認識され、医療機関における衛生上の管理規則や取扱い業務の体制が改められつつある。
1003	生命	人のクローン個体作製のような先端的医療技術の場合には、それを切望する人が多くても、社会的倫理的な検討が必要である。
1004	生命	体外受精などの生殖技術の登場によって、不妊を治療の対象とみる捉え方が広まってきたが、同時に、この技術によって家族のあり方に今後根本的な変化が起きる可能性があるも生み出している。
1005	聖徳太子	聖徳太子が記したとされる「十七条憲法」：心のなかに怨みを抱かず、怒りを棄てよ。人はそれぞれ自分が正しいと思い他人が間違っていると思ひ込む。しかし自分が必ずしも聖人なのではなく他人が必ずしも愚者なのでもない。ともに欲望にとらわれているの
1006	聖徳太子	聖徳太子の「十七条憲法」第一条は、利害にこだわって他者と衝突するのではなく、親和的關係を結んだうえで話し合いを続けることの大切さを強調している。
1007	聖徳太子	聖徳太子は、現世をはかないものとする「世間虚仮、唯仏是真」という言葉を残した。
1008	西田幾多郎	数学の好きなBさんは、母親が用意してくれた夜食を食べることも忘れて、数学の問題を解くのに夢中になった。これは「純粋経験」の具体例である。
1009	西田幾多郎	赤ん坊のDちゃんは、お腹が空いたのが甘えたかったのか分からないが、母親の胸に抱かれながら一心不乱に母乳を飲んでいった。これは「純粋経験」の具体例である。
1010	西田幾多郎	天才画家と呼ばれるCさんは、風景画の制作に没頭したが、それはあたかも風景の方が彼を突き動かして描かせているかのようだった。これは「純粋経験」の具体例である。
1011	西洋	「嘘つきはスネオでしょ。スネオとノビタのうち一人が嘘つきで、ノビタは嘘をついていないんだから」というのは、演繹法の例である。
1012	西洋	ルネサンスや科学革命を経た西洋は、地球上で政治的、経済的に支配的地位を占めるにつれ、自らの優位を誇るようになっていった。
1013	青年期	かつては一般に、家族は子だくさんであったが、現代では、経済水準の向上と少子化が進むなかで、親の関心が子どもに過度に集中して、子どもの自立が妨げられる事態が起きている。
1014	青年期	かつては一般に、子どもは養育期間を終えると通過儀礼を経て地域社会の一員に組み込まれたが、現代では、人々の生き方が多様化したためにいつまでも自分の進路を決定せずにいる青年が増加した。
1015	青年期	かつては一般に、娘よりも息子のほうが優遇されていたが、現代では、少なくとも戦後に改正された民法によれば、娘と息子との間で財産相続の権利や親を扶養する義務の面で区別はまったくなくなった。
1016	青年期	ライフサイクルとは、それぞれの発達段階における他者や社会とのかかわりを重視しながら、課題を達成し成長を続ける、人の一生である。
1017	青年期	レヴィン： 人が自分の行動を選択する場合、その人の所属する集団の価値観から強い影響を受けるが、生活空間が大きく変化する青年期においては、子どもの集団にも大人の集団にも属することができず、中途半端な状態に陥る。
1018	青年期	現代の精神分析学の立場から自己の問題を捉え直した思想家にエリクソンは、各人が自己の同一性を形成していく青年期を、全生涯にわたって人格的成熟を遂げていく上で重要な段階であると見なした。
1019	青年期	社会のなかでの青年期の自己形成に関して、若者たちのアイデンティティの形成には、アニメやロックミュージックなどのようなサブカルチャーが影響を与えている。
1020	石門心学	石田梅岩が主張した「正直」は、清明心と称された考え方の影響を受けたもので、自らの心のあり方に力点が置かれていた。そして「正直」に立ち返るために梅岩が重視した「儉約」も、物と人を活かす「道」として位置づけられており、現在の理解とは異なっている。
1021	石門心学	石田梅岩は、神道や仏教、儒教と老荘思想などを取り入れ、独自の実践的哲学である心学を打ち立てた。
1022	戦後	丸山真男が戦後の日本人の課題として考えたのは「他者を他者として理解し、また自分の中に巣くう偏見につねに反省の目を向けること」である。自主独立の精神をもつ個を確立しなければならない」ということであった。
1023	禅	鈴木大拙は、若いころに西田幾多郎と出会い、友人として切磋しつづ、禅思想の近代的研究に先鞭をつけ、それを広く海外に紹介した。
1024	大衆	フロム： 現代人は社会の束縛から解放されて自由な個人になったが、まさにそれゆえに耐えがたい孤独に陥り、強力な指導者に隷属したり均質な社会のうちに埋没したりすることによって再び自由から逃れようとする傾向をもつ。
1025	大衆	リースマン： 内部指向型が支配的な人間類型だった時代は終わり、現代では、漠然とした不安から他者の承認を求め、自分の価値観にこだわらず他人と同調して生きる他人指向型が支配的な人間類型になりつつある。
1026	大衆	他人指向型とは、リースマンによって名づけられた性格類型で、大衆社会における孤独と不安から、他者による承認を強く求め、その評価基準に身を委ねて他者に従う性格のことである。
1027	大衆	大衆は、有名店に行列を作る人々のように、同時代の他人の考え方や社会的行動と同調しようとする人々によって形成される。
1028	男女	フェミニズムとは、一見目明かな文化的価値観や社会構造の中に性をめぐる支配が存在していることを明らかにし、性差別的撤廃を求めぬ思想
1029	男女	フェミニズムは、女性の権利拡張を進めるだけでなく、ジェンダーに基づく差別や偏見を問い直している。
1030	男女	マスメディアには男女の役割に関するステレオタイプ化した描写や表現が多く、性別役割分業の再生産が懸念される。マスメディアは社会的責任を認識し、性別役割が固定化されない描写や表現をする必要がある。
1031	男女	介護休業や育児休業の取得は、職業生活と家庭生活の両立のために不可欠であり、パートタイム労働でも認められている。
1032	男女	女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女子差別撤廃条約)は、社会と家庭における伝統的な性別役割を変更することも、男女の完全な平等を達成するためには必要であると主張している。
1033	男女	女性は、結婚や子育てを理由に職場で差別的な待遇を受けることが多かった。今後は、子育てを男女で分担していくだけでなく、社会もまたそれを支援する措置をとり、女性が働きやすい環境をさらに整備する必要がある。
1034	男女	昇進の条件として転勤を要求するなど、女性が受け入れにくい要件を課すことは、格差を生む結果になるので、注意が必要である。
1035	男女	多くの職場で女性の採用や管理職への登用があまり進んでいない。男女共同参画社会の形成理念に基づき、女性の働きやすい職場への環境整備および女性の採用・登用を推進する必要がある。
1036	男女	配偶者からの暴力を防止し被害者を保護するために、暴力被害者を発見した人には配偶者相談支援センターへの通報が求められている。

	小テーマ	説明
1037	中国	「孝」という徳目が、父母や祖先に対する敬愛の念を説く点は、近世の理解とあまり変わっていないように見えるが、「孝」は人間関係を示す徳目にとどまらずに、天地万物の根源的「道」を示すものと受けとめられる場合があった。
1038	中国	「性悪説」を唱えて孟子を批判した荀子は「わが身が真実にならないうが恥である。他人に信じてもらえないことは恥ではない」として、
1039	中国	「知行合一」とは、「良知を發揮することが聖人の字向であり、知るべき道理と実践主体とを分けてはならない」という王守仁(陽明)の立場である。
1040	中国	「万物を利し、常に人が嫌う低い地に行き、いかようにも対応することのできる水のような生き方」というのが、老子が説く「争いを避ける生き方」である。
1041	中国	『老子』は、人間は自然に身を任せ、柔和で謙虚な心をもつことによつて初めて、道になつた真実の在り方に復帰することができることを教えている。
1042	中国	すべての人に、他人の不幸を憐れむ心、善悪を見分ける心などといった四端が生まれながらに具わっている。これらは仁・義・礼・智という四徳の芽生えであり、この四端を推し広げていくことで人は善を実現できる。
1043	中国	韓非子は、「孝は国家秩序と衝突するものであるから、為政者が孝を尊重するのは国家の混乱を招くだけである」と説いた。
1044	中国	孔子が説いた仁の実践とは、「自分勝手な欲望に打ち勝ち、古の理想的な行動基準に自分を従わせる」というものであった。
1045	中国	孔子は、人間が従うべき正しい道理として人倫の道の重要性を説くとともに、為政者が最高の徳である仁を目指して修養し、道徳の權威によつて民を統治すべきであるという徳治主義を提唱した。
1046	中国	朱子(朱熹)は、心が弛むのを警戒し常に覚醒させようとする敬の実践と、事物に内在する理を体験的に窮めてゆく実践とをともに重視するよう説いた。
1047	中国	朱子学の「理気二元論」では、人間を言ひ万物は「氣」で構成されるが同時に、その存在の根拠および道徳的規範が、「理」として賦与されている。
1048	中国	朱子学は、心を統御し専一にする敬を重んじ、あるべき道としての理を窮め、天理に合致した聖人になることを理想としていた。伊藤仁斎は、当初朱子学に傾倒して聖人になることを目指し、全精力を傾けたが、天理に合致することは実現しがたく、充足感を得られず朱子学は一人一人の道徳的な完成がそのまま理想社会の実現に繋がると説いており、戦国の乱世を経て安定した秩序ある社会を待ち望む人々に対し、仏教に代わる新時代の指導理論という役割を担って登場した。禅僧であった藤原惺窩が還俗して朱子学者となったことは、そうした事態を象徴する回期的事件であった。
1049	中国	朱熹によれば、人の本性は万物と共通の理であつて善なるものだが、肉体を構成する気によつて乱されており、悪の存在はその乱れの中である。
1050	中国	儒家は、家族に対する親愛の情こそが社会関係の基本であり、社会関係の様々な局面にそれを広めていくことが、人として生きる道であると主張した。
1051	中国	儒学の説く「五倫」とは、父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信である。
1052	中国	儒学を中国生まれの思想とし、日本の優位を主張した垂加神道を始めとして、中国への距離感を深めていく様々な思想が登場してくる。
1053	中国	儒教の仁は近きより始まるもので、まず近親に対するものであるが、墨家の兼愛は無差別の愛であり、親疎の関係に基づくものではない。
1054	中国	柔弱謙下を説いた老子は、他者と争わず水のように柔軟に生きることを主張した。
1055	中国	性即理の認識に基づき、人間は努力すれば聖人になれると考え、物の理を窮めるといふ格物窮理を説いたのが、朱子の学問修養論である。
1056	中国	荘子によれば、この世界は、道がおのずから現れたものであり、そこには対立や差別はない。この認識に立ち、一切の欲望や分別から自由になった人が真人である。
1057	中国	荘子によれば、この世界は、道がおのずから現れたものである。己の心を虚にして、心身とも天地自然と一体になる境地が理想である。
1058	中国	荘子によれば、この世界は、道がおのずから現れたものであるのに、人間がそれを有用だとか無用だとか判断するのは、自己の価値観に囚われているためである。
1059	中国	荘子は、胡蝶の夢の寓話のなかで、蝶と自分の区別はないと説いた。さらに、是非や善悪などの対立は相対的なもので、人為や対立を超えたといふ絶対的世界こそ真実だとし、この世界の有様を万物斉同と呼んだ。
1060	中国	荘子は、老子の道概念をさらに発展させ、人間の主観に基づき相対的な判断を超えて、事物が絶対的同一性を共有する万物斉同の道の本質とした上で、これと一体となった生を人間の理想とした。
1061	中国	他者に対する思いやりを怨と位置づけた孔子は、「直を以て怨みに報ゆ」と言った。
1062	中国	墨家は、平和主義者の立場から人民を不幸にする侵略戦争を否定するとともに、自他を区別せず広く平等に愛するよう説いた。
1063	中国	墨子のいう兼愛は、社会の構成員が自利に囚われず互いに利益を与え合う関係を作り上げることを伴うものである。
1064	中国	孟子は、「王が徳に反する政治を行うなら、民衆の支持を失い、天命が別の者に移る」という易姓革命を唱えた。
1065	中国	孟子は、「人間本来の心は善であるが、養い方を間違えればそれは失われる」と考えた。
1066	中国	孟子は、五倫を通じて様々な身分や立場の違いを明確にする一方、「人に忍びざるの心」をよりどころに、人間は生まれながらにして善なる性をもつと主張している。
1067	中国	孟子は孔子の思想を受け継ぐ際、仁と礼のつち前者の意義を刀説したが、後者を強調した荀子はいくつかの点で孟子と正反對の具象に達した。
1068	中国	老子によれば、道とは万物を生育する根源であり、絶えず移り変わる人間の幸不幸を超えた絶対的なものである。
1069	中国	老子は、「水のように柔弱なあり方に従い、人からさげすまれる地位に甘んじてこそ、真の勝利者となることができる」と説いた。
1070	中国	老荘思想における「道」は万物の根源であり、天地に先立って生じ、感覚では捉えられず、言葉では表現できないものである。
1071	中国	荀子の説いた性悪説は、一人では弱い人間が、規範である礼に従って善なる存在へと自己変革し、他者と調和しながら共同体の中で生きることを目指すものであった。
1072	中国	荀子は、「人に善があるのは、曲がった木が矯め木や蒸気でまっすぐになるのと同様に、後天的な矯正によるものである」と主張した。
1073	中国	荀子は、人間の本性は悪であるという性悪説の立場に立って、争乱の原因となる人々の欲望や利己心を矯正するために、社会規範としての礼の遵守を人道の中心に据えるべきであると主張した。
1074	中国	日本の伝統思想には、時代の制約を強く受けたために、私たちが克服すべき要素も多分に含まれている。伝統を受け継ぐとは、常にこつたことと自覚的に向かい合うことを意味している。
1075	伝統思想	日本の伝統思想は絶えず異文化と接触していくなかで、新たな要素を受け入れながら更新される側面をもっている。こうして、伝統思想に新たな生命が吹き込まれるのである。
1076	伝統思想	田中正造 田中正造は「民を殺すは国家を殺すなり」と訴え、農民の立場から公害反対運動を行った。
1077	田中正造	田中正造は「民を殺すは国家を殺すなり」と訴え、農民の立場から公害反対運動を行った。
1078	田中正造	田中正造は「民を殺すは国家を殺すなり」と訴え、農民の立場から公害反対運動を行った。
1079	道徳	ハーバースによるカントへの批判：道徳の問題は、対話的理性に基づく共同討議によって論じられるべきだが、カントの場合、合意という要素が考慮されていない。
1080	道徳	道徳的責任を考える際、自律的個人と他者との信頼関係をともに考慮することが必要である。これら二つの条件のうちいずれか一方を欠いても、現代社会の諸問題に誠実に対応していくことはできないからである。
1081	道徳	道徳的責任を考える際、自律的個人のみを重視することも、他者との信頼関係のみを重視することも問題である。それらは同じ事柄ではないが、必ずしも排除し合うものではなく、補い合う部分をもっているからである。
1082	内村鑑三	内村鑑三は、「イエスと日本は矛盾するものではなく、近代化の中で混迷する日本人の精神的再生のために、イエスへの純粋な内面的信仰が大切である」と説いた。
1083	内村鑑三	内村鑑三は、「人間は、神の前に独り立つ存在であり、教会や儀式に囚われず、直接聖書を読むことに基づく信仰を重んじるべきである」と説いた。
1084	内村鑑三	内村鑑三は、「日本は純粋な信仰が行われ信義を重んじる国であり、拜金主義や人種差別が蔓延する外国よりも、真のキリスト教が根づく国である」と説いた。
1085	南北問題	発展途上国に赴き、農業や技術の指導を行う青年海外協力隊の活動もボランティア活動と見なすことができる。
1086	南北問題	発展途上国の貧困問題は、女性が低い地位におかれ女性の能力が社会的に活かされていないことと密接に関連している。
1087	南北問題	発展途上国の貧困問題は、人口増加のため自然利用が再生力を超えて進行し環境が悪化したことと密接に関連している。
1088	南北問題	発展途上国の貧困問題は、数品目の第一次産品の輸出に頼る経済構造から脱することができないことと密接に関連している。

	小テーマ	説明
1089	南北問題	発展途上国の貧困問題は、独立を達成した後も内戦や国境紛争など政治的混乱が続いていることと密接に関連している。
1090	南北問題	発展途上国への技術の導入に関して、近代的な生産技術の導入により、いくつかの地域では、自然と共生してきた共同体が崩壊し、熱帯林などの自然の破壊も進行している。
1091	能力開発	セブに対し、自ら価値があると認めるような諸目的を追求する自由、すなわち潜在能力を等しく保障することが重要であると指摘した。
1092	非暴力	ガンディーの考えでは、真理を把握し実現するための闘いにおいては、一切の生命を同胞と見なして、あらゆる暴力に反対するとともに、自分の生命を投げ出してでも他者に最大の利益を提供しなければならない。
1093	非暴力	ガンディーの非暴力主義とは、「暴力を用いず、しかし決して相手に屈服することなく、非協力を貫き通すことによって、相手の良心に訴え相手を変えていかなければならない」というものである。
1094	非暴力	ガンディーは、非暴力・不服従の抵抗運動によって、インドを独立に導いたが、その実践の記録と生命尊重の思想は、『目教伝』に示されている。
1095	武士道	江戸時代中期に著された『葉隠』には、「武士の本質は、主君のために潔く命を捨てることにある。だから武士は、平和な時代でも、つねに死を覚悟して毎日を送ることによって自己を捨てきり、主君に仕えなければならない」と記されている。
1096	武士道	山本常朝の『葉隠』は、忠君と死の覚悟を強調する書とみなされがちだが、実際には日常の細やかな人間関係の作法が多く説かれ、日々出会う相手に対し、常に敬意を保って振る舞うべきことが語られている。さらにその実践のため、自らの精神修養が重視され、山本常朝は『葉隠』において、「相手に敬意をもつからこそ、相手への徹底的な配慮に基づき、相手が腹の底から納得するよう意見することが必要である」と述べている。
1097	武士道	「ノーマライゼーション」：高齢者や障害をもつ人々も、そうでない人々も、共に通常の生活ができるようにしていくこと。その上での障壁となる要素を取り除くことが、バリアフリーと呼ばれる。
1098	福祉	障害者や高齢者の社会参加を促進する方策について、いくつかの都市では、床が低い路面電車やリフトが付いたバスを導入して、障害者や高齢者への配慮がなされた町づくりを試みている。
1099	福祉	「慈悲」とは、衆生に楽を与える「慈」、衆生の苦を取り除く「悲」から成る。生けるものすべてに向かった普遍的な心の在り方を表している。自己の悟りを目的とすると言われる上座部仏教に対して、大乘仏教では利他の心としてこの慈悲が強調される。
1100	仏教	「仏や浄土の姿に心を集中させ、それをありありと思い浮かべる」というのが、『住生要集』が重視した修行である。
1101	仏教	「無常・無我の真理を悟り、この世への執着を捨てて心の平静を実現して安らえ」というのがブッダの教えである。
1102	仏教	『歎異抄』によれば、親鸞は「念仏をとこなえることが、浄土に生まれる因であるのか、また地獄に落ちる業であるのか、いずれともまったくわからないのです。たとえ法然先生にだまされて、念仏をとこなえたために地獄に落ちたとしても少しも後悔いたしません」と『歎異抄』の趣旨に照らせば、阿弥陀仏の本願が正しいのであれば、自らの力で善や修行をなさないというような悪人が往生できないわけではない。
1103	仏教	『歎異抄』の趣旨に照らせば、阿弥陀仏の本願への信には、信者自身の救われがたさの自覚と、そうした救われがたい者こそが救われるという信が含まれている。
1104	仏教	『歎異抄』の趣旨に照らせば、阿弥陀仏の本願への信は、最終的には信者一人一人の心の問題であって、一般的な言葉の説明のみで括れる事柄ではない。
1105	仏教	『法華経』による社会的安定の到来を説いた日蓮は、『法華経』は正法を広める者が迫害されることを予言しているとして、度重なる迫害の中で、世を救う己の使命を確信した。
1106	仏教	『法華経』によれば、永遠の生命をもちよるかな過去に既に悟りを開いていた仏は、仮に有限な人の姿をとってこの世に現れ、釈迦仏として人々のために説法したとされる。
1107	仏教	『法華経』は、原始仏教における最古の経典の一つであり、平易な比喩を用いて、簡潔に仏教の世界観や道徳観を説いている。
1108	仏教	ゴータマ＝ブッダとほぼ同時代に生きたジャイナ教の開祖ヴァルダマナ(マハーヴィーラ)は、解脱を目指して徹底した苦行主義に立つとともに、生き物に対する慈悲の行為として不殺生を実践しなければならぬ、と説いた。
1109	仏教	ゴータマ＝ブッダは「人は、苦の原因を認識し執着から離れることによって解脱できる」と説いた。
1110	仏教	ゴータマ・ブッダが説いた「四諦」(四聖諦)のうち「滅諦」とは、煩惱を完全に滅することで、もはや苦が起きることのない平安の境地に達するという真理である。
1111	仏教	ゴータマ・ブッダは、「人間の身体や心的要素は絶えず変化しているのだから、自己を永遠不滅であると錯覚したり、これに固執したりしてはならない」と説いている。
1112	仏教	ゴータマ・ブッダは、王子としての恵まれた生活と森林での苦行という両極端の体験を経て、快楽にも苦行にも偏らない中道こそが悟りへの道であると捉え、弟子たちへの最初の説法において、「二つの極端(二辺)に近づいてはならない」と語ったと伝えられている。
1113	仏教	ゴータマ・ブッダは、享樂的生活とそれを否定する苦行との両極端を退け、八正道の実践を説いた。
1114	仏教	ゴータマ・ブッダは、子どもをなくした母親に、いくら家々を回って探しても指示された芥子粒は手に入らないことを体験させ、家族の死で悲しみ苦しむのは自分ばかりではないことに気づかせ、人は死を免れないことを理解させようとした。
1115	仏教	ゴータマ・ブッダは「現世での境遇は現世での生まれのみによっては決定されず、自己の行為が現世と来世での境遇に影響する」と説いた。
1116	仏教	ゴータマ・ブッダは人間の生き方を捉え直し、諸法無我の教えのもとに、日常における自己の在り方を意識的に転換していくことが悟りへの道であると説いた。
1117	仏教	ナーガールジュナ(竜樹)は、目我への執着の虚しさを説く無我の立場を徹底し、存在するすべてのものには実体がないという空の思想を展開した。
1118	仏教	ブッダの教えをまとめた四諦のうちで道諦とは、快楽にふけることや苦行に専念するという両極端に近づくことなく、正しい修行の道を実践することが肝要であるという意味である。
1119	仏教	空海の考えによれば、顕教は釈迦が人々の能力に応じて説いた仮の教えであるのに対し、密教は、大日如来が自らの境地そのものを説いた秘密の教えである。
1120	仏教	原始仏教では、世界の永遠性や死後の存在に関する問いに答えることは必要ないと考えられ、知的好奇心は制限されたが、これは、この世界で苦悩や欲望にとらわれた人間に必要なのは、その原因を取り除くことであり、それと直接関わらない探求は悟りの妨げになるからと考えられたためであった。
1121	仏教	最澄は仏性について、「すべてのいのちあるものは仏となる可能性を備えている。従って自らがそのような本性を自覚し、さらに修行するならば、誰もが成仏しうる」と考えた。
1122	仏教	釈尊(ゴータマ・ブッダ)は、「自己の存在は、他の存在同様、それ自体として独立に存在するものではないから、自己への執着を捨て去るところに苦からの解放がある」と説いた。
1123	仏教	初期仏教では、輪廻に伴う苦しみの原因を分析し、かつ平安の境地である涅槃に到達するための実践を説く四諦が教えの中心をなしている。
1124	仏教	初期仏教とジャイナ教では、不殺生をはじめとする戒律を守ることによって、欲望にわれない境地を目指した。
1125	仏教	上座部仏教は、ブッダが制定したとされる戒律を忠実に守り、スリランカでは国家の保護を受け、さらに東南アジアに伝わった。
1126	仏教	親鸞には、「どんなに修行を重ねても煩惱を離れることができない凡夫は、阿弥陀仏に自己のすべてを委ねるしか、救われようがない」という、末法の世における「煩惱具足の凡夫」という自覚があった。
1127	仏教	親鸞によれば、煩惱を抱えた人間が浄土に往生できるのは、完全に阿弥陀仏の救済の力によるものであり、自ら唱えているように思っている念仏や信心すら、阿弥陀仏の働きに由来する。
1128	仏教	親鸞は、「末法の世では、私は修行のできない、地獄に墮ちるべき悪人であり、称名念仏によって極楽往生するしか、成仏の途はありえない」と考えた。
1129	仏教	親鸞は、この世で悪信尼を妻としたことで親音菩薩にも結び付き、信でも俗でもない立場から生活に根ざした教えとして他刀信仰を説き始めた。
1130	仏教	親鸞は、成仏を目指して、天台宗の教えに従って修行を行った。しかし悟りを得ることはできず、仏から隔たった自己を見つめて苦悩する。やがてその修行を離れ法然の弟子となった親鸞は、自力では克服不可能な根深い煩惱を抱え、悪人たらざるをえない自親鸞や伊藤仁齋は、当時の主導的な思想が提示していた仏や聖人という理想像と自己との隔たりに苦悩しつつ、人間の真実のありようを新たに見いだした。彼らが私たちに提示していることは、理想像から隔たっている現実の自己を誠実に見つめて人間の真
1131	仏教	大乘仏教における菩薩は、悟りを開こうとする求道者だが、生きとし生けるものすべての救済のためには自己の悟りを後回しにして献身する。
1132	仏教	大乘仏教は、一切衆生悉有仏性という考え方に立ち、救済の可能性を広く認める修行論を説いた。
1133	仏教	大日如来自らも、いのちを身・口・意の三密において展開しており、身・口・意の三つの働きである人間の三業を、大日如来の三密と合一させることを即身成仏という。
1134	仏教	中世の仏教者法然は、「知恵第一」と称されるほど学問や修行に励んでいたが、目指す悟りに到達できず苦しんだ末に、善導が説く浄土の教えを通じて、すべての衆生を救うという阿弥陀仏と出会った。
1135	仏教	
1136	仏教	
1137	仏教	

	小テーマ	説明
1138	仏教	中道はゴータマ・ブッダの実践の特質を示すものであったが、後の大乘仏教の思想家ナーガールジュナ(竜樹)に至って、すべての存在を等しく空であるとする思想の中で新たな意義を獲得した。
1139	仏教	唐に学んだ空海は、帰国後に真言密教を体系化し、大日如来と一体化することで即身成仏できると説いた。
1140	仏教	道元によれば、修行に徹するという事は、自己が世界に向かうありようではなく、世界の方から自己が根拠づけられることを意味する。
1141	仏教	道元によれば、修行に徹するという事は、自己中心的なあり方を去り、自己を包むものとしての世界と真に出会うことにほかならない。
1142	仏教	道元によれば、修行に徹するという事は、本来の自己に目覚めることであり、そのような自己において、身心への執着は消滅している。
1143	仏教	道元は、坐禅の修行は悟りのための手段ではなく、修行を行うことがそのまま悟りであると説き、また洗面や清掃などの日常的な行為も修行とみなした。
1144	仏教	日本臨済宗の開祖である栄西は「末法の時代であっても戒律を守り、坐禅の修行に励み、国家に役立つ優れた人物を育成することが重要である」と説いた。
1145	仏教	比叡山に延暦寺を建立した最澄は、『法華経』の教えを中心とし、すべての衆生に仏性があることを強調した。
1146	仏教	仏と人々を媒介する存在には、官許を得て出家する僧のほか「聖」として敬われる民間布教者があった。代表的な聖の一人であった空也は、阿弥陀仏の名を唱えながら、野原に遺棄された死骸を火葬して歩き、市中で人々を教化して市聖(いちのひじり)と仏教でいう「慢」は、物事へのとらわれに基づく煩惱の一つであり、己を他者よりも優れていると妄想して他人に対して誇りががる心の驕りである。その根本には、諸存在の無常性に気づかない「無明」があるとされる。
1147	仏教	仏教では、「この世のすべてのものは一定の原因や条件に依存して生起するから、独立不変のものは存在しない。にもかかわらず、自己や自己の所有物を変わらない実体と考え執着するところに、迷妄が生まれる」と考えられている。
1148	仏教	仏教においては、正しい言葉を語ることは、いわゆる「八正道」の中の一つとして、正しい実践の重要な要素と考えられている。また、嘘をつかないことは、殺生をしないことなどとともに、いわゆる「五戒」の中に挙げられている。
1149	仏教	法然が天台宗など旧仏教から迫害を受けた理由として、浄土に往生する手立てとして、他の様々な修行法によらずもっぱら念仏を唱えることを説いたことがあげられる。
1150	仏教	法然は、「阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは、文字も読めないような民衆である」と述べ、経典を読むことなど一切必要としない念仏の功德を強調している。
1151	仏教	法然は修行について、「末法の世に生まれて素質の劣る者は、他のすべての教えや修行を差し置いて、ただ他力易行門を選び取るべきである」と考えた。
1152	仏教	密教では、行者がその身と口と心において仏と一体化を遂げるとき、仏としての救済力を他に及ぼさずとして、除災や招福の祈禱をした。
1153	文化	どの文化もそれぞれに固有の価値を備えており、互いの間に優劣の差をつけることはできない、とする文化相対主義は、人が文化の多様性を認め、寛容の精神に基づく異文化の理解へと歩を進める上で、一定の役割を果たす。
1154	文化	レヴィ=ストロース、停滞する未開社会と進歩する文明社会へと世界を二分し、後者が前者を支配し克服すべきだという従来の考えは西洋中心主義に基づく誤りである。未開社会の野生の思考と文明社会の科学的思考との間に価値の差はない。
1155	文化	私たちは、過去において多様な文化をもつ人々の出会いが新たな文化・文明を創造したという歴史的事実を謙虚に学んで、他国の文化や伝統を尊重し、文明間の対話へ向かう道を探らなければならない。
1156	平和	「近代自然法の父」グロティウスは、民族を超えて通用する人類共通の法を探究し、国際平和を説いている。
1157	平和	ラッセル=アインシュタイン宣言は、科学者が核兵器の開発に深く関わってしまったことを反省し、紛争解決の手段としての戦争の放棄を各国に求めたものであった。
1158	平和	ラッセルは、核戦争による人類破滅の危険性を警告する宣言を発し、バグウォッッシュ会議を開催するなど、核兵器廃絶運動に積極的に取り組んだ。
1159	平和	日本は、非人道的な対人地雷の使用・生産・貯蔵を禁止し、廃棄を求める「オタワ条約」を批准し、全面禁止に向けた国際的な動きに貢献している。
1160	北村透谷	北村透谷は、内面の「想世界」に直観される「内部生命」の発露としての恋愛を、現実の世界に対抗する拠点とした。
1161	幕末	佐久間象山が唱えた「東洋道德、西洋芸術」とは、「東洋では道德が優れており、西洋では技術が優れているので、両者を兼ね合わせる必要がある」という意味であった。
1162	民俗学	山鹿素行：忠や義は、万民誰もがなすべきことだが、農工商は職業上余裕なき生活を送っているの、士が代わりに人倫を正す義務を有するのである。
1163	民俗学	折口信夫は、古代日本人の心性に奥深く分け入る方法によって、「まれば」としての神と人々との交流を理論化した。
1164	民俗学	折口信夫は、柳田国男に出会い、彼に学びつつ民俗学と国文学にまたがる研究を行い、日本の神の原像について考察した。
1165	民俗学	先祖と子孫の関係について民俗学者の柳田国男は「先祖の霊は、住み慣れた集落近くの山に留まっているので、子孫は正月やお盆に自分の家に先祖の霊を招いて、共食の儀礼を行う」と述べた。
1166	民俗学	柳田国男によると、「常民」は「死者の霊魂は、村落周辺の小高い丘や森に留まり、一定期間を経て神になる」と考えていた。
1167	民俗学	柳田国男は日本各地の村落社会に赴いて、「家」意識を支える祖先崇拝を調査した。
1168	民俗学	柳田民俗学では、知識人の書き残した文献にではなく、無名の庶民の日常的習慣や儀礼の中に日本文化の真の姿を探求しようとした。
1169	民俗学	柳田民俗学では、日本全国の民間伝承を筆録する運動をすすめ、怪異譚や民話を分析して、庶民の精神生活の実相を明らかにしようとした。
1170	民俗学	柳田民俗学では、日本文化の原風景として、稲作定住農耕民の生活習慣を想定し、その由来を宗教的側面を踏まえて明らかにしようとした。
1171	民本主義	吉野作造の「民本主義」とは、憲法の規定内で民本主義を貫徹させるには、国民の意思がより反映する普通選挙の実施と政党内閣制の実現が望ましいと主張したものである。
1172	明治時代	「門閥制度は親の敵でござる」と語り、古い身分制度を嫌った福沢諭吉は、「日本人が西洋から学ぶべきものは独立の精神である」とした。
1173	明治時代	ロマン主義運動の人々は、旧来の制度や価値観の束縛から脱し、内面の自然な感情や情熱を肯定することを通じて、自我や個性を尊重し解放すべきだと主張した。
1174	明治時代	岡倉天心は『東洋の目覚め』において、「究極と普遍を求める愛の広がりこそは、共通の思想的遺産であり、アジアを欧州から区別できるものである」と主張した。
1175	明治時代	夏目漱石は、「西洋の開化(すなわち一般の開化)は内発的であって、日本の現代の開化は外発的である」と述べた。
1176	明治時代	夏目漱石は個人主義について、「単なるエゴイズムは否定されるべきもので、自己の義務を自覚し、他人の自由をも認める者が、あるべき個人である」と考えた。
1177	明治時代	自己犠牲の精神で生きとし生けるものの幸福の実現を目指したが、宮沢賢治の宗教観であった。
1178	明治時代	新渡戸稲造は札幌農学校に学び、後に米国に渡ってフレンド派(クエーカー)の信仰のあり方に影響を受け、「武士道」の語を海外へ紹介した。
1179	明治時代	森隲外が自らの立場とした「諦念」とは、「自我と社会の矛盾に遭遇したとき、あくまで自己を貫くのではなく、自らの社会的な立場を冷静に引き受けながらも、なおそこに自己を埋没させまいとする立場」である。
1180	明治時代	西村茂樹は、日本の急激な西洋化による道徳秩序の混乱を危惧し、儒学と西洋哲学を折衷した国民道徳を創り出そうとした。そのため、道徳普及団体を組織し、学校教育にも影響力を持つに至った。
1181	明治時代	中江兆民「無神論・無靈魂論を標榜する自由なる精神をもって、「自由平等これ大義」と述べ、それに反する帝国主義や専制主義を批判した。
1182	明治時代	中江兆民から唯物論的思想を学んだ幸徳秋水は、社会主義の立場から、当時の帝国主義を「愛国心を經とし軍国主義を緯とする20世紀の怪物」と呼んで批判した。
1183	明治時代	中江兆民によれば、人民の権利には、民衆が国家から勝ちとる権利と上から民衆に恵み与えられる権利とがある。為政者が権力を振りかざし、自由権を民衆に返そうとしないから、民衆が動乱を起こして権利を回復しようとするのである。
1184	明治時代	中江兆民は『一年有半』『続一年有半』を著し、神や靈魂の存在を否定するなど、独自の唯物論を述べた。
1185	明治時代	中江兆民は『三酔人経綸問答』を著し、恩賜の民権から立憲君主制を経て回復(回復)的民権に移行すべきだと説いた。
1186	明治時代	

	小テーマ	説明
1187	明治時代	中江兆民はルソーの『社会契約論』を『民約訳解』として翻訳するなど、急進的なフランス啓蒙思想の移入に努めた。
1188	明治時代	中江藤樹は、「すべての人の心には、神妙不測の孝の徳が具わっている」と説き、その孝に依拠して身を立てて道を行つことを修養の根本とした。
1189	明治時代	南方熊楠：生態学的な視点から、神社祭祀による神社の統廃合によって鎮守の森が破壊されることに反対した。
1190	明治時代	日露戦争の際に非戦論を唱えた内村鑑三は、「国を愛するとは、平和を守って日ごろから勤勉に正しく生きることだ」と説いた。また、聖書の言葉に直接向き合うことを重視し、イエスと日本に自分の生涯をささげることを誓った。
1191	明治時代	武者小路実篤は、学生時代にトルストイの思想に出会い、その人道主義に共感して、理想社会を目指して「新しき村」を建設した。
1192	明治時代	福沢諭吉の構想する近代的人間とは、文明の根本にある自立の精神を内に保ち、自らの判断力を養い実理を窮めて文明社会を実現する人間であった。
1193	明治時代	福沢諭吉は、「我が国には、隣国の開明を待って共にアジアを繁栄させる時間的余裕はない。むしろその隊列を脱して西洋の文明国と進退を共にすべきである」と主張した。
1194	明治時代	福沢諭吉は、「後れている文明は進んでいる文明に支配されるため、人々はまず日本の独立に心を向け、西洋文明を摂取しなければならぬ」と説いた。
1195	明治時代	福沢諭吉は、「儒学は変化を好まず、古代に政治の模範を求め、世の中を停滞させる弊害を持つ」と批判した。しかし一方で、人心を野蛮から文明へと洗練発展させた歴史的功績については評価した。
1196	明治時代	福沢諭吉は、「中国や朝鮮への接し方は、隣国であるからといって特別に配慮する必要はない。まさに西洋人の両国への接し方に倣って取り計らうだけである」と主張した。
1197	明治時代	福沢諭吉は、「文明は麻疹(はしか)のようなものだが、単にこれを防がないだけでなく、努めてその蔓延を助け早急に国民を文明化するのが智者の役目である」と主張した。
1198	明治時代	福沢諭吉は、「門閥制度は親の敵で御座る」と述べ、血筋や家柄によってではなく、教育を通じて個人が獲得する知識や能力によって社会的役割が配分されるべきことを強く主張した。
1199	明治時代	福沢諭吉は、当時の世界を野蛮・半開、文明の三つに分け、ヨーロッパ諸国とアメリカを文明国、日本や中国などアジア諸国を半開の国としたが、それは相対的な分類であって、ヨーロッパやアメリカの文明は日本が文明化するための当面の目標なのだ、と唱
1200	明治時代	平塚らいてうは、『青鞜』を創刊して女性たちに自立への覚醒を呼びかけ、また、女性参政権獲得の運動を展開した。
1201	明治時代	明六社の森有礼は、夫婦の相互的な権利と義務に基づく婚姻形態を提唱し、自らも実践した。
1202	明治時代	明六社の西周は、「哲学」、「理性」等の訳語を案出し、西洋哲学移入の基礎を作り上げた。
1203	理性	カントによれば、人格は絶対的価値をもつものであり、それ自身は決して単なる手段となることのないものである。彼は、すべての人間が互いの人格を目的それ自体として取り扱わねば、理想の社会が実現されると考えている。
1204	理性	カントによれば、人間は、自律的な行為をなす主体だから、これを単なる物件と厳しく区別し、尊重しなければならない。
1205	理性	カントによれば、人類の究極の使命は、道徳的完全性と人格の尊厳性を実現することである。我々がこのような使命を自覚して、道徳的に一步一步向上することによって、理性的存在者の社会を作り出すべきだと説いている。
1206	理性	カントによれば、道徳法則に従って行為しても現実の幸福と直接に結び付くわけではない。彼は「幸福を求めるのではなく、幸福に値するものとなれ」と述べ、つねに自らを道徳的立法者としてみなして行為すべきだとしている。
1207	理性	カントによれば、道徳法則を立てる理性の働きは自律的なものであり、個人々の状況によって異なることはない。
1208	理性	カントの『永久平和のために』では、「常備軍があると、結局は平和のほうが短期の戦争よりも重荷になる」と書かれているが、これは、「常備軍があると相手の国よりも重荷を充たせようとするため、戦争が起こらなくても経済的支出は増大し続ける」という側面がある。子どもや老人を大切にすることを姿勢が伴っていないならば、そうした訪問活動は決して行うべきではない。
1209	理性	カントは、「永遠平和を実現するためには、国家の進む方向を国民自身が決定する体制をもつ諸国家による平和連盟が必要である」と考えた。
1210	理性	カントは、人間の意志は道徳法則を義務として受け止め、かつそれに従うところに理性的存在としての人間の自由があるとしたが、ヘーゲルは、カントにおける理性と自由との関係がなお抽象的なものにとどまるとした。
1211	理性	カントは、道徳法則が我々自身の理性によって立てられるものであり、それに自ら従うことが自律的であると考えた。
1212	理性	カントは、良心を「人間の内在する法廷の意識」と捉え、その法廷において自己のあり方が問われると考えている。
1213	理性	カントは「人格には絶対的な価値があるのだから、自分と他人の人格を目的として尊重するべきだ」と考えた。
1214	理性	ドイツの思想家ホルクハイマーによれば、近代の啓蒙的理性は、人間が自然を支配するための道具となったが、この理性が作り出した科学技術や社会体制は、かえって人間を支配するようになった。かくして、自己批判という本来の働きを失って道具と化した理性が、現代文明の野蛮化と人間疎外の状況を生み出している。
1215	理性	ハーバーマースは、「人は、互いに合意に至ることを可能にするような理性をもっている。したがって、そのような理性を対等な立場が保障されたうえで使用するならば、万人が同意することができる社会のルールを発見できる」と考えた。
1216	理性	ハーバーマースは、コミュニケーション的合理性により、議論を通じて強制を伴うことなく合意をつくりだすことができると論じ、人と人とのコミュニケーションにおいて働く対話的理性に目を向けた。
1217	理性	パスカルが「人間はひとくきの輩にすぎない。自然のなかで最も弱いものである。だが、それは考える輩である」と書いているのは、「人間は、広大な自然の中にあつて、ひとくきの輩のように小さな存在である。しかし、人間は思考し、自分が死ぬことも宇宙の広大さも知っている故に偉大である」という意味である。
1218	理性	パスカルがのこした多くの警句のうち、習慣について述べたものとして、「川一つで仕切られる滑稽な正義よ。ピレネー山脈のこちら側での真理が、あちら側では誤謬である」というものがある。
1219	理性	パスカルによれば、賭けや娯楽などの「気晴らし」は、孤独で不安に満ちた人生から目をそらさせてくれるが、ついには自分を見失わせてしまう。
1220	理性	ホルクハイマーやアドルノは近代的な理性について、「自然を客体化し、技術的に支配することを可能にする能力として、手段的・道具的なものである」と考えた。
1221	理性	近代の理性がもつ合理化の働きは、それ自身肯定的な面と否定的な面をもつ。そのことを踏まえた上で、我々は理性の新たなあり方を模索していく必要がある。
1222	理性	近代理性は、自由を実現する主体として優越的な地位を与えられてきたが、様々な問題の源ともなっている。今後は、自由の主体としての理性を捉え直し、対話によって生きる道を模索すべきである。
1223	理性	近代理性は、人々が旧来の社会的な束縛から脱して自律性を獲得することを可能にしたが、しかし他方では、共同体を支えていた世界観の崩壊をもたらした。
1224	理性	人間の心には復讐心が生まれることがある。だからこそ、ただ復讐を非難したり寛容の心を唱えたりするだけではなく、自分自身の復讐心と向き合う努力が求められる。
1225	理性	人間を「理性的動物」とする定義を再検討したカッシーラーは、「人間は、シンボルを介して世界を理解し、芸術や宗教を作り出す存在である」とした。
1226	良心	自己省察の大切さを説くモンテーニュは、「良心は我々を恐怖で満たすだけでなく、確信と自信で満たす」と述べている。
1227	良心	良心とは、個人の内なる道徳的な反省の意識のことであるが、それが誤っていることもある。したがって、他者や社会と常に向き合うことで、個人は自己の良心が正しく働くようにすべきである。
1228	恋愛	近代以降、恋愛は自我の自由や独立との関わりにおいて見いだされたが、それはまたエゴイズムの自覚や、自我と社会との葛藤という、近世以前には見られなかった新たな問題を生み出すこととなった。
1229	労働	高齢者や女性を含めて、人々が働きやすい環境を整えていくとともに、仕事や家事を分かち合っていくことが求められる。そのことによって、充実した家庭生活や自ら選んだ活動を行いやすい状況を作ることが可能になる。
1230	和辻哲郎	人間を「間柄的存在」と捉えた和辻哲郎は、「対なる男女は、それぞれが独立した個人でありながら、また一つの共同存在でもある。その共同体は、不信や裏切りという個の背反の可能性を孕みながら、個がそうした己を否定して自他の合一を目指すところに結ばれた具体的な人間関係にある。
1231	和辻哲郎	和辻哲郎は、人間同士の多様な関係を統一・分離・結合という動的な連関と捉え、社会と個人との対立的な統一を実現しようとする実践的な努力の大切さを強調した。
1232	和辻哲郎	和辻哲郎は代表的著作『風土』の中で、自然環境と深い関わりをもつ人間の存在や文化のあり方を「風土」と捉え、「モンスーン型・沙漠型・牧場型」の三つに分類した。
1233	和辻哲郎	
1234	和辻哲郎	

●受験の真理を知ろう

受験で一番大切なのは、難しい問題が解けることでなく、易しい問題を間違えないことだ。入試問題の平均点は通常6割程度、ということは、半分以上の人が解けているということであり、ほとんどの人が解けないような問題はまず出題されない。特にセンターでは深読みはダメ。出題者は「こんな問題、普通の高校生に解けるのか。(おまえの問題作成能力は低いんじゃないか)」という批判を恐れるから、二通り勉強してきたのに知らない用語や人物が出てくる選択肢があったら、それはまず正解には関係ない。

●受験生の心理を知ろう

得点アップに役立つことは何でもやり、得点力を下げることはやらないこと。実際にはこれはなかなか難しい。人間は自分がかわいいから、自分の感覚を正当化する行動をとってしまう。たとえば、野球で9回裏のラストバッターになりそうな選手がしばしば、1塁ベースにヘッドスライディングする。もしも、駆け抜けたほうが早くベースに到達できるのならば、たとえヘッドスライディングしたい気持ちがあったとしてもその気持ちを抑えて駆け抜けるべきで、それが、得点アップに役立つことをやるということである。(実際には、観客も、ヘッドスライディングする選手を「必死でやっている」と評価してしまうのは、現代の大衆というものへの問題提起になりうるかもしれない。)

「受験で頑張ってるんだから少しくらい自由にしてもいいだろう」と思っている行為(たとえば自習室で菓子を食べるとかスカートを短くするなど)は、実は得点力を大きく下げている。自分のために、これはやめよう。

合格したかったら、まずカタチだ。勉強を始める前に決まった儀式(手を洗うなど)をするのも気持ちの切り替えに役立つ。それから、親と担任にはとにかく感謝しよう。感謝の気持ちが、成功のセルフイメージを高める。

もう一度言うよ。「本当に、できることはすべてやっているか?」

●笑顔の、もっとその先へ。

弱気と遠慮は、受験生の最大の敵である。あと1か月あれば、1週間あれば、1日あれば、1時間あれば、5分あれば、「自分には何ができるのか。」それを常に自分に問え。これ以上がんばったことは今までになかった。と思えるだけのことをやって、大学生になれ。大学合格は人生のゴールではない。

(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)
12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26
12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2
1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9
1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16
1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23
1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30
1/31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6
2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13
2/14	2/15	2/16	2/17	2/18	2/19	2/20
2/21	2/22	2/23	2/24	2/25	2/26	2/27
2/28	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6
3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12	3/13
3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20
3/21	3/22	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27
3/28	3/29	3/30	3/31	4/1	4/2	4/3

